

令和5年度 建工第4号
見附駅周辺整備（東口駅前広場造成）工事

【交通島シェルター】
設計図面

見附市都市環境課

図面リスト

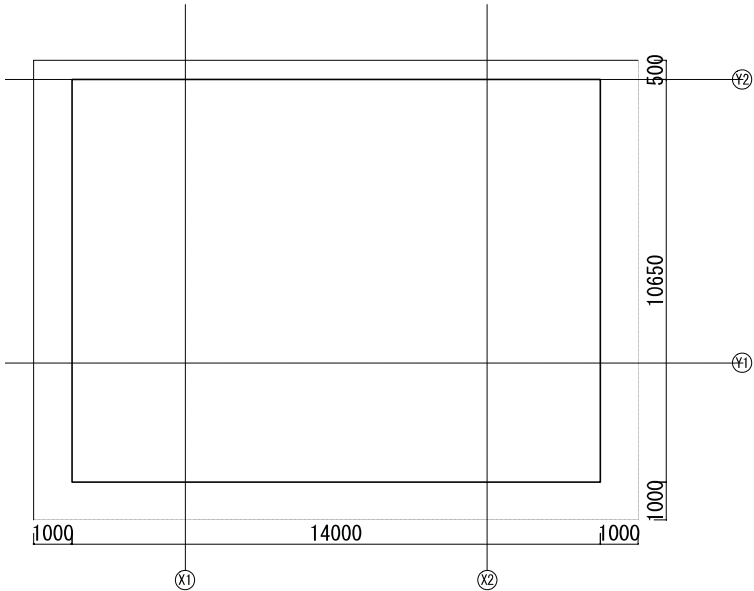
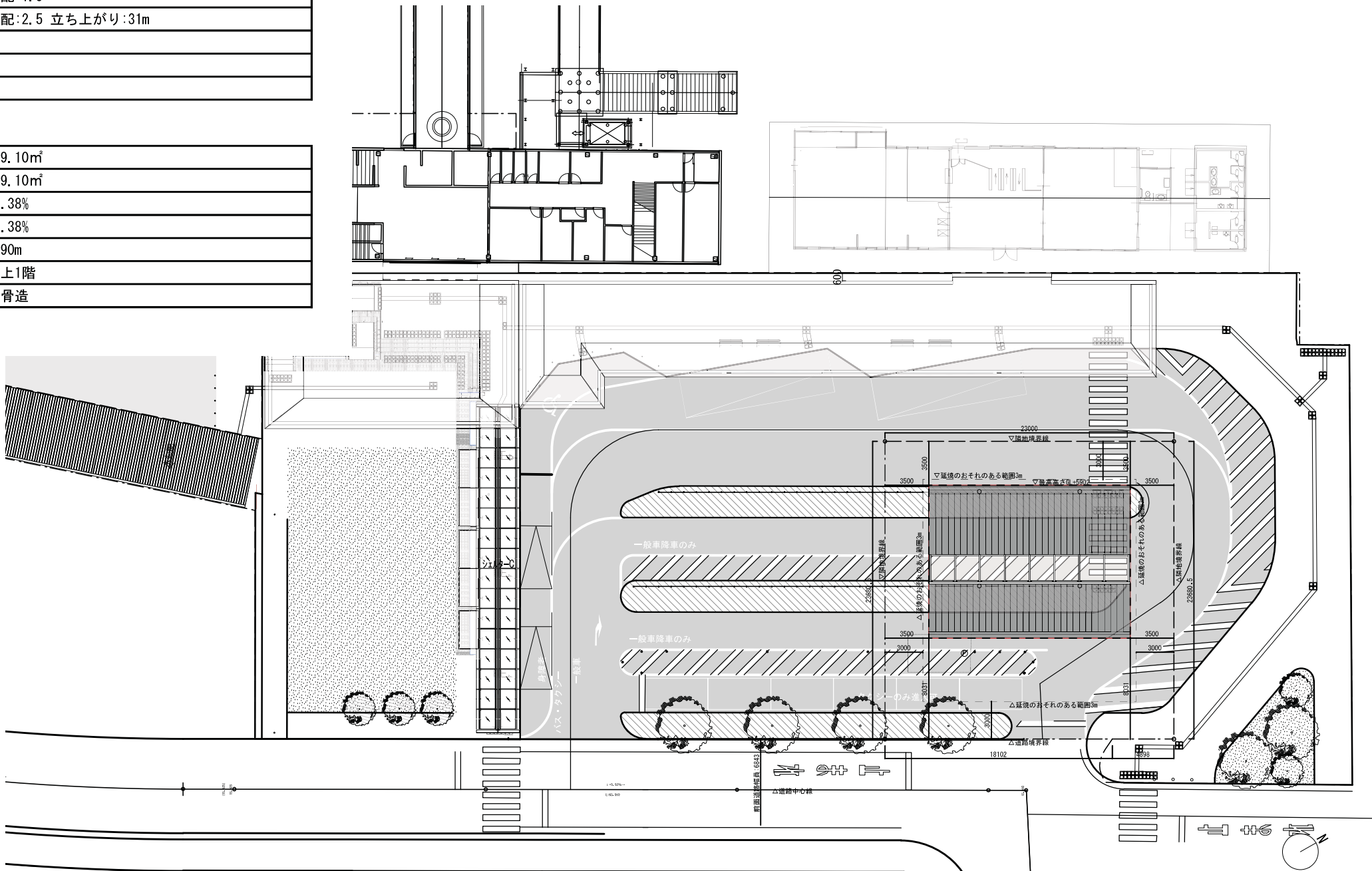
図面番号	図面名称	図面縮尺	備考
A-01	交通島 シェルター 建築概要図・案内図・配置図 ・仕上表・建築面積求積図	1/4000, 1/500	
A-02	特記仕様書(1)	N. S	
A-03	特記仕様書(2)	N. S	
A-04	特記仕様書(3)	N. S	
A-05	交通島 シェルター 平面図・屋根伏図・立面図	1/100	
A-06	交通島 シェルター 断面図・断面図詳細図	1/10・1/100	
S-00	図面リスト		
S-01	構造特記仕様書	N. S	
S-02	RC基準図	N. S	
S-03	鉄骨基準図(1)	N. S	
S-04	鉄骨基準図(2)	N. S	
S-11	地盤柱状図・杭工事突起仕様書	N. S	
S-12	交通島 伏図 軸組図	1/200	
S-21	RC断面リスト	1/60	
S-31	鉄骨断面リスト	1/40	
E-01	照明器具姿図	N. S	
E-02	電灯設備 交通島 シェルター 一平面図	1/100	

〈建築概要〉	
工事名称	見附駅周辺整備（東口駅前広場造成）工事
地番地名	新潟県見附市本所2丁目467-10
主要用途	歩行者用上屋
工事種別	新築工事
工期	2023. 5～
建築主	見附市長 稲田 亮
設計者	一級建築士事務所 有限会社アトリエ・ワン
（連絡先）	東京都新宿区須賀町8-79 tel:03(3226)5336

〈敷地状況〉	
都市計画	都市計画区域
用途地域	商業地域
防火指定	準防火地域
許容建蔽率	80.00%
許容容積率	400.00%
敷地面積	544.64㎡
前面道路幅員	6.843m
北側斜線	—
道路斜線	勾配:1.5
隣地斜線	勾配:2.5 立ち上がり:31m
最高高さ制限	—
日影	—
その他	—

〈規模構造〉	
建築面積	149.10㎡
延床面積	149.10㎡
建蔽率	27.38%
容積率	27.38%
最高高さ	5.90m
階高	地上1階
構造	鉄骨造

仕上げ表		
部位	仕上げ	
屋根1	合わせがら 強化t10+t10	
屋根2	フッ素樹脂加工ガルバリウム鋼板t0.5(5/100勾配 対応品) / 改質アスファルトルーフィング 22kg / 木毛セメント板t15 (2枚貼り) / 野地受母屋材: C-チャンネル 50×150 t3.2@455 / 大梁 (錆止め塗装)	
天井	木材保護防腐塗料塗布 (オスカー3回塗 同等品) / スキ板下見板張り t12w105 / 透湿防水シート / 下地耐水合板t12 / 野縁: 建築用鋼製下地材 C-50×25 @303 / 野縁受: 建築用鋼製下地材 C-12×38@900 (吊りハンガー、吊りボルト供、耐風圧仕様)	
柱	鉄骨部	常温硬化型フッ素樹脂塗装 (指定色) / 溶融亜鉛メッキ/St-Pipe φ355.6/267.4
樋	軒樋	耐酸被覆鋼板 t0.5曲げ加工
	縦樋	常温硬化型フッ素樹脂塗装 (指定色) / 溶融亜鉛メッキ/St Pipe φ76.3
基礎	コンクリート打ち放し	



建築面積/延床面積	
計算式	面積 (㎡)
14.00*10.65	149.10

00 特記仕様書の取扱いについて

1. 項目は、項目番号に、○印をつけたものを適用する。
2. 細目は、●印をつけたものを適用する。
3. その他特記事項は、()内に記載する。
4. 製造会社、施工会社指定については、後欄のメーカーリストに依るものとし、同等品以上と読み替える事も可能である。但し、その使用、採用に当っては、係員の承認を受けるものとする。

01 一般共通事項

1 適用範囲

● 本工事の施工に伴う、提出図書は、下記に定める他、必要に応じて、係員と協議の上、作成するものとする。

2 疑義

● 本工事の設計図書に関する疑義は、工事契約前に、質疑応答書をもって確かめておくものとする。
● 設計図書に記載なくとも、外観上、構造上、設備上当然必要と認められるものは、係員の指示に従い、請負金額の範囲内において施工するものとする。
● 見積図に記載されていることはたとえ見積書において、細目が記載されていなくても責任をもって施工する。

3 優先順位

● 本工事の設計図書等の優先順位は、下記による。
① 現場説明事項(質疑応答書を含む)
② 特記仕様書
③ 各設計図
④ 共通仕様書
⑤ 公共規格及びこれに準ずる規格
(建設大臣官房 官庁営繕部監修 建築工事共通仕様書 H.9年度版)

4 材料試験

● 本工事に使用する材料のうち、係員により指示のあるものに関してはその成績表を提出し、又は係員の認める試験所で試験を行い、確認を受けなければならない。なお試験に要する諸経費は、すべて請負業者の負担とする。

5 提出図書

● 本特記仕様書は、各共通仕様書及び補足事項に記載なき事項を特記するものであり、各工事において、他の工事との関連ある事項は、各々該当の記載事項を参照する。

提出図書	部数	提出時期	備考
1 工事請負契約書	2	契約時	控えとなるもの
2 工事工程表	2	契約後速やかに	ネットワーク工程表
3 現場代理人及び主任技師書	2	H	経歴書 一級建築士証明
4 協力業者名簿	2	H	
5 メーカーリスト	2	H	
6 仮設計図書	2	H	
7 施工図、製作図	2	実施15日前(厳守)	各工事毎
8 工事行程報告書	2	1ヶ月ごと	工事進捗表、写真、日報
9 打合議事録	2	その都度	
10 変更工事見積書	2	H	
11 出来高承認書	2	H	
12 官公署届出書兼控	2	H	
13 材料試験報告書	2	試験後10日以内	
14 工事竣工図	2	竣工時	
15 工事竣工引渡書	2	H	
16 工事竣工図	2	竣工時より20日	
17 工事竣工写真	2	H	カラーキャビネ版(屋内外)
18 工事保証書	2	竣工時	指定ボックス入
19 経リスト	2	H	
20 建物維持管理説明書	3	H	
21 業者連絡先リスト	2	H	

・ 工事竣工図は、黒表紙金文字入製本とし、二部提出する。
・ 竣工写真は、監督員指定の建築写真家によるものとし、アルバム貼付にて提出の事。内観外観共10カット キャビネ版(重要)

6 定例打合会議

● 工事の円滑な進行を計るため、係員の指示により、工事期間中定期的に各工事責任者を招集し、打ち合わせを行うものとする。
● 請負者は定例打合会議々事録をとり、その都度係員の承認を得るものとする。議事録によってのみ既成事実の確認をできるものとする。

7 既設部分との取合

● 既設建物と今回工事の取り合い部分、その他で所りおよび工事の都合などにより破損、損傷させた箇所は、今回工事仕上げ及び、旧工事、仕上同材にて完全に補修しなければならない。

8 別途工事

● 別途工事についての工事行程ならびに、納まり等に関して、別途工事業者と密接に連絡し、調整に当らなければならない。

9 工事保証その他

● 建物竣工引渡後 10 年以内において工事不良のため、生じたと認められる損害は、請負者の負担にて、最速丁寧に復旧する。
● 本工事施工に際しては、本工事現場が、工事による騒音、振動などについて地域規制されていないかを確かめ、規制されている場合は、規制に従い、施工計画を立て、関係官庁の指導を受ける。

10 式典費用

・ 地鎮祭費用を含むこと
・ 請負者は本工事全ての物件に対して事故の負担をもって係員の承認する妥当な金額の損害保険(火災保険を含む)を付し、その写しを提出すること

11 施工の立ち会い

● 次に示す段階の施工には係員の立ち会いを得て施工する。
この場合、請負者は一週間以上前に資料を添えて係員に通知するものとする

02 仮設工事

1 仮囲い

・ 構造: ・ 鋼板製 ・ 木製 ・ その他(ビニール、防音シート)
・ 高さ: ・ 1.5M ・ 1.8M ・ 3M以上
・ その他()
・ 仕上: ・ 仕上なし ・ ペイント仕上
・ その他()
● 範囲: 道路面、および安全上必要と思われる範囲とする。
・ 意匠:

2 係員詰所

・ 構造: ・ プレハブ造 ・ 木造 ・ その他()
・ 規模: ・ 10㎡内外 ・ 20㎡内外 ・ 35㎡内外
・ その他()
・ 備品: ・ 机、椅子、書架及び図面棚、図板、定規、黒板、温度計、テストハンマー、ノギス、安全帽、来客用安全帽、長靴、水平垂直器、ロッカー
・ その他()
・ 設備: ・ 電灯 ・ 給排水、給湯設備 ・ 電話 ・ 冷蔵庫
・ 消化器 ・ インターホーン ・ クーラー
・ その他()
・ 係員詰所は工事打ち合わせに便利ように請負事務所に隣接して建てる。
詰所に係る諸経費は、一切請負者の負担とする。
● 本工事現場に掲示する看板は、大きさ、書体、仕上、取付位置などあらかじめ係員と協議する。
● 利用できる(● 有償 ・ 無償) ・ 利用できない。
● 工地上撤去、移設を要する軽微なものは、本工事の範囲とする。
● 標準 G.L. の決定及び、B.M. の設置は、係員の立会いのもとに行う。
● 本工事の施工に当り、付近住民、隣接建物、工作物、通行人に対して損害を与えないように、必要な保護設備を計画し、係員及び各関係の承認を得て実施する。万一損害を与えた時は、速やかに対応手当、復旧工事をし、これに要した費用は、請負者の負担とする。
● 工事完了後、建物引渡し前に全体の掃除を行い、公道の工事による損傷部は完全に復旧する。

3 看板

4 工事用水電力

5 障害物の処理

6 設計 G.L.

7 保護設備

03 土工事

1 根切り

● 工事着手前に根切方法、山留工法、排水方法、使用機器等を記した施工計画図を提出し、係員の承認を得るものとする。
● 根切完了後、深さ、大きさ、床さらいの状態について、係員の承認を得るものとする。
・ 特殊工法
・ 樹木: ・ 移植 ● 伐採 ・ その他()
● 埋戻し: ● 根切土使用 ・ その他()
● 盛土: ● 無 ・ 有
● 場外搬出
・ 場内堆積 ・ 場内敷均し
・ その他()
● 床付け検査を行う。

2 敷地整理

3 埋戻し、盛土

4 残土処分

5 確認・検査項目

04 地業工事

1 地耐力試験

・ 不要 ・ 必要 ヶ所 詳細は打ち合わせによる
・ 長期支持力 kN/㎡

2 既設杭地業

・ 杭の種類: ・ RC杭 ・ PC杭 ・ 鋼管杭 ・ その他()
・ 長さ等: 詳細については構造設計図特記による。
・ 試験杭: 詳細については構造設計図特記による。
・ アースオーガー工法: ・ 不要 ・ 必要 GL- m迄

3 場所打コンクリート地業

・ 杭の種類: ・ アースドリル杭 ・ ベント杭 ・ 深礎工法
・ その他()
・ 長さ等: 詳細については構造設計図特記による。
・ 使用鉄筋: 詳細については構造設計図特記による。
・ コンクリート: 詳細については構造設計図特記による。
・ 積荷試験: ・ 不要 ・ 必要 ヶ所

4 割り石及び砂利地業

● 地業の種類: ・ 割り石 ・ 砂 ● 砂利 ・ 砕石
・ その他()
● 厚さ: 60mm

5 ラップルコンクリート地業

・ コンクリートの調合: セメント1・砂3・砂利6(容積比)
・ コンクリートと玉石の比率: ・ 1:1 ・ その他()
● 厚さ: 80mm
● 調合: セメント1・砂3・砂利6(容積比) ● Fc = 18/Nmm

6 均しコンクリート地業

7 ポリエチレンフィルム敷き

8 特殊工法

05 コンクリート工事

1 鉄筋コンクリート

● コンクリートの種別: ● 普通コンクリート ・ 早強コンクリート
・ その他()
● 設計基準強度: ● 18N/mm² ・ 21N/mm²
● 24N/mm²
・ その他()
● 混和剤等: ・ 減水剤 ・ 防縮剤 ● AE減水剤
・ その他()
● セメント: ● 普通ポルトランドセメント
・ 混合セメントA種
● 粗骨材: ・ 川砂利 ・ 砕石 ・ その他()
● 細骨材: ・ 川砂 ・ 山砂 ・ その他()
● コンクリートの供給: ● レディミックスコンクリート
・ 現場コンクリート
・ その他()
● 水セメント比: ● 65°wt以下 ・ 70°wt
・ その他()
● 塩化物規制: ・ 0.3kg/コンクリート㎡以下
・ 0.3kg/㎡〜0.6kg/㎡
・ 粗骨材: ・ 人工軽量骨材 ・ その他()
・ 細骨材: ・ 人工軽量骨材 ・ その他()
・ 設計基準強度: ・ 18N/mm² ・ 21N/mm²
・ 24N/mm² ・ その他()
・ 気乾比重: ・ 1.8以下 ・ その他()

2 軽量コンクリート(構造用)

3 寒中コンクリート

・ 適用範囲: 年 月 日〜 年 月 日

4 無筋コンクリート

・ 土間コンクリート: Fc= N/mm² スラップ15cm以下とする。
・ 防水押え床かさ上げコンクリート: Fc= N/mm²

5 軽量コンクリート(非構造用)

・ 基準強度: ・ 13.5N/mm² ・ 15N/mm² ・ 18N/mm²
・ 気乾比重: ・ 1.8 ・ 1.2 ・ 1.1 ・ その他()
・ 粗骨材: ・ 火山砂利又は石灰ガラ ・ 人工軽量骨材 ・ その他()
・ 細骨材: ・ 川砂 ・ 山砂 ・ 海砂 ・ その他()
● 構造体コンクリートと供試体強度の差3N/mm²を考慮して発注強度を決定する。
ただし、無筋コンクリートは割り増しを見ない。
● 単位水量は185kg/㎡以下とし、なるべく小さくする。

6 調合

7 型枠

● 材料: ● 合板(厚12mm) ・ 綠甲板(厚 mm)
・ 金属製型枠パネル ・ その他()
● 工法: ● ボルト式 ・ その他()
● 剥離剤: ● 使用不可 ・ 使用可()
● 存置期間: 建設省告示等110号による。
● 打放しコンクリート仕上りのかぶり厚度: ● 20mm
・ その他()
● 採取した試験体は工事現場等、請負業者の直接管理下にある場所に保護する。
● 供試体は材齢7日用、28日用その他の必要に応じてそれぞれ3個を適当に間隔をあけた運搬車から3度に分けて試料を採取する。
● コンクリートの圧縮強度試験は、公認の試験所にて行なう事を原則とする。
(ただし、型枠脱型用試験は生コン会社でも可とする。)

8 試験

9 運搬及び打込

06 鉄筋工事

1 一般事項

● 鉄筋の使用範囲は、構造設計図による。
● 鉄筋の継手及び補強鉄筋等については、共通仕様書の他に、構造設計図記載の、基準詳細図等を優先とする。
● 鉄筋の加工、組立に際しては、あらかじめ鉄筋加工図を作成し、係員の承認を受ける。
・ 普通鉄筋: SR235(規格品)
● 異形鉄筋: ● SD295A/B(規格品) ● SD345(規格品)
・ その他()
● 種類: ・ ガス圧接継手 (・ 16φ以上 ・ 19φ以上)
● 重ね継手 ・ アーク溶接継手
・ その他()
● 種類: ・ 金属製 ・ モルタル製 ・ 塩ビ製
● 見本を提出して監理者の承諾を受ける。
● スラブ筋に対してはバースペーサーを用いる。

2 材料

3 継手

4 鉄筋スペーサー

5 確認・検査

・ 継手検査: ・ 引張曲げ試験 ・ 圧接箇所 箇所ごとに 本
・ 書類確認: ● 材料証明 ● 配筋自主検査記録 ・ 鉄筋加工図
● 立会検査: ● 配筋検査
監理者による配筋検査の前に施工者による自主検査を実施し、報告する。配筋検査による是正事項は施工者の責任で是正し、写真記録をとること。

07 鉄骨工事

1 一般事項

● 使用範囲及び区分は、構造設計図による。
● 鉄骨の継手、仕口及び補強部分その他については、共通仕様書の他に構造設計図記載の、基準詳細図等を優先する。
● 工作図または、現寸図(型版および定規を含む)を作成し、係員の検査を受ける。
● 形鋼・鋼板: ● SS400 ・ SN400A/B/C
・ SN490A/B/C
・ SM400A/B ・ SM490A/B
・ その他()
・ 軽量形鋼: SSC400(規格品)
・ 鋼管: ・ STK400 ・ STK490
・ STKR400 ・ STKR490
・ その他()
・ 高力ボルト: ・ F8T ・ F10T ・ F12T
・ 普通ボルト: ・ SS400とし等級は中ボルト程度とする。
・ リベット: ・ SV400A(規格品)
・ 溶接材料: ・ JIS-Z-3211規格に適合するもの。
● 防錆塗装: ・ 素地調整の程度 ・ 第一種クレン(プラスト法)
・ 第二種クレン(機械的作業)
・ 第三種クレン(手工具作業)
・ 錆止塗装は、仕上塗装種別に応じた同系錆止塗料とする。
・ 塗装回数は、工場1回、現場1回、但し組立後
● 塗装不可能な部分は、工場2回塗りとする。
・ 仕上塗装: ・ オイルペイント ・ グラファイトペイント
・ その他()
● 亜鉛溶融メッキ
・ 鋼材: ・ SPA H/C ・ SMA400A/B
・ SMA490A/B ・ その他()
・ 高力ボルト: ・ F8T ・ F10T ・ F12T
・ 使用材料: ・ 裸使用
・ 表面処理(・ ウェザーコートH ・ ウェザーコートH
・ その他()
・ 溶接材料: ・ JIS-Z-3212規格に適合するもの。

2 普通鋼

3 耐候性高張力鋼

4 溶接部の試験

・ 試験の種別: ・ 超音波探傷試験 ・ X線検査
・ その他()
・ 行なう ・ 行なわない

5 溶接工の技量確認

6 試作品

・ 必要 ・ 不必要

見附駅周辺整備計画図

有限会社 アトリエ・ワン 一級建築士事務所 東京都知事登録第46278号
〒160-0018 東京都新宿区須賀町8-79 tel/03-3226-5336 fax/03-3226-5366

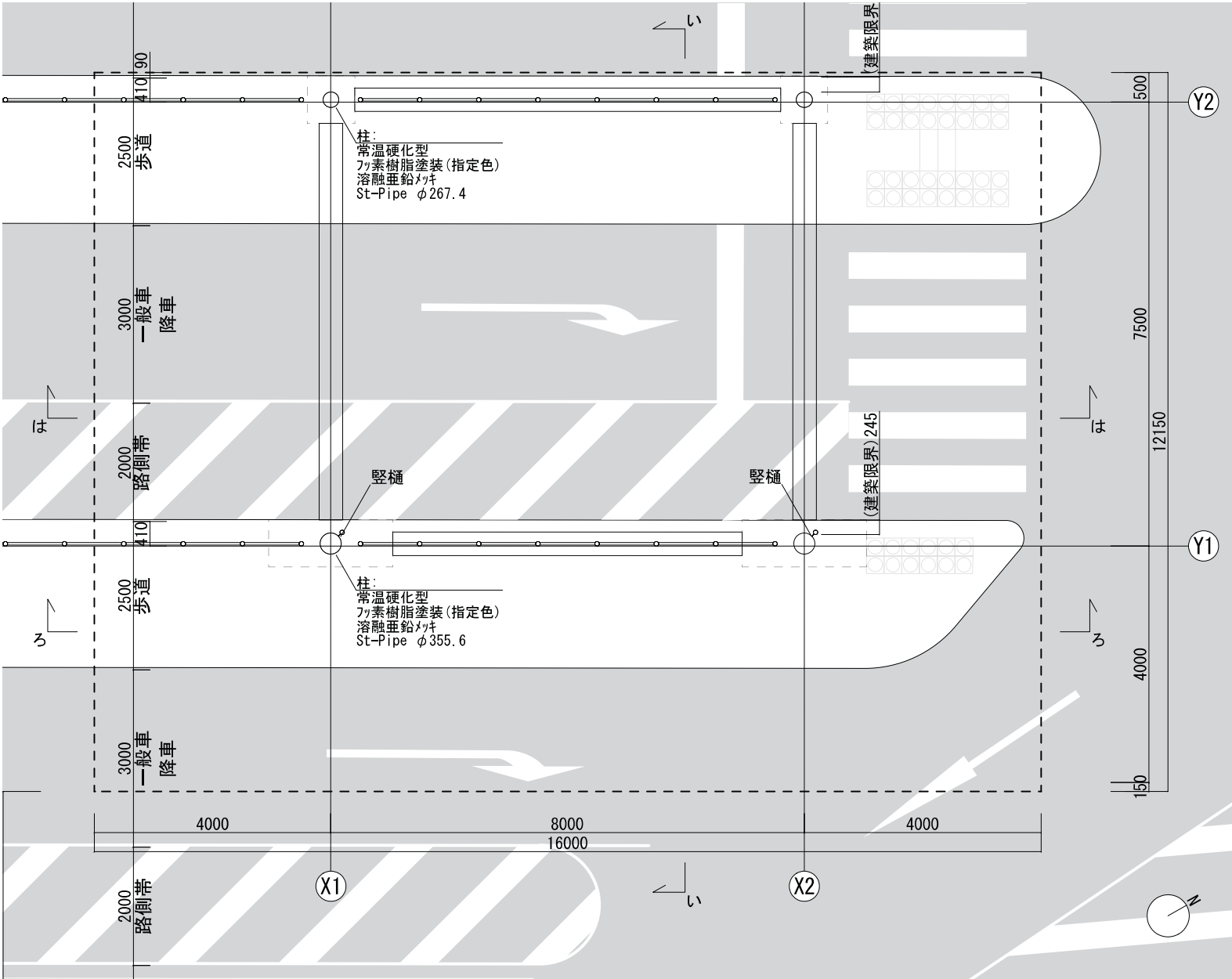
一級建築士 玉井洋一 第336929号 国土交通大臣

交通島江ノ町 特記仕様書(1)
N. S 210831

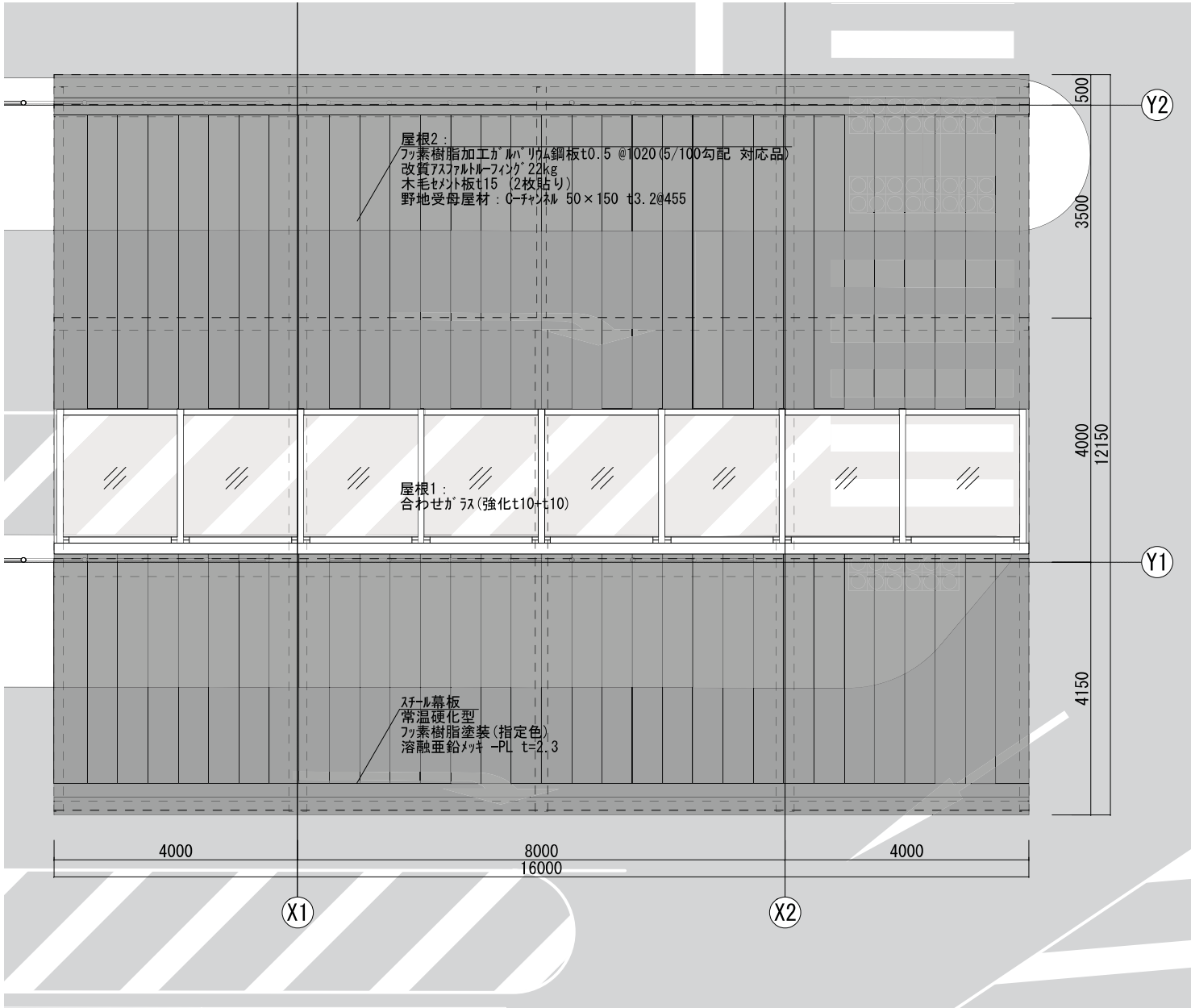
A02

0 8 組積工事		9 シーリング材		1 2 木工事		<div>この項は構造標準図を優先する</div> <div>● 根太と床ばり、胴差上端高さが同じ場合の施工方向 根太は床ばり、胴差に大入れ落とし込み釘2N75斜め打とするか、または根太受け金物等を用いて床ばり、胴差に留めつける。この場合、構造用合板を床ばり、胴差に釘で直ばりすることが重要である。 ただし、隅角部では柱があるため構造用合板のコーナーを欠いて釘打ちする。 ● 根太と床ばり、胴差の上端高さが異なる場合の施工方向 床ばり、胴差に直交する根太は渡りあごかけとし釘2N75を斜め打ちとする。また、床ばり、胴差の際に隙根太又は受け材を添え付け床板構造用合板の四周辺を固定する。隙根太・床ばり・胴差へN90釘打ち、間隔303mmで平打する。 ● 床板又は床下地の施工方法 ● 厚さ12mm以上の構造用合板を用いる。そのサイズに3×6版とし、こま切れしたものは使用しない。 ● 構造用合板の長手方向を根太と直交させかつ千鳥ばりとする。構造用合板の継手は根太上で突き付け継ぎとし、継目下に受材(45mm×45mm)を設ける。 ● 構造用合板の釘打ちはN50を用い釘間間隔150mm以下で床根太又は床ばり・胴差・受材等に平打ちする。 ● 床根太の寸法は45mm×105mmを標準とし、その根太間隔は、455mm以下とする。ただし、床ばり間隔は1,820mm以下とする。 ● 柱と床ばり・胴差、床ばりと胴差の仕口は、金物、ボルトにより十分緊結補強する。</div> <div></div>
1 コンクリートブロック	・種 別: ・A種 ・B種 ● C種(防水) ・厚 さ: ・100mm ・120mm ・150mm ・190mm ・補強鉄筋: 縦筋D10@400mm 横筋D10@600mm 開口補強筋D13	● 外部建具廻り: ・ポリサルファイド系 ・ポリウレタン系 ・油性系 ・シリコン系 ・その他(変成シリコン系) ・コンクリート打継目地: ・ポリサルファイド系 ・ポリウレタン系 ・油性系 ・シリコン系 ・その他(変成シリコン系) ● 充てんは 15 mm× 15 mmを最小とする。バックアップ材を使用するものとし、発泡樹脂成型材とする。		1 一般事項		
2 煉瓦(レンガ)	・種 別: ・普通 ・耐火 ・焼過ぎ ・その他(・使用箇所: ・化粧 ・塗下 ・防水押え ・煙道 ・その他(・形状・寸法: ・外壁 mm ・間仕切壁 mm ・床板 mm ・屋根板 mm ・目地シーリング材: ・弾性(・ポリサルファイド系 ・シリコン系 ・ポリウレタン系 ・塑性(・アクリル系 ・ブチル系 ・油性 ・その他(・取付金物: SS400を原則とし、亜鉛メッキ処理を原則とする。	1 0 石工事		2 樹種及び等級		
3 ALC板	・形状・寸法: ・外壁 mm ・間仕切壁 mm ・床板 mm ・屋根板 mm ・目地シーリング材: ・弾性(・ポリサルファイド系 ・シリコン系 ・ポリウレタン系 ・塑性(・アクリル系 ・ブチル系 ・油性 ・その他(・取付金物: SS400を原則とし、亜鉛メッキ処理を原則とする。	1 一般事項		3 材料		
4 プレキャストコンクリート	・本工事は、事前に指定製作所に於て設計図及び仕様書に基づきあらかじめ製作、組立工法の詳細について、施工図及び、施工計画書を提出し、係員の承認を受けた後工事に着手する。 ・コンクリートの種別: ・軽量コンクリート(構造用) ・普通コンクリート ・混和剤の有無 : ・必要 ・不必要 ・コンクリートの強度: kg/cm ² ・型 枠 : ・木製・金属製 : ・その他(・シーリング材 : ・ポリサルファイド系 ・その他(・取付金物の防錆処理: ・シンクロメートメッキ処理 ・亜鉛メッキ処理 ・その他(・現寸試作品 : ・必要 ・不必要	2 材料		4 アンカーボルト		
0 9 防水工事		1 1 タイル工事		5 釘打ち工法		
1 一般事項	● 本工事は、すべて責任施工とする。	1 一般事項	・指定製造会社の製品により、見本品を提出し、係員の承認を受ける。 ・タイル割付図を作成し、指定の箇所は役物を用いるものとし、係員の承認を受ける。	5 釘打ち工法		
2 アスファルト防水	・種別: ・歩行用屋上防水 ・露出屋上防水 ・室内防水 ・その他(・種別: ・合成ゴム系シート防水 厚 mm ・合成樹脂系シート防水 厚 mm ・その他(・種別: ・ウレタン塗布防水 厚 mm ・ゴムアスファルト塗布防水 厚 mm ● FRP防水 厚 3mm ・コンクリート躯体防水	2 工法		6 諸金物の工法		
3 シート防水	・種別: ・合成ゴム系シート防水 厚 mm ・合成樹脂系シート防水 厚 mm ・その他(・種別: ・ウレタン塗布防水 厚 mm ・ゴムアスファルト塗布防水 厚 mm ● FRP防水 厚 3mm ・コンクリート躯体防水	3 普通タイル		7 構造用面材の貼り方		
4 塗布、塗膜防水FRP防水	・種別: ・ウレタン塗布防水 厚 mm ・ゴムアスファルト塗布防水 厚 mm ● FRP防水 厚 3mm ・コンクリート躯体防水	3 普通タイル		7 構造用面材の貼り方		
5 モルタル防水	・種別: ・セメント系 ・樹脂系 ・その他(・地下階コンクリート打継ぎ箇所止水板: ・不要 ・必要: ・クロロプレン ・合成樹脂	3 普通タイル		7 構造用面材の貼り方		
6 止水板	・種別: ・セメント系 ・樹脂系 ・その他(・地下階コンクリート打継ぎ箇所止水板: ・不要 ・必要: ・クロロプレン ・合成樹脂	3 普通タイル		7 構造用面材の貼り方		
7 見地押え伸縮目地	・目地材料: ・エラストイト+アスファルトコンパウンド(巾 mm) ・発泡樹脂板+アスファルトコンパウンド(巾 mm) ・その他(・工 法: ・アスファルトコンパウンドは、防水押え仕上がり面より5mm下りに充てんしエラストイト以外の目地棒は必ず撤去する。 ● 工事請負者及び施工会社は、記名捺印の上、下記保証期間の保証書を3部係員に提出するものとし、事故を生じた場合は、無償にて補修復旧なすものとする。 ・アスファルト防水: 10年間 ・シート防水: 10年間 ・塗布防水: 10年間 ・モルタル防水: 5年間 ・FRP防水: 10年間	3 特殊タイル		7 構造用面材の貼り方		
8 責任保証	● 工事請負者及び施工会社は、記名捺印の上、下記保証期間の保証書を3部係員に提出するものとし、事故を生じた場合は、無償にて補修復旧なすものとする。 ・アスファルト防水: 10年間 ・シート防水: 10年間 ・塗布防水: 10年間 ・モルタル防水: 5年間 ・FRP防水: 10年間	3 特殊タイル		7 構造用面材の貼り方		
0 9 防水工事		1 1 タイル工事		5 釘打ち工法		
1 一般事項	● 本工事は、すべて責任施工とする。	1 一般事項	・指定製造会社の製品により、見本品を提出し、係員の承認を受ける。 ・タイル割付図を作成し、指定の箇所は役物を用いるものとし、係員の承認を受ける。	5 釘打ち工法		
2 アスファルト防水	・種別: ・歩行用屋上防水 ・露出屋上防水 ・室内防水 ・その他(・種別: ・合成ゴム系シート防水 厚 mm ・合成樹脂系シート防水 厚 mm ・その他(・種別: ・ウレタン塗布防水 厚 mm ・ゴムアスファルト塗布防水 厚 mm ● FRP防水 厚 3mm ・コンクリート躯体防水	2 工法		6 諸金物の工法		
3 シート防水	・種別: ・合成ゴム系シート防水 厚 mm ・合成樹脂系シート防水 厚 mm ・その他(・種別: ・ウレタン塗布防水 厚 mm ・ゴムアスファルト塗布防水 厚 mm ● FRP防水 厚 3mm ・コンクリート躯体防水	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
4 塗布、塗膜防水FRP防水	・種別: ・ウレタン塗布防水 厚 mm ・ゴムアスファルト塗布防水 厚 mm ● FRP防水 厚 3mm ・コンクリート躯体防水	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
5 モルタル防水	・種別: ・セメント系 ・樹脂系 ・その他(・地下階コンクリート打継ぎ箇所止水板: ・不要 ・必要: ・クロロプレン ・合成樹脂	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
6 止水板	・種別: ・セメント系 ・樹脂系 ・その他(・地下階コンクリート打継ぎ箇所止水板: ・不要 ・必要: ・クロロプレン ・合成樹脂	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
7 見地押え伸縮目地	・目地材料: ・エラストイト+アスファルトコンパウンド(巾 mm) ・発泡樹脂板+アスファルトコンパウンド(巾 mm) ・その他(・工 法: ・アスファルトコンパウンドは、防水押え仕上がり面より5mm下りに充てんしエラストイト以外の目地棒は必ず撤去する。 ● 工事請負者及び施工会社は、記名捺印の上、下記保証期間の保証書を3部係員に提出するものとし、事故を生じた場合は、無償にて補修復旧なすものとする。 ・アスファルト防水: 10年間 ・シート防水: 10年間 ・塗布防水: 10年間 ・モルタル防水: 5年間 ・FRP防水: 10年間	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
8 責任保証	● 工事請負者及び施工会社は、記名捺印の上、下記保証期間の保証書を3部係員に提出するものとし、事故を生じた場合は、無償にて補修復旧なすものとする。 ・アスファルト防水: 10年間 ・シート防水: 10年間 ・塗布防水: 10年間 ・モルタル防水: 5年間 ・FRP防水: 10年間	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
0 9 防水工事		1 1 タイル工事		5 釘打ち工法		
1 一般事項	● 本工事は、すべて責任施工とする。	1 一般事項	・指定製造会社の製品により、見本品を提出し、係員の承認を受ける。 ・タイル割付図を作成し、指定の箇所は役物を用いるものとし、係員の承認を受ける。	5 釘打ち工法		
2 アスファルト防水	・種別: ・歩行用屋上防水 ・露出屋上防水 ・室内防水 ・その他(・種別: ・合成ゴム系シート防水 厚 mm ・合成樹脂系シート防水 厚 mm ・その他(・種別: ・ウレタン塗布防水 厚 mm ・ゴムアスファルト塗布防水 厚 mm ● FRP防水 厚 3mm ・コンクリート躯体防水	2 工法		6 諸金物の工法		
3 シート防水	・種別: ・合成ゴム系シート防水 厚 mm ・合成樹脂系シート防水 厚 mm ・その他(・種別: ・ウレタン塗布防水 厚 mm ・ゴムアスファルト塗布防水 厚 mm ● FRP防水 厚 3mm ・コンクリート躯体防水	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
4 塗布、塗膜防水FRP防水	・種別: ・ウレタン塗布防水 厚 mm ・ゴムアスファルト塗布防水 厚 mm ● FRP防水 厚 3mm ・コンクリート躯体防水	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
5 モルタル防水	・種別: ・セメント系 ・樹脂系 ・その他(・地下階コンクリート打継ぎ箇所止水板: ・不要 ・必要: ・クロロプレン ・合成樹脂	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
6 止水板	・種別: ・セメント系 ・樹脂系 ・その他(・地下階コンクリート打継ぎ箇所止水板: ・不要 ・必要: ・クロロプレン ・合成樹脂	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
7 見地押え伸縮目地	・目地材料: ・エラストイト+アスファルトコンパウンド(巾 mm) ・発泡樹脂板+アスファルトコンパウンド(巾 mm) ・その他(・工 法: ・アスファルトコンパウンドは、防水押え仕上がり面より5mm下りに充てんしエラストイト以外の目地棒は必ず撤去する。 ● 工事請負者及び施工会社は、記名捺印の上、下記保証期間の保証書を3部係員に提出するものとし、事故を生じた場合は、無償にて補修復旧なすものとする。 ・アスファルト防水: 10年間 ・シート防水: 10年間 ・塗布防水: 10年間 ・モルタル防水: 5年間 ・FRP防水: 10年間	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
8 責任保証	● 工事請負者及び施工会社は、記名捺印の上、下記保証期間の保証書を3部係員に提出するものとし、事故を生じた場合は、無償にて補修復旧なすものとする。 ・アスファルト防水: 10年間 ・シート防水: 10年間 ・塗布防水: 10年間 ・モルタル防水: 5年間 ・FRP防水: 10年間	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
0 9 防水工事		1 1 タイル工事		5 釘打ち工法		
1 一般事項	● 本工事は、すべて責任施工とする。	1 一般事項	・指定製造会社の製品により、見本品を提出し、係員の承認を受ける。 ・タイル割付図を作成し、指定の箇所は役物を用いるものとし、係員の承認を受ける。	5 釘打ち工法		
2 アスファルト防水	・種別: ・歩行用屋上防水 ・露出屋上防水 ・室内防水 ・その他(・種別: ・合成ゴム系シート防水 厚 mm ・合成樹脂系シート防水 厚 mm ・その他(・種別: ・ウレタン塗布防水 厚 mm ・ゴムアスファルト塗布防水 厚 mm ● FRP防水 厚 3mm ・コンクリート躯体防水	2 工法		6 諸金物の工法		
3 シート防水	・種別: ・合成ゴム系シート防水 厚 mm ・合成樹脂系シート防水 厚 mm ・その他(・種別: ・ウレタン塗布防水 厚 mm ・ゴムアスファルト塗布防水 厚 mm ● FRP防水 厚 3mm ・コンクリート躯体防水	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
4 塗布、塗膜防水FRP防水	・種別: ・ウレタン塗布防水 厚 mm ・ゴムアスファルト塗布防水 厚 mm ● FRP防水 厚 3mm ・コンクリート躯体防水	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
5 モルタル防水	・種別: ・セメント系 ・樹脂系 ・その他(・地下階コンクリート打継ぎ箇所止水板: ・不要 ・必要: ・クロロプレン ・合成樹脂	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
6 止水板	・種別: ・セメント系 ・樹脂系 ・その他(・地下階コンクリート打継ぎ箇所止水板: ・不要 ・必要: ・クロロプレン ・合成樹脂	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
7 見地押え伸縮目地	・目地材料: ・エラストイト+アスファルトコンパウンド(巾 mm) ・発泡樹脂板+アスファルトコンパウンド(巾 mm) ・その他(・工 法: ・アスファルトコンパウンドは、防水押え仕上がり面より5mm下りに充てんしエラストイト以外の目地棒は必ず撤去する。 ● 工事請負者及び施工会社は、記名捺印の上、下記保証期間の保証書を3部係員に提出するものとし、事故を生じた場合は、無償にて補修復旧なすものとする。 ・アスファルト防水: 10年間 ・シート防水: 10年間 ・塗布防水: 10年間 ・モルタル防水: 5年間 ・FRP防水: 10年間	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
8 責任保証	● 工事請負者及び施工会社は、記名捺印の上、下記保証期間の保証書を3部係員に提出するものとし、事故を生じた場合は、無償にて補修復旧なすものとする。 ・アスファルト防水: 10年間 ・シート防水: 10年間 ・塗布防水: 10年間 ・モルタル防水: 5年間 ・FRP防水: 10年間	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
0 9 防水工事		1 1 タイル工事		5 釘打ち工法		
1 一般事項	● 本工事は、すべて責任施工とする。	1 一般事項	・指定製造会社の製品により、見本品を提出し、係員の承認を受ける。 ・タイル割付図を作成し、指定の箇所は役物を用いるものとし、係員の承認を受ける。	5 釘打ち工法		
2 アスファルト防水	・種別: ・歩行用屋上防水 ・露出屋上防水 ・室内防水 ・その他(・種別: ・合成ゴム系シート防水 厚 mm ・合成樹脂系シート防水 厚 mm ・その他(・種別: ・ウレタン塗布防水 厚 mm ・ゴムアスファルト塗布防水 厚 mm ● FRP防水 厚 3mm ・コンクリート躯体防水	2 工法		6 諸金物の工法		
3 シート防水	・種別: ・合成ゴム系シート防水 厚 mm ・合成樹脂系シート防水 厚 mm ・その他(・種別: ・ウレタン塗布防水 厚 mm ・ゴムアスファルト塗布防水 厚 mm ● FRP防水 厚 3mm ・コンクリート躯体防水	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
4 塗布、塗膜防水FRP防水	・種別: ・ウレタン塗布防水 厚 mm ・ゴムアスファルト塗布防水 厚 mm ● FRP防水 厚 3mm ・コンクリート躯体防水	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
5 モルタル防水	・種別: ・セメント系 ・樹脂系 ・その他(・地下階コンクリート打継ぎ箇所止水板: ・不要 ・必要: ・クロロプレン ・合成樹脂	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
6 止水板	・種別: ・セメント系 ・樹脂系 ・その他(・地下階コンクリート打継ぎ箇所止水板: ・不要 ・必要: ・クロロプレン ・合成樹脂	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
7 見地押え伸縮目地	・目地材料: ・エラストイト+アスファルトコンパウンド(巾 mm) ・発泡樹脂板+アスファルトコンパウンド(巾 mm) ・その他(・工 法: ・アスファルトコンパウンドは、防水押え仕上がり面より5mm下りに充てんしエラストイト以外の目地棒は必ず撤去する。 ● 工事請負者及び施工会社は、記名捺印の上、下記保証期間の保証書を3部係員に提出するものとし、事故を生じた場合は、無償にて補修復旧なすものとする。 ・アスファルト防水: 10年間 ・シート防水: 10年間 ・塗布防水: 10年間 ・モルタル防水: 5年間 ・FRP防水: 10年間	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
8 責任保証	● 工事請負者及び施工会社は、記名捺印の上、下記保証期間の保証書を3部係員に提出するものとし、事故を生じた場合は、無償にて補修復旧なすものとする。 ・アスファルト防水: 10年間 ・シート防水: 10年間 ・塗布防水: 10年間 ・モルタル防水: 5年間 ・FRP防水: 10年間	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
0 9 防水工事		1 1 タイル工事		5 釘打ち工法		
1 一般事項	● 本工事は、すべて責任施工とする。	1 一般事項	・指定製造会社の製品により、見本品を提出し、係員の承認を受ける。 ・タイル割付図を作成し、指定の箇所は役物を用いるものとし、係員の承認を受ける。	5 釘打ち工法		
2 アスファルト防水	・種別: ・歩行用屋上防水 ・露出屋上防水 ・室内防水 ・その他(・種別: ・合成ゴム系シート防水 厚 mm ・合成樹脂系シート防水 厚 mm ・その他(・種別: ・ウレタン塗布防水 厚 mm ・ゴムアスファルト塗布防水 厚 mm ● FRP防水 厚 3mm ・コンクリート躯体防水	2 工法		6 諸金物の工法		
3 シート防水	・種別: ・合成ゴム系シート防水 厚 mm ・合成樹脂系シート防水 厚 mm ・その他(・種別: ・ウレタン塗布防水 厚 mm ・ゴムアスファルト塗布防水 厚 mm ● FRP防水 厚 3mm ・コンクリート躯体防水	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
4 塗布、塗膜防水FRP防水	・種別: ・ウレタン塗布防水 厚 mm ・ゴムアスファルト塗布防水 厚 mm ● FRP防水 厚 3mm ・コンクリート躯体防水	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
5 モルタル防水	・種別: ・セメント系 ・樹脂系 ・その他(・地下階コンクリート打継ぎ箇所止水板: ・不要 ・必要: ・クロロプレン ・合成樹脂	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
6 止水板	・種別: ・セメント系 ・樹脂系 ・その他(・地下階コンクリート打継ぎ箇所止水板: ・不要 ・必要: ・クロロプレン ・合成樹脂	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
7 見地押え伸縮目地	・目地材料: ・エラストイト+アスファルトコンパウンド(巾 mm) ・発泡樹脂板+アスファルトコンパウンド(巾 mm) ・その他(・工 法: ・アスファルトコンパウンドは、防水押え仕上がり面より5mm下りに充てんしエラストイト以外の目地棒は必ず撤去する。 ● 工事請負者及び施工会社は、記名捺印の上、下記保証期間の保証書を3部係員に提出するものとし、事故を生じた場合は、無償にて補修復旧なすものとする。 ・アスファルト防水: 10年間 ・シート防水: 10年間 ・塗布防水: 10年間 ・モルタル防水: 5年間 ・FRP防水: 10年間	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
8 責任保証	● 工事請負者及び施工会社は、記名捺印の上、下記保証期間の保証書を3部係員に提出するものとし、事故を生じた場合は、無償にて補修復旧なすものとする。 ・アスファルト防水: 10年間 ・シート防水: 10年間 ・塗布防水: 10年間 ・モルタル防水: 5年間 ・FRP防水: 10年間	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
0 9 防水工事		1 1 タイル工事		5 釘打ち工法		
1 一般事項	● 本工事は、すべて責任施工とする。	1 一般事項	・指定製造会社の製品により、見本品を提出し、係員の承認を受ける。 ・タイル割付図を作成し、指定の箇所は役物を用いるものとし、係員の承認を受ける。	5 釘打ち工法		
2 アスファルト防水	・種別: ・歩行用屋上防水 ・露出屋上防水 ・室内防水 ・その他(・種別: ・合成ゴム系シート防水 厚 mm ・合成樹脂系シート防水 厚 mm ・その他(・種別: ・ウレタン塗布防水 厚 mm ・ゴムアスファルト塗布防水 厚 mm ● FRP防水 厚 3mm ・コンクリート躯体防水	2 工法		6 諸金物の工法		
3 シート防水	・種別: ・合成ゴム系シート防水 厚 mm ・合成樹脂系シート防水 厚 mm ・その他(・種別: ・ウレタン塗布防水 厚 mm ・ゴムアスファルト塗布防水 厚 mm ● FRP防水 厚 3mm ・コンクリート躯体防水	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
4 塗布、塗膜防水FRP防水	・種別: ・ウレタン塗布防水 厚 mm ・ゴムアスファルト塗布防水 厚 mm ● FRP防水 厚 3mm ・コンクリート躯体防水	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
5 モルタル防水	・種別: ・セメント系 ・樹脂系 ・その他(・地下階コンクリート打継ぎ箇所止水板: ・不要 ・必要: ・クロロプレン ・合成樹脂	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
6 止水板	・種別: ・セメント系 ・樹脂系 ・その他(・地下階コンクリート打継ぎ箇所止水板: ・不要 ・必要: ・クロロプレン ・合成樹脂	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
7 見地押え伸縮目地	・目地材料: ・エラストイト+アスファルトコンパウンド(巾 mm) ・発泡樹脂板+アスファルトコンパウンド(巾 mm) ・その他(・工 法: ・アスファルトコンパウンドは、防水押え仕上がり面より5mm下りに充てんしエラストイト以外の目地棒は必ず撤去する。 ● 工事請負者及び施工会社は、記名捺印の上、下記保証期間の保証書を3部係員に提出するものとし、事故を生じた場合は、無償にて補修復旧なすものとする。 ・アスファルト防水: 10年間 ・シート防水: 10年間 ・塗布防水: 10年間 ・モルタル防水: 5年間 ・FRP防水: 10年間	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
8 責任保証	● 工事請負者及び施工会社は、記名捺印の上、下記保証期間の保証書を3部係員に提出するものとし、事故を生じた場合は、無償にて補修復旧なすものとする。 ・アスファルト防水: 10年間 ・シート防水: 10年間 ・塗布防水: 10年間 ・モルタル防水: 5年間 ・FRP防水: 10年間	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
0 9 防水工事		1 1 タイル工事		5 釘打ち工法		
1 一般事項	● 本工事は、すべて責任施工とする。	1 一般事項	・指定製造会社の製品により、見本品を提出し、係員の承認を受ける。 ・タイル割付図を作成し、指定の箇所は役物を用いるものとし、係員の承認を受ける。	5 釘打ち工法		
2 アスファルト防水	・種別: ・歩行用屋上防水 ・露出屋上防水 ・室内防水 ・その他(・種別: ・合成ゴム系シート防水 厚 mm ・合成樹脂系シート防水 厚 mm ・その他(・種別: ・ウレタン塗布防水 厚 mm ・ゴムアスファルト塗布防水 厚 mm ● FRP防水 厚 3mm ・コンクリート躯体防水	2 工法		6 諸金物の工法		
3 シート防水	・種別: ・合成ゴム系シート防水 厚 mm ・合成樹脂系シート防水 厚 mm ・その他(・種別: ・ウレタン塗布防水 厚 mm ・ゴムアスファルト塗布防水 厚 mm ● FRP防水 厚 3mm ・コンクリート躯体防水	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
4 塗布、塗膜防水FRP防水	・種別: ・ウレタン塗布防水 厚 mm ・ゴムアスファルト塗布防水 厚 mm ● FRP防水 厚 3mm ・コンクリート躯体防水	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
5 モルタル防水	・種別: ・セメント系 ・樹脂系 ・その他(・地下階コンクリート打継ぎ箇所止水板: ・不要 ・必要: ・クロロプレン ・合成樹脂	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
6 止水板	・種別: ・セメント系 ・樹脂系 ・その他(・地下階コンクリート打継ぎ箇所止水板: ・不要 ・必要: ・クロロプレン ・合成樹脂	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
7 見地押え伸縮目地	・目地材料: ・エラストイト+アスファルトコンパウンド(巾 mm) ・発泡樹脂板+アスファルトコンパウンド(巾 mm) ・その他(・工 法: ・アスファルトコンパウンドは、防水押え仕上がり面より5mm下りに充てんしエラストイト以外の目地棒は必ず撤去する。 ● 工事請負者及び施工会社は、記名捺印の上、下記保証期間の保証書を3部係員に提出するものとし、事故を生じた場合は、無償にて補修復旧なすものとする。 ・アスファルト防水: 10年間 ・シート防水: 10年間 ・塗布防水: 10年間 ・モルタル防水: 5年間 ・FRP防水: 10年間	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
8 責任保証	● 工事請負者及び施工会社は、記名捺印の上、下記保証期間の保証書を3部係員に提出するものとし、事故を生じた場合は、無償にて補修復旧なすものとする。 ・アスファルト防水: 10年間 ・シート防水: 10年間 ・塗布防水: 10年間 ・モルタル防水: 5年間 ・FRP防水: 10年間	2 工法		7 構造用面材の貼り方		
0 9 防水工事		1 1 タイル工事		5 釘打ち工法		
1 一般事項	● 本工事は、すべて責任					

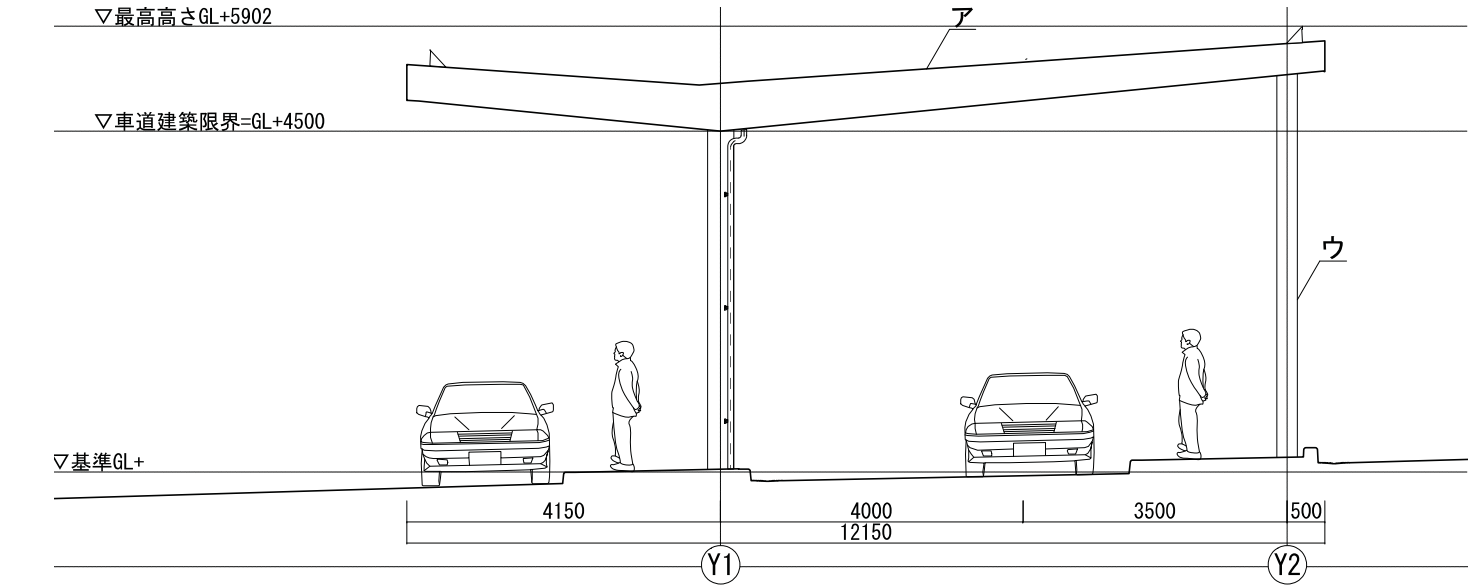
1 4 金属工事		1 6 建具工事		1 8 内装工事		4 屋上丸環	・材質：・亜鉛メッキ ・ステンレス ・その他(
1 一般事項	● 工事にあたっては、製作図を提出の上係員の承諾を受けるものとする。	1 アルミ建具	・種類：● レディーメード製品 ・イージーオーダー製品 ● オーダーメイド製品 ・その他(船舶用丸窓 ・型式：・レギュラー ・セミエアータイト ・エアータイト ・その他(1 一般事項	・本工事に使用する材料は、JIS規格品とする。但し特殊材料はこれに準拠し前もって見本品を提出したり、見本張りを行い、係員の承認を受けることとする。 ・本工事に使用する合板は図示なき限り、塗装下地の場合はシナ合板、その他は、ラワン、等級は4級とする。又水場廻りに使用する合板はタイプ耐水合板とする。 ・目隠し貼りの受材面は、特記なき限り、巾広の綿テープ張りを施す。 ・シックハウス対策には十分留意し、制は7日ヒド 発散材料に関しては係員の承認を受けることとする。 ・種類：・塩化ビニール系樹脂脂系タイル ・半硬質 ・軟 質 ・ホモジニアス ・塩化ビニール系樹脂シート ・半硬質 ・軟 質 ・ホモジニアス ・ゴムタイル ・ゴムシート ・その他(コルクタイル、リノリウム	5 避難器具	・型式： ・材質：
2 防錆処理	● 外部金物：・ジंकロメートメッキ処理 ● 亜鉛メッキ処理 ・その他(2 鋼製建具	・仕上：● アルマイト仕上 ・自然発色皮膜 ・電解着色皮膜 ・その他(内部樹脂製 ・防火：・防火設備 ・種 類：・普通鋼板 ・ボンデ亜鉛鋼板 ・ボンデ鋼板 ・耐候製板 ・その他(2 合成樹脂系床材	・塩化ビニール系樹脂脂系タイル ・半硬質 ・軟 質 ・ホモジニアス ・塩化ビニール系樹脂シート ・半硬質 ・軟 質 ・ホモジニアス ・ゴムタイル ・ゴムシート ・その他(コルクタイル、リノリウム	6 沓拭マット	・材質：・ステンレス(枠:ステンレス) ・硬質アルミ(枠:アルミ) ・ビニールあるいはゴム製(枠:硬質アルミ)
3 軽量鉄骨天井及び壁下地材	・軽量鉄骨天井下地および、壁下地は指定製造所製品とし、防錆処理はジंकロメートメッキ処理、または亜鉛メッキ処理を施したものとする。	3 ステンレス製建具	・鋼板厚さ：・窓・出入口・三方枠・方立・無目等は厚さ2.3mm 沓摺はステンレス製厚さ2mm ・防錆処理：・ジंकロメート錆止塗料一回塗 ・その他(3 フローリング材	・種類：・モザイク ・パーケット ・フローリング ・その他(7 可動間仕切	・種類：・アコーディオンドア ・ルーバードア ・パネルパーティション ・その他(
4 金属製階段ノンスリップ	・材質・巾：・ステンレス製 mm ・アルミ製 mm ・鉄製 mm ・真鍮製 mm ・その他(4 シャッター	・防音処理：・防音扉の性能は30db以上とする。 ・外部廻り、機械室、その他騒音を生じる個所の鋼製ドア枠はスポンジネオプレーン気密材を用いて気密にする。 ・防 火：・甲種 ・乙種	4 カーベット	・種類：・ウイルトンカーベット ・コードカーベット ・パンチカーベット ・その他(8 カーテンレール	・材質：・ステンレス ・アルミ ・プラスチック ・その他(
5 ルーフドレイン	・材 質： 鋳鉄製コールドタル焼付 ・その他(5 自動扉装置	・曲げ加工：・普通曲げ ・角出し曲げ ・その他(5 畳	・種類：・モザイク ・パーケット ・フローリング ・その他(9 ブラインド	・材質：・ステンレス ・アルミ ・遮光フィルム ・型式：・たて型 ・よこ型(スラット巾: mm) ・ロール型
6 マンホール	・材質：・鋳鉄製 ・アルミ枠製 ・その他 ・型式：・丸型 ・角型 ・二重型化粧マンホール ・その他(6 木製建具	・種類：・重量電動シャッター ・軽量電動シャッター ・軽量手動シャッター ・防煙・防火シャッター(・ 甲種 ・乙種) ・型式：・差込型 ・パイプ型 ・リベット綴り型 ・ネット型 ・波型 ・その他(6 特殊合板	・種類：・天然木化粧合板 ・特殊加工合板 ● プラミン不燃化粧合板 ・ポリエステル化粧板 ・プリント合板 ・その他(キッチンパネル	10 流し台	● 種類：● 既製品 ・特注 ・その他(
7 タラップ	・材 質：・ステンレス製 ・アルミ製 ・鉄製 ・その他(7 建具金物	・ネット型 ・波型 ・その他(7 吸音板	・種類：・天然木化粧合板 ・特殊加工合板 ● プラミン不燃化粧合板 ・ポリエステル化粧板 ・プリント合板 ・その他(キッチンパネル	11 浴槽	● 材質：・FRP ・ポリエステル ● ホーロー ・ステンレス ・その他(
8 天井改め口	・材質：● アルミ枠製 ・ステンレス枠製 ・その他(8 建具周囲のシーリング材	・機構：・巻上げ式 ・横引式 ・水平式 ・その他(8 壁装材	・種類：・天然木化粧合板 ・特殊加工合板 ● プラミン不燃化粧合板 ・ポリエステル化粧板 ・プリント合板 ・その他(キッチンパネル	12 旗竿金物	・材質：・ステンレス ・アルミ ・スチール
9 格子蓋	・材質：・鋳鉄製 mm ・ステンレス製 mm ・その他(9 網戸	・スラットの種類：・ステンレス製 ・アルミ製 ・鋼板製 厚さ：・厚1.6mm ・厚1.2mm ・厚0.8mm ・厚 mm	9 石膏その他のボード張り	・種類：・天然木化粧合板 ・特殊加工合板 ● プラミン不燃化粧合板 ・ポリエステル化粧板 ・プリント合板 ・その他(キッチンパネル	13 設備基礎	● 材質：● コンクリート(既製)
10 製作金物	● 材質・形状等は、設計図によるものとする。	10 ガラス	・制御方式：・マツスイッチ式 ・タッチスイッチ式 ・光電スイッチ ・その他(10 断熱材	・種類：・天然木化粧合板 ・特殊加工合板 ● プラミン不燃化粧合板 ・ポリエステル化粧板 ・プリント合板 ・その他(キッチンパネル	2 0 外構工事	
1 5 左官工事		1 7 塗装工事		1 9 雑工事		1 一般事項	
1 モルタル塗	● モルタルは亀裂防止剤、接着剤、防水剤その他の混和剤を必要に応じて係員と協議の上使用するものとする。 ● 塗厚 内壁：・ mm 外壁：・ mm 床：・ mm	1 一般事項	● 一般事項：● 仕上塗装は後記、塗装工事仕様によるものとし、化粧合板の仕様は設計図による。 ● フラッシュ戸表面材の厚さ：・ 5.5mm以上 ● 4.0mm以上 ・ 3.0mm以上	1 室名札階数表示	・材質：・プラスチック ・ステンレス ・アルミ ・その他(2 舗装	
2 防水モルタル壁	・防水剤は指定製造会社の製品とし、モルタルの項に準じて仕上げる。 割合容積比 セメント:1 砂 :2 防水剤(製造会社の指定量)	2 防火材料	● マスターキー：・必要 組各3枚 ・不要 ・グラントマスターキー：・必要 ・不要 ・逆マスターキー：・必要 ・不要 ・各キーは市販キーボックスに納入し、案内図を添付して係員に提出する。 ・その他(2 郵便受	● 材質：● ステンレス ・鋼板 ・その他 玄関扉に設置 ● 型式：● 個別型 ・集合型	3 フェンス	
3 プラスタ壁	・種類：・ドロマイトプラスター ・石膏プラスター ・ALC版用プラスター ・その他(3 合成樹脂・エポキシペイント壁	● 指定製造所の製品とし、形式は設計図により、見本提出の上、係員が承認したものとする。 ・マスターキー：・必要 組各3枚 ・不要 ・グラントマスターキー：・必要 ・不要 ・逆マスターキー：・必要 ・不要 ・各キーは市販キーボックスに納入し、案内図を添付して係員に提出する。 ・その他(3 黒板掲示板	・材質：・スチール ・アルミ ・ホーロー鋼板 ・その他(4 塀	
4 吹付タイル	・種類：・無機質類 ・有機質系 ・その他(4 マスチック塗	● 建具の四周は入念にコーキングすること。 ● 種類：● ポリサルファイド系 ・シリコン系 ・油性 ・その他(変成シリコン系	4 特殊塗料	・種類：・プラスチック ・ステンレス ・アルミ ・その他(5 境界石	
5 リシン吹付	・仕上：(5 特殊塗料	● 網の種類：● サラン ・ステンレス ・グラスファイバー ・その他(5 使用箇所：	・文字型式：・書き文字 ・彫文字 ・張文字 ・抜き文字 ・その他(6 堀	
6 白セメント	・白セメントにドロマイトプラスター(上塗用)を10%混和水練りしたものをこして使用するものとし、2回吹付とする。	5 特殊塗料	● 網の種類：● サラン ・ステンレス ・グラスファイバー ・その他(5 使用箇所：	・文字材質：・地と同質 ・シルクスクリーンエナメル ・その他(7 境界石	
7 岩綿吹付	・種 類：・吸音用 ・耐火被覆用 ・その他 ・吹付厚：・ 10mm ・ 15mm ・ 20mm ・ 25mm ・ 30mm ・ その他(5 特殊塗料	● 網の種類：● サラン ・ステンレス ・グラスファイバー ・その他(5 使用箇所：	・文字材質：・地と同質 ・シルクスクリーンエナメル ・その他(8 敷地内排水溝	
8 ひる石吹付	・種類：・無機質類 ・有機質系 ・その他(5 特殊塗料	● 網の種類：● サラン ・ステンレス ・グラスファイバー ・その他(5 使用箇所：	・文字材質：・地と同質 ・シルクスクリーンエナメル ・その他(9 植栽	
9 人造石塗り	・仕上：・水磨き ・粗磨き ・小叩き ・かき落し ・その他(5 特殊塗料	● 網の種類：● サラン ・ステンレス ・グラスファイバー ・その他(5 使用箇所：	・文字材質：・地と同質 ・シルクスクリーンエナメル ・その他(10 敷地内排水溝	
10 テラゾー現場塗	・仕上：・水磨き ・粗磨き ・小叩き ・かき落し ・その他(5 特殊塗料	● 網の種類：● サラン ・ステンレス ・グラスファイバー ・その他(5 使用箇所：	・文字材質：・地と同質 ・シルクスクリーンエナメル ・その他(11 植栽	
11 塗床材	・種類：・硬質着色床 ・合成樹脂ビニール系 ・合成樹脂エポキシ系 ・その他(5 特殊塗料	● 網の種類：● サラン ・ステンレス ・グラスファイバー ・その他(5 使用箇所：	・文字材質：・地と同質 ・シルクスクリーンエナメル ・その他(12 植栽	



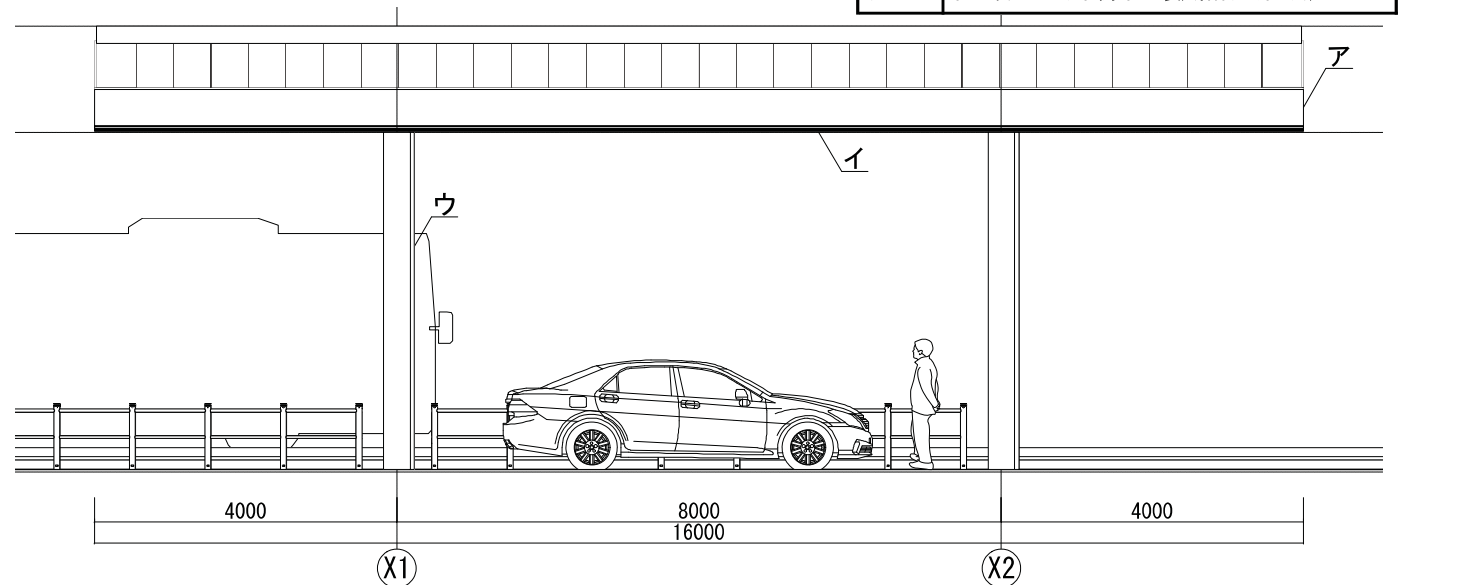
平面図



屋根伏図

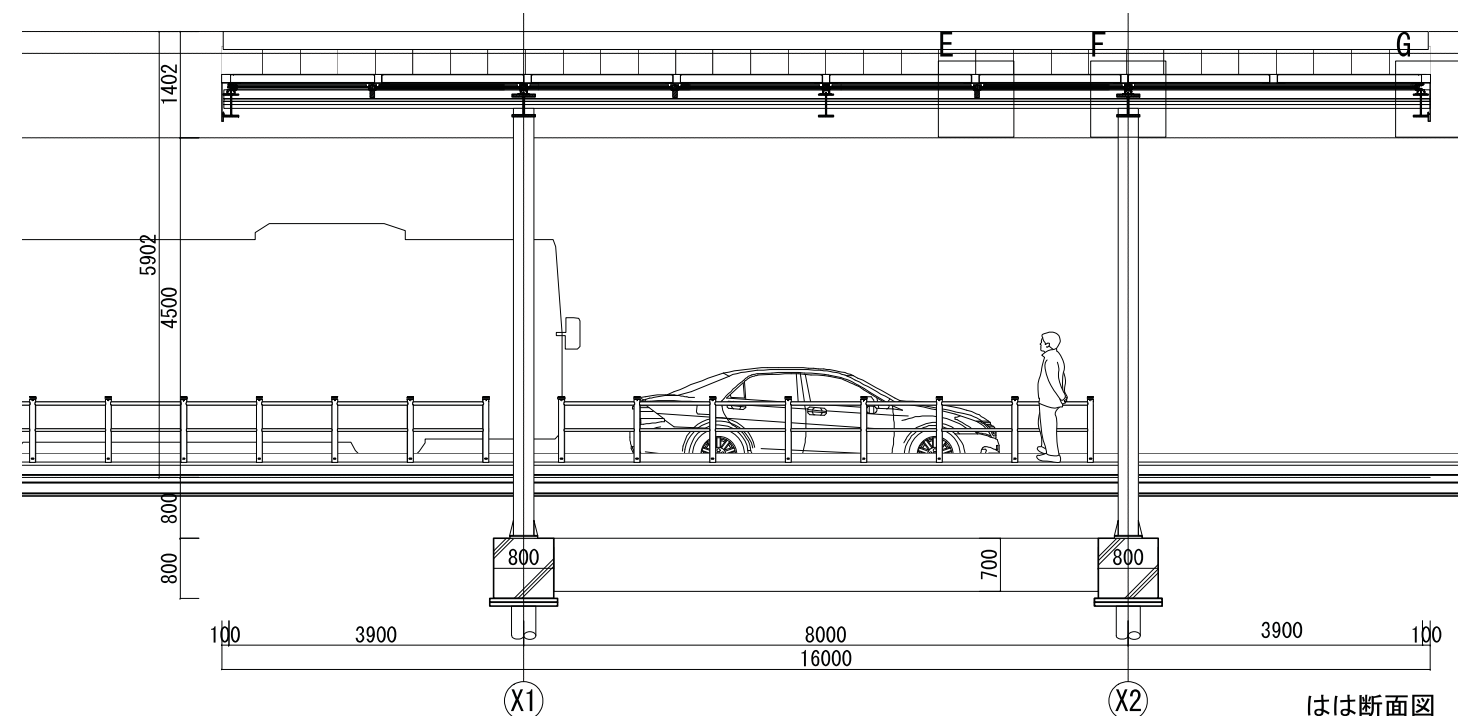
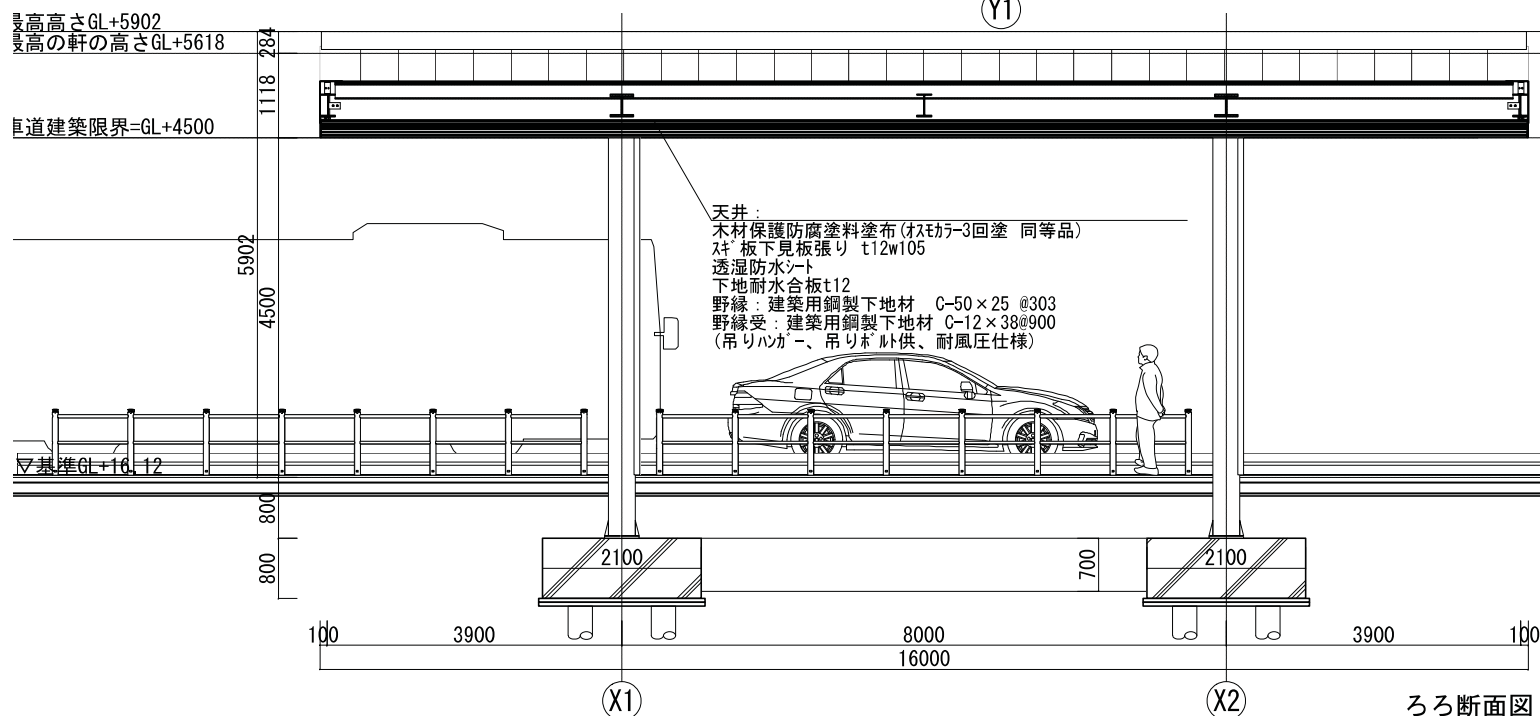
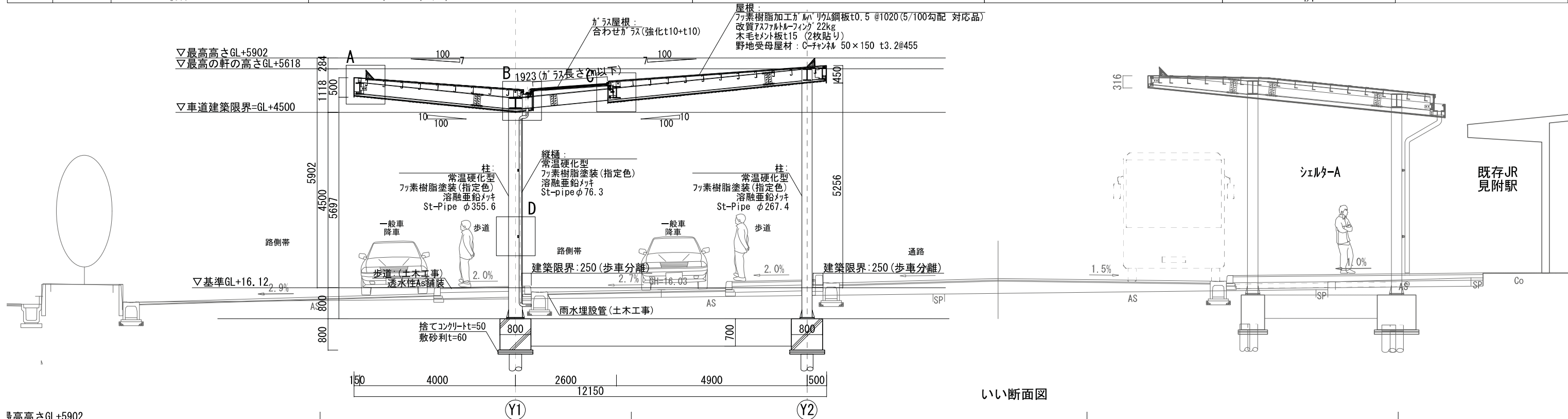
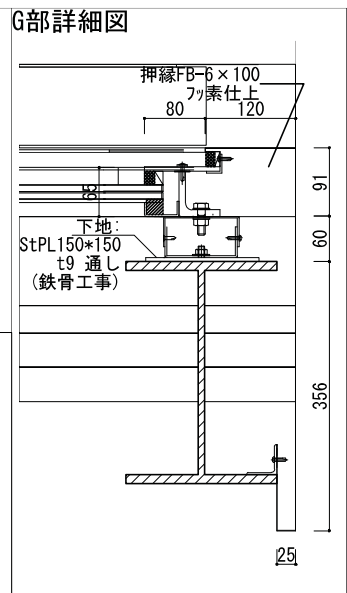
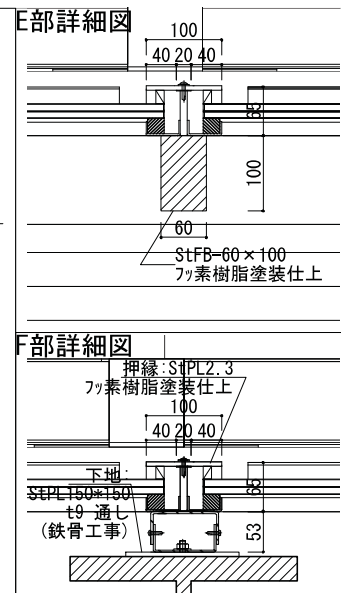
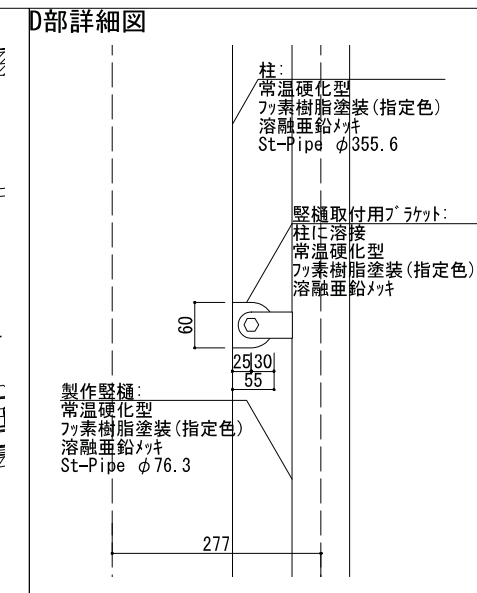
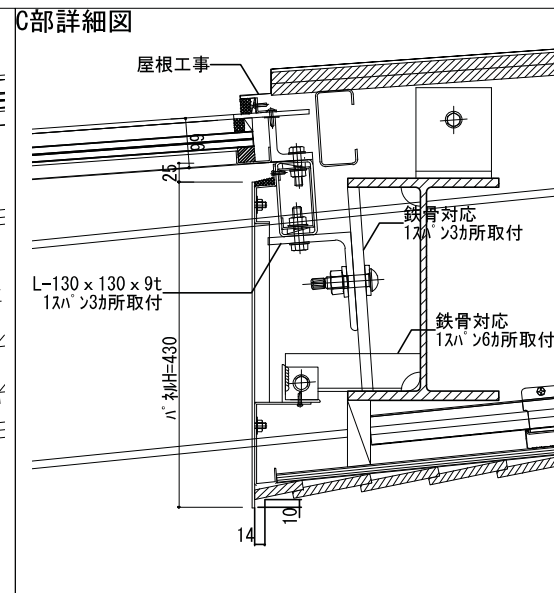
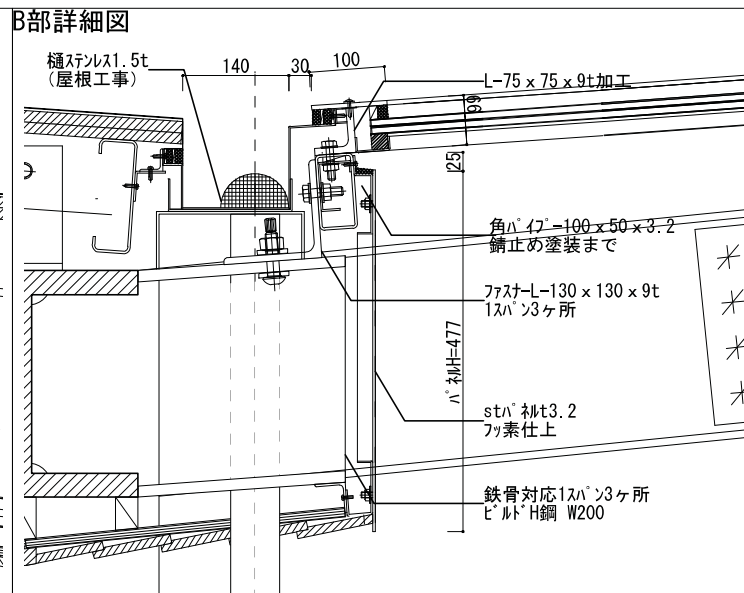
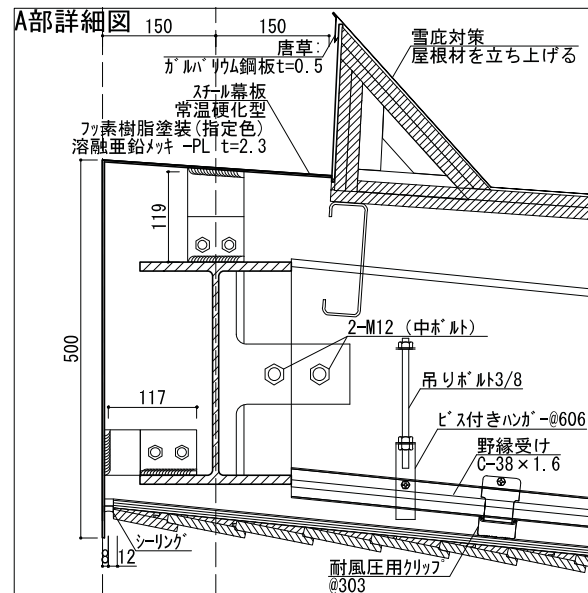


北立面図



東立面図

部位	仕上げ
ア	常温硬化型珞素樹脂塗装/溶融亜鉛メッキ/St-PL
イ	木材保護防腐塗料塗布/ヒ/縁甲板
ウ	常温硬化型珞素樹脂塗装/溶融亜鉛メッキ/St-PL



構造特記仕様書(施工方法等計画書、使用材料一覧表を兼ねる)

共通事項		5コンクリート工事		(A)平均気温に応じた存置日数(Ｂ)コンクリートの		④ターンバックル	
・ 図面及び本仕様書に記載されていない事項は、「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)」(国土交通省大臣官房官庁倉庫部監修、平成28年版)による。		①コンクリートの種類、強度及びスランプ		型 枠基礎、梁側面、柱、壁 スラブ下、梁下 36101628 Fcの50(%) Fcの100(%) Fcの100(%)		・ 鋼の種類【○新枠式○パイプ式】 ・ ボルトの種類【○羽子板ボルト○アイボルト●両ねじボルト】	
・ 項目番号に○印を付した項目を適用範囲とし、さらに、その項目内で○印の付いているものは●印を適用とする。		●普通コンクリート●軽量コンクリート		・ 支保工の盛りかえは下記に従う。 ●大梁の支保工の盛りかえは行わない。 ●直上層に著しく大きい積載荷重が存在する場合は、支保工の盛りかえは行わない。 ●支保工の盛りかえは、養生中のコンクリートに有害影響をもたらす可能性のある振動や衝撃を与えないようにする。 ●支保工の盛りかえは逐次行い、同時に多数の支保工について行わない。		①溶接部の検査	
・ 設計図書の優先順位は次の通りとする。 1. 質疑回答書、現場指示書 2. 設計図及び本特記仕様書 3. 「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)」		②コンクリートの品質		7.特殊コンクリート		●超音波探傷試験の規程は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規程」による。 ●ずれ、食い違い、アンダーカットの外観検査頻率は、平成12年建設省告示第1464号による。 ●工場溶接部 ・ 工場溶接の場合の検査方法、採取率は下表による。一試験ロットは一部又は300溶接線程度とする。ロットからの採取率は均等となるように無作為に行う。	
・ 各工事前に施工要領書、計画書を提出し、不明事項に関しては監理者と十分に打合せを行うこと。		③材料		⑧確認・検査項目		検査者及び検査率	
2土工事		④混合材料		・ 書類確認●生コン調査表及び材料試験結果 ・ 立会い検査○試験録り●型枠撤去後の躯体検査 ・ 打込み不足、じゃんか、目違い等の有害な不良部分が認められた場合、監理者の指示により、施工者の責任で補修を行う。		溶接種類検査種類 社内第三者監理者 完全溶込み溶接 外観検査100(%)100(%) 超音波探傷試験100(%)AQCJ2.5% 第4水準 上記以外 外観検査100(%)100(%) 適宜	
①根切り及び埋戻し		・ セメント		⑨鋼材種類		⑩確認・検査項目	
・ 埋戻し及び盛土		規格名称種別適用範囲		●高力ボルト○S10T(トルシヤ形ボルト：JIS B1186の2種相当)認定品MBLT-9010等 ○F10T(JIS形ボルト：JIS B1196の2種) ●F8T(溶融亜鉛めっき高力ボルト：JIS B1186の1種A)認定品MBTL-9026等 ●普通ボルトボルトはJIS B1180、ナットはJIS B1181認定品とする。 ・ 摩擦面の処理の方法は標準仕様書による。 ・ 溶融亜鉛めっき高力ボルトで、ボルトの長さと呼び径の5倍を超える場合のナット回転量は、実際により決定する。		7その他	
・ 建設発生土の処理		規格名称種別適用範囲		④アンカーボルト		令第129条の2の4に関する事項	
2.山留め		規格名称種別適用範囲		○構造用 ●建方用		建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による	
・ 山留めの設置		規格名称種別適用範囲		○構造用 ●建方用		建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による	
・ 山留めの撤去		規格名称種別適用範囲		○構造用 ●建方用		建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による	
・ 確認・検査項目		規格名称種別適用範囲		○構造用 ●建方用		建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による	
3地業工事		規格名称種別適用範囲		○構造用 ●建方用		建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による	
1.直接基礎		規格名称種別適用範囲		○構造用 ●建方用		建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による	
・ 基礎の形式		規格名称種別適用範囲		○構造用 ●建方用		建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による	
・ 支持層及び長期許容支持力		規格名称種別適用範囲		○構造用 ●建方用		建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による	
・ 地盤改良工事		規格名称種別適用範囲		○構造用 ●建方用		建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による	
・ 工法		規格名称種別適用範囲		○構造用 ●建方用		建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による	
・ 改良深さ		規格名称種別適用範囲		○構造用 ●建方用		建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による	
・ 設計基準強度		規格名称種別適用範囲		○構造用 ●建方用		建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による	
・ 確認・検査項目		規格名称種別適用範囲		○構造用 ●建方用		建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による	
②杭基礎		規格名称種別適用範囲		○構造用 ●建方用		建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による	
・ 杭の寸法、継手箇所、支持層及び許容支持力は図面による。		規格名称種別適用範囲		○構造用 ●建方用		建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による	
・ 杭の支持力算定は、平成13年7月2日国土交通省告示第1113号による。		規格名称種別適用範囲		○構造用 ●建方用		建築物に設ける建築設備にあって	

鉄筋コンクリート造配筋基準図(1)

1 共通事項

1. 鉄筋の表示記号

呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38
呼び径(d)	10	13	16	19	22	25	29	32	35	38
最外径(D1)	11	14	18	21	25	28	33	36	40	43
記号	●	×	◇	●	○	●	×	○	●	◇

2. 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔

(1) 鉄筋の最小かぶり厚さ

構造部位	最小かぶり厚さ		
	一般部	土に接する部分	
床スラブ、屋根スラブ、非耐力壁	20(mm)	40(mm)	
柱、梁、耐力壁	30(mm)	40(mm)	
基礎、基礎梁、耐圧板	—	60(mm)	
地下外壁、擁壁	40(mm)	60(mm)	
煙突内面	50(mm)	—	

- 最小かぶり厚さは建築基準法施行令の規定を基にしたもので、煙突部分では耐久性の観点から10mm増すこととする。
- 設計かぶり厚さは施工誤差を見込んで、最小かぶり厚さに10mmを増した値とする。
- 柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合、主筋のかぶり厚さが径の1.5倍以上となるように最小かぶり厚さを定める。
- 打放し仕上り部分で寸法の特記がない場合は、構造断面を20(mm)打増す。
- 打増しコンクリートの厚さは、かぶり厚さには考慮しない。
- 杭基礎の場合、基礎フーチングの鉄筋のかぶり厚さは杭先端からとする。
- 貫通孔に接する鉄筋においても、かぶり厚さを確保すること。

(2) 鉄筋の最小間隔とあき

- 鉄筋相互のあきaは下記のうち最大のものとする。

(イ) a = 25(mm)

(ロ) a = 1.25 × 粗骨材最大寸法

(ハ) a = 1.5 × d (鉄筋の呼び径)

粗骨材の最大寸法	あきの最小値(mm)									
	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38
20(mm)	25				29		33		38	44
25(mm)	31				33		38	44	48	53

- 鉄筋の間隔 P = a - D1 (鉄筋の最外径)
- 柱及び梁の主筋が二段階以上の場合、下図により鉄筋相互のあきを確保する。

3. 鉄筋の折曲げ基準

(1) フック形状(末端部)

折曲げ角度	詳細	折曲げ内法直径(D)			使用箇所
		SD295A、SD345	D16以下	D19～D38	
180°		3d 以上	4d 以上	5d 以上	・柱、梁の出隅部分の重ね継手 ・柱の両側の柱頭 ・煙突の主筋 ・杭基礎のベース筋
135°		3d 以上	4d 以上	—	・フープ及びスターラップ ・スパイラル筋 ・壁筋末端部に使用するD10及びD13 ・幅止め筋
90°		3d 以上	4d 以上	—	・T形、L形等のスターラップに用いるキャップタイ ・スラブ筋、壁筋の末端部 ・幅止め筋

- 柱、梁の出隅部分とは、下図の●印の主筋とする。

(2) ベンド形状(中間部)

折曲げ角度	詳細	折曲げ内法直径(D)			使用箇所
		SD295A、SD345、SD390	D16以下	D19～D25	
90°以下		3d 以上	4d 以上	—	・フープ及びスターラップ ・スパイラル筋
		4d 以上 (5d 以上)	6d 以上	8d 以上	・その他の鉄筋 (スラブ筋、壁筋等)

- SD390は、使用箇所がその他の鉄筋の場合に()内を適用する。

4. 継手及び定着

(1) 継手及び定着基準

方法	詳細	使用箇所
フック有り		D16以下の鉄筋
フック無し		D16以下の鉄筋
重ね継手(○)		スラブ筋及び壁筋のみ
ガス圧接継手	<div><ul style="list-style-type: none">d2 ≤ d1 ≤ d2 + 5mmふくらみの直径: H ≥ 1.4 × d2ふくらみの長さ: L ≥ 1.1 × d2偏心量: e ≤ d2 / 5圧接面のずれ: a ≤ d2 / 4ガス圧接後の曲げ加工は行わないこと。</div>	D19～D32の鉄筋 (柱、梁の主筋等)
溶接継手(アーク溶接)	<div><ul style="list-style-type: none">両面溶接: d/2片面溶接: d/2L = 5dL = 10d</div>	D16以下及びSD345までの鉄筋 (フープ等、特記による)
特殊継手(○)	<div><ul style="list-style-type: none">突合せ溶接銅管あて金溶接銅あて金(エンクローズ)溶接</div>	D19以上の鉄筋 (特記による)
機械式継手	<div>カッパラ</div> <div>≥ 400mm かつ (t + 40) mm</div>	特記による
溶接金網の重ね継手	<div>応力伝達継手</div> <div>ひび割れ防止用継手</div> <div>≥ 1節半 かつ 150mm</div> <div>≥ 1節 かつ 100mm</div>	スラブ筋及び壁筋
定着 (フック有り)		—
定着 (フック無し)	<div>L1、L2 又は L3</div> <div>≥ 柱せい の 1/2</div> <div>≧ 150mm</div>	—
溶接金網の定着	<div>スラブ</div> <div>壁</div> <div>≥ 1節半 かつ 150mm</div> <div>溶接金網と等量の異形鉄筋</div>	スラブ筋及び壁筋

- ・(※1) 重ね継手で、相互の鉄筋径が異なる場合の重ね継手長さL1は細い方のdによる。
- ・(※2) 特殊継手は、平成12年建設省告示第1463号「鉄筋の継手の構造方法を定める件」に適合するものとする。使用箇所は特記によることとし、工法は監理者の承認を得ること。

(2) 継手及び定着長さ

鉄筋種別	Fc (N/mm ²)	フック無し				フック有り			
		L1	L2	小梁	スラブ	L1	L2	小梁	スラブ
SD295A	18	45d	40d	20d	10d かつ 150mm	35d	30d	10d	—
	21	40d	35d	20d	10d かつ 150mm	30d	25d	10d	—
	24~45	35d	30d	20d	10d かつ 150mm	25d	20d	10d	—
SD345	18	50d	40d	20d	10d かつ 150mm	35d	30d	10d	—
	21	45d	40d	20d	10d かつ 150mm	30d	25d	10d	—
	24.27	40d	35d	20d	10d かつ 150mm	25d	20d	10d	—
SD390	30~45	35d	30d	20d	10d かつ 150mm	25d	20d	10d	—
	21	50d	40d	20d	10d かつ 150mm	35d	30d	10d	—
	24.27	45d	40d	20d	10d かつ 150mm	30d	25d	10d	—
	30~45	40d	35d	20d	10d かつ 150mm	30d	25d	10d	—

- ・L1、L2、L3以外の定着長さ、継手長さ。
- ・L2 割裂破壊のおそれのない箇所への定着長さ。
- ・L3 小梁及びスラブ下地筋の定着長さ。ただし、耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。
- ・末端部のフック長さ() は、上表の長さに含まない。
- ・軽量コンクリートの場合、上表の値に5dを加える。

(3) 折曲げ定着

- ・全長は(2)の定着長さ以上とする。
- ・投影定着長さは右表のLaまたはLbまたはLcとする。
- ・余長は8d以上とする。
- ・La: 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ
- ・Lb: 小梁及びスラブの上地筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ
- ・Lc: 小梁及び片持梁の下地筋の投影定着長さ
- ・軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

鉄筋種別	Fc (N/mm ²)	La	Lb	Lc
SD295A	18	20d	15d	10d
	21以上	15d	15d	10d
SD345	18, 21	20d	20d	10d
	30, 33, 36	15d	15d	10d
SD390	24, 27	20d	20d	10d
	30, 33, 36	20d	15d	10d

2 杭 → 杭工事特記仕様書による

3 基礎

1. 基礎フーチングの納まり

(1) 独立基礎、連続基礎

A. はかま筋が不要な場合

B. はかま筋が必要な場合

(2) 杭基礎

A. 一本杭の場合

C. 二本杭以上の場合

B. 一本杭で偏心する場合

- ・d: ベース筋の径
- ・d₁: ベース筋とはかま筋小さい方の径

2. 基礎フーチングと基礎梁の接合部

(1) 0 < D ≤ 500 の場合

(2) 500 < D ≤ 1,000 の場合

4 基礎梁

1. 継手位置、定着及び余長

- ・主筋の継手位置は下図の斜線内とする。
- ・基礎梁の連続端で柱に接する梁筋が同数の場合、主筋は柱をまたいで引き通す。柱をまたいで主筋を引き通すことができない場合は、柱内に定着する。
- ・梁主筋のみみ込み長さは柱せいの1/2倍以上とする。

(1) 独立基礎、杭基礎で基礎梁にスラブが付かない場合

(2) 独立基礎、杭基礎で基礎梁にスラブが付く場合

(3) 連続基礎、べた基礎で地反力を受ける場合

2. スターラップ

(1) 形状及びサブ・スターラップ(中子筋)

A. 梁せいが1,500mm未満の場合 → 6.2-(1)、(2)による。

B. 梁せいが1,500mm以上の場合

- ・梁の上下端にスラブが付く場合に限り、以下の形状も可能とする。
- ・ホは、90°フック(◎印)側にスラブが付く場合にのみ可能とする。
- ・へで、重ね継手の代わりに特殊継手を用いる場合は監理者の承認を得ること。

3. 腹筋及び幅止め筋

梁せい(mm)	段数	腹筋	幅止め筋
D < 600	—	不要	—
600 ≤ D < 900	1	2 - D10	D10 #1,000mm
900 ≤ D < 1,200	2	4 - D10	—
1,200 ≤ D < 1,500	3	6 - D10	—
1,500 ≤ D < 1,800	4	8 - D10	—

- ・梁せいが上表を超える場合、梁せい300mmごとに1段(2-D13)を加える。
- ・腹筋端部は、梁の第一スターラップから30mm程度つきだしてスターラップに結束する。

4. 打増し補強筋

- ・軸方向の補強筋は下記の通りとする。
- (1) a < 70mm の場合: 不要
- (2) 70mm ≤ a ≤ 200mm の場合: D16、鉄筋同士のあき P ≤ 150mm
ただし、打増し部に耐力壁(耐震壁、土圧壁)が取付く場合で、壁筋がD19以上の場合は壁筋と同径以上とする。
- (3) a > 200mm の場合: 梁主筋と同径、鉄筋同士のあき P ≤ 150mm
- ・梁の打増し部分に取り合う梁、壁、スラブの鉄筋の定着長さは打増し部分を除いて算定する。

- ・実際の補強方法は、監理者の指示による。
- ・e ≤ 100mm の場合、補強は不要とする。
- ・耐力壁付きの家については、原則として補強は不要とする。

5 設備配管

1. 柱・梁

- ・柱への打込みは行わないこと。コンセント・ボックスなどを設置する場合は柱断面を打増し、5.3に従って補強筋を配筋すること。
- ・梁に打込む場合は、事前に監理者の承認を得ること。

見附駅周辺整備計画図

有限会社 アトリエ・ワン 一級建築士事務所 東京都知事登録第46278号
〒160-0018 東京都新宿区須賀町8-79 tel/03-3226-5336 fax/03-3226-5366

一級建築士 玉井洋一 第336929号 国土交通大臣

有限会社 金箱構造設計事務所
一級建築士事務所 東京都知事登録第36591号
一級建築士 金箱温春 第122854号 国土交通大臣

RC基準図

A1:s= — , A3:s= — 210831

S-02

鉄骨基準図(1)

1. 一般事項

(1) 共通事項

- 鉄骨詳細図と本規準との間に違いが生じている場合は、鉄骨詳細図を優先とする。また、詳細図に明示のない部分については、全て本規準図に準拠すること。
- 本規準に記載のない事項は、「JASS6」「鉄骨工事技術指針」(日本建築学会)による。

(2) 製作一般

- 選定した鉄骨製作工場は、監理者の承諾を受ける。
- 鉄骨製作および施工に先立ち、「鉄骨工事施工要領書」を提出し監理者の承諾を受ける。

(3) 使用材料

- 使用材料はJIS規格品または(社)日本建築センターの評定・評価を取得した材料とする。
- 鋼材の材質表示は、下記の記号または特記による。

材質	SS400	SN400A	SN400B	STK400	SN490A	SN490B	STK490
記号	無印	□	回	無印	○	㊤	○

(4) ボルト接合

- 本締めするボルトと、仮締めボルトとを併用しないこと。
- ボルト表示は、下記の記号または特記による。

ボルト径(呼び)	現場HTB	工場HTB	中ボルト
M16	✱	✱	✱
M20	✱	✱	✱
M22	✱	✱	✱
M24	✱	✱	✱

2. ノンスカリップ工法

- 原則として、ノンスカリップ工法とする(ノンスカリップ製作要領書を提出すること)。

柱通しタイプ ノンスカリップ工法(工場溶接)	
裏当て金方式	
梁通しタイプ ノンスカリップ工法(工場溶接)	
裏はつり方式	裏当て金方式

3. 開先規準

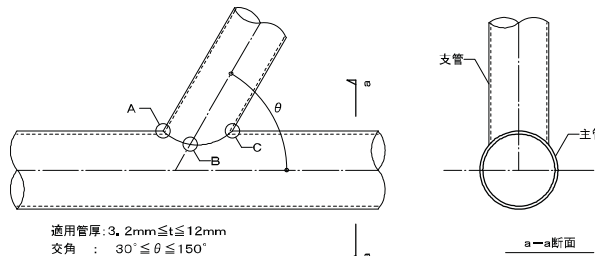
溶接方法		アーク手溶接		サブマージアーク自動溶接	
H		ガスシールドアーク手溶接 セルフガスシールドアーク手溶接		A	
溶接面		1. 片面溶接	2. 両面溶接(裏はつり)	1. 片面溶接	2. 両面溶接(裏はつり)
完全溶込み溶接	B				
	T				
	L				
	かど継手				
適用板厚		$t/4 \leq S \leq 10$	$t/4 \leq S \leq 10$	$t/4 \leq S \leq 10$	$t/4 \leq S \leq 10$

溶接面		1. 片面溶接	2. 両面溶接	溶接面		1. 片面溶接	2. 両面溶接
部分溶込み溶接	P			隅肉溶接	F		
	適用板厚	$12 \leq t \leq 40$	$16 \leq t \leq 40$		適用板厚	$t \leq 16$	$t \leq 16$

FL		丸鋼等片面溶接	丸鋼等両面溶接	軽量形鋼V形溶接	軽量形鋼形溶接
フレア溶接					
	適用板厚	$t \leq 16$	$t \leq 16$	$t \leq 16$	$t \leq 16$

4. 鋼管分岐継手

- 主管の管軸と支管の管軸は一致させること。



A断面	B断面	C断面

5. 溶接の製作目標値

- 余盛高さおよび完全溶込み溶接T継手の補強隅肉溶接の製作目標値は、下記による。

余盛高さ	補強隅肉溶接
突合せ溶接	T継手
B : ビード幅 h : 余盛高さ	ΔS
$B < 1.5$	$0 \leq \Delta S \leq 7$
$0.5 \leq h \leq 3$	$t \leq 4.0$
$1.5 \leq B < 2.5$	$S = t/4$
$0.5 \leq h \leq 4$	$4.0 < t$
$2.5 \leq B$	$S = 1.0$
$0.5 \leq h \leq 4B/2.5$	

6. 溶接部の寸法許容差

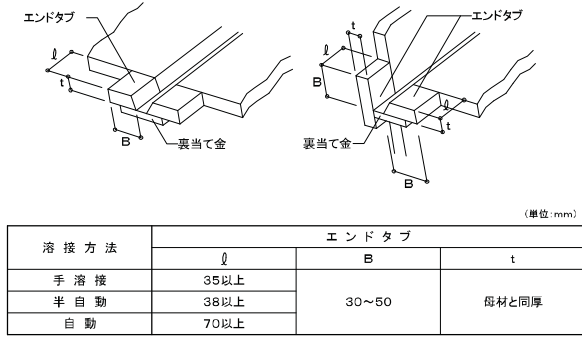
ダイヤフラムとフランジのずれ	突合せ継手の食い違い	アンダーカット
$t_1 \geq t_2$	$t \leq 1.5$	$e \leq 0.3$
$e \leq t_1/5$ かつ $e \leq 4$	$e \leq 1.5$	ただし、上記の数値を超え1mm以下の場合、溶接長の1/10以下であり断面が鋭角的でないものは許容できる。
$t_1 < t_2$	$1.5 < t$	
$e \leq t_1/4$ かつ $e \leq 5$	$e \leq t/10$ かつ $e \leq 3$	

- 溶接部の寸法許容値を超える部分がある場合には監理者と協議後「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル:建築研究所監修」により補強を行うこととする。

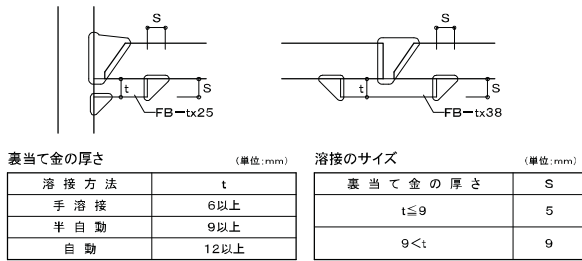
鉄 骨 基 準 図 (2)

7. エンドタブ・裏当て金および裏はつり

- 完全溶込み溶接は原則として、エンドタブを使用する。ただし、回し溶接等により健全な溶接部が得られると認められる場合は、省略することができる。
- 鋼製エンドタブおよび裏当て金の材質は、母材と同等以上のものを用い、エンドタブの寸法形状は下記を標準とする。



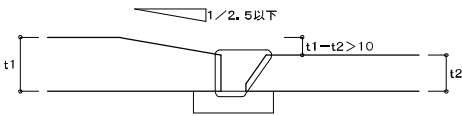
- 片面溶接に用いる裏当て金の溶接は、下記要領で補強隅肉溶接を行なう。



- 完全溶込み溶接における両面溶接は、原則として裏はつりを行なう。
ただし、自動溶接において、完全溶込みが超音波探傷試験等で確認できる場合は、裏はつりを省略することができる。

8. 溶接部分の段差

- 突合せ継手において、突合せる部材の板厚の差が10mmを超える場合は、表面の形が緩やかに移行するように余盛をする。

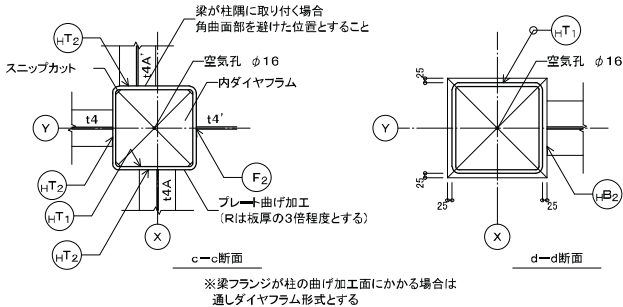
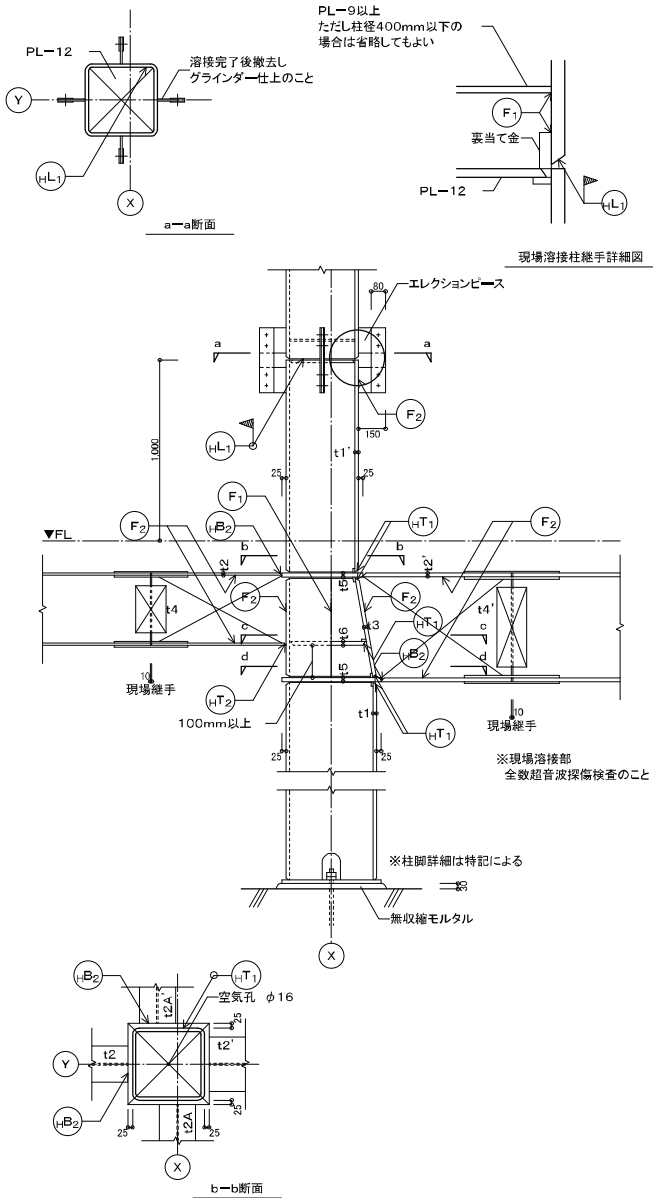


9. その他溶接加工一般

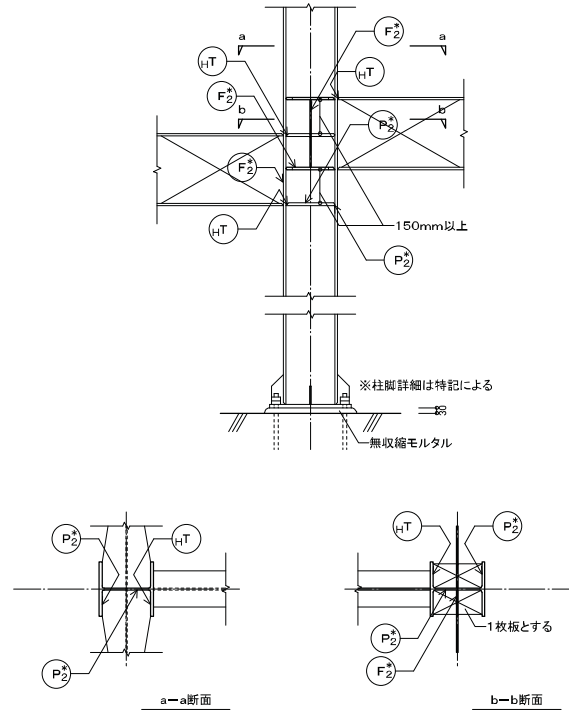
- 組立溶接のビートの間隔は、300mm～400mm程度とする。
- やむを得ず開先内に組立溶接を行わなければならない場合は、本溶接後の品質が十分に確保できる方法とする。
- 溶接は適当な治具を使用し、原則として下向きで行う。
- 溶接部は溶接に先立ち、水分・油・スラグ・塗装・錆等の溶接に支障となるものを除去する。
ただし、溶接に支障のないミルスケールおよび塗料は除去しなくてもよい。
- 溶接棒は常に乾燥した場所に保管し、必要に応じ乾燥器に入れ乾燥させる。
- 溶接による変形や収縮については、なるべくこれを少なくするように適切な対策を立て、出来上がり寸法・形状を正確に保つようにする。
- 隅肉溶接の端部は回し溶接を行う。
- 工事現場においては母材をいためるような仮設ピース等の取付溶接は行わない。

10. 仕口部の溶接

- 材質は、取り付く梁フランジ材および柱材のうち、強度および溶接性の最も優れたものと同等以上のものとする。
- 板厚は以下の通りとする。
t3: 上下の柱材の板厚 (t1・t1') 以上で、かつ寄り合う梁のウェブ板厚 (t4・t4A) 以上とする。
ただし、段違い梁が取り付く場合は、上記かつ梁フランジ板厚 (t2) 以上とする。
t5: 寄り合う梁フランジ板厚 (t2・t2A***) のうち最大の板厚の2サイズアップでかつt3以上とする。
t6: 寄り合う梁フランジ板厚1サイズアップでかつt3の板厚の1サイズアップ以下とする。



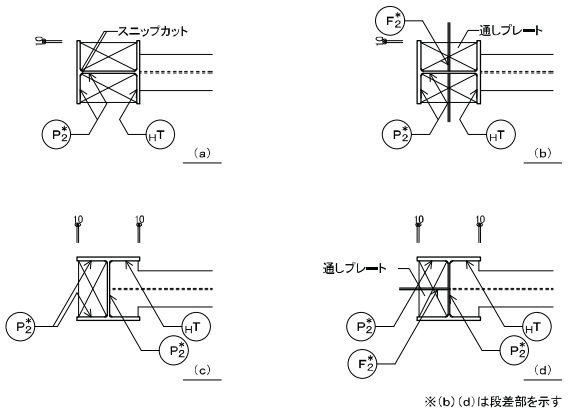
11. 仕口部の溶接 (H形鋼)



- F2 * : ウェブ厚が16mm以上のものについてはP2とする。
- P2 * : 水平スチフナ厚が12mm以下の場合はF2とする。

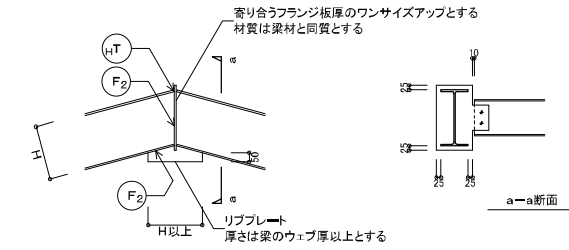
12. 水平スチフナ

仕口部に設ける水平スチフナの形状および大きさは下記を標準とする。材質は梁フランジ材と同一のものとし、板厚は梁フランジ厚以上とする。



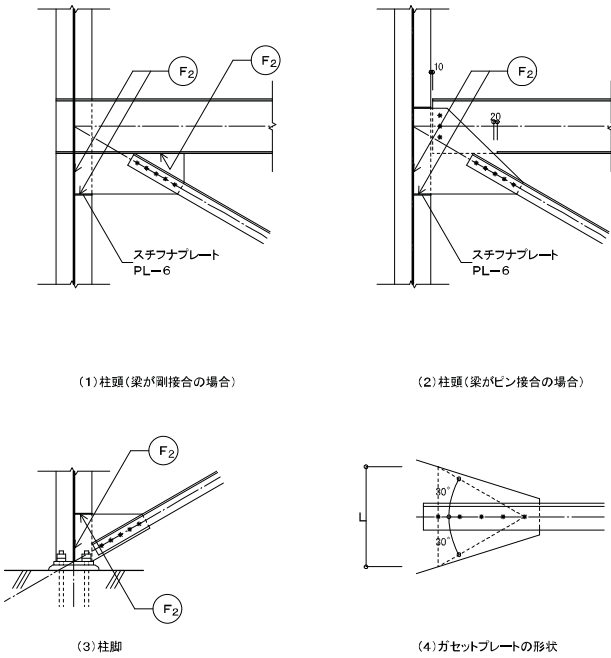
- F2 * : ウェブ厚が16mm以上のものについてはP2とする。
- P2 * : 水平スチフナ厚が12mm以下の場合はF2とする。

13. 山形ラーメン棟部分



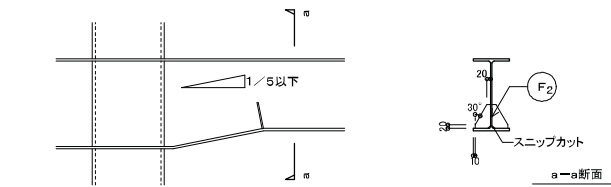
14. 鉛直ブレース仕口

- 柱、梁およびガセットプレートの部材芯は、原則として一致させる。
- ガセットプレートの幅は、材端ボルト位置で図(4)に示すLの長さを確保することを原則とする。



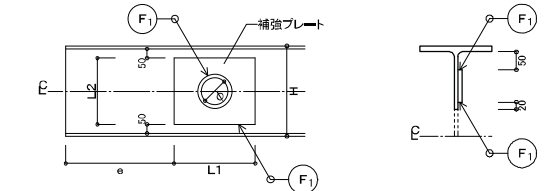
15. 梁ハンチ

- 梁にハンチを設ける場合は、下図のリブプレート設ける。材質、板厚は梁ウェブに同じとする。



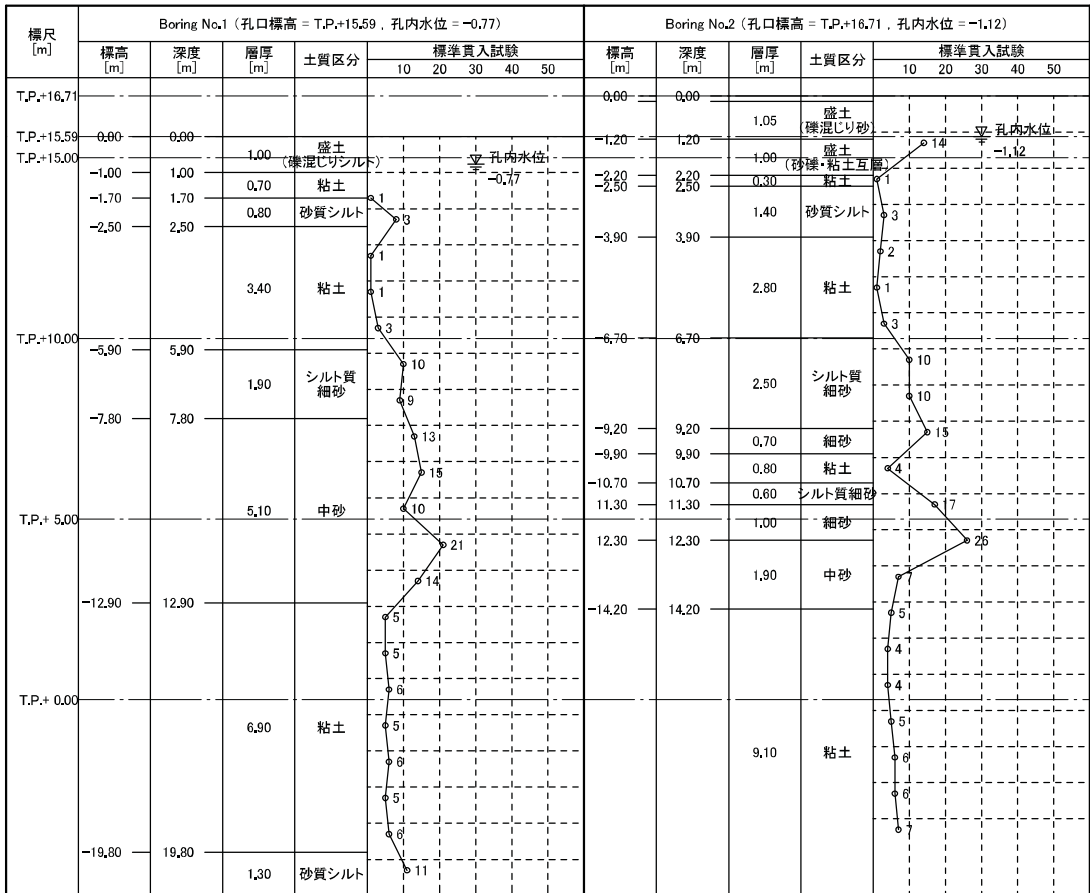
16. 梁貫通孔の補強

- 梁貫通孔の内径寸法 φ は $H/2$ (H: 鉄骨せい) 以下とする。
- 梁貫通孔位置は、原則として中心位置を柱面より $2H + \phi/2$ 以上離すこと。
- 梁貫通孔のピッチは、隣り合う貫通孔の平均径の3倍以上とする。
- 梁貫通孔の補強方法は、原則として補強プレート法とする。



- (注)・L1は3φまたはL2のうち小さい方とする。
- L2は図寸法とする。
 - 補強プレートの厚さは特記による。
 - 補強プレートの厚さが16mm以上となる場合は、必要な厚さの1/2の補強プレートと、ウェブ両面から溶接する。
 - 鉄骨のひずみ矯正上、材端の補強プレートとの間隔eはe ≥ Hとすることが望ましい。
 - 補強プレートは丸形としてもよい。また、上下フランジとのあき(50mm)については、施工性を考慮し小さくすることができる。

地盤柱状図



○ Boring No.1

駅舎

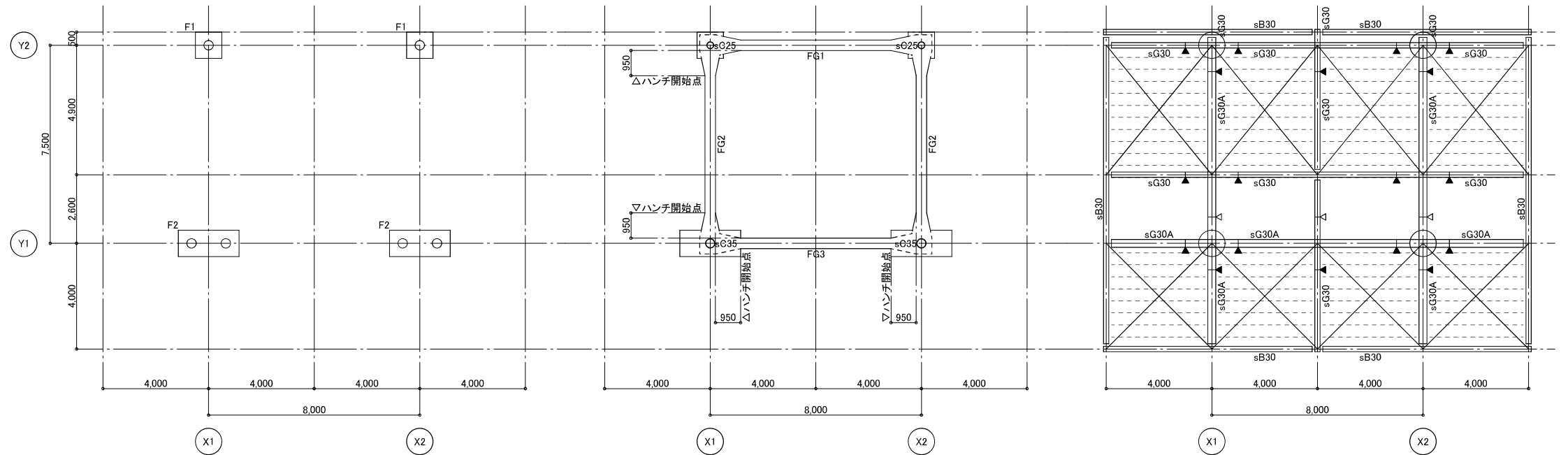
○ Boring No.2

シェルターB

シェルターA

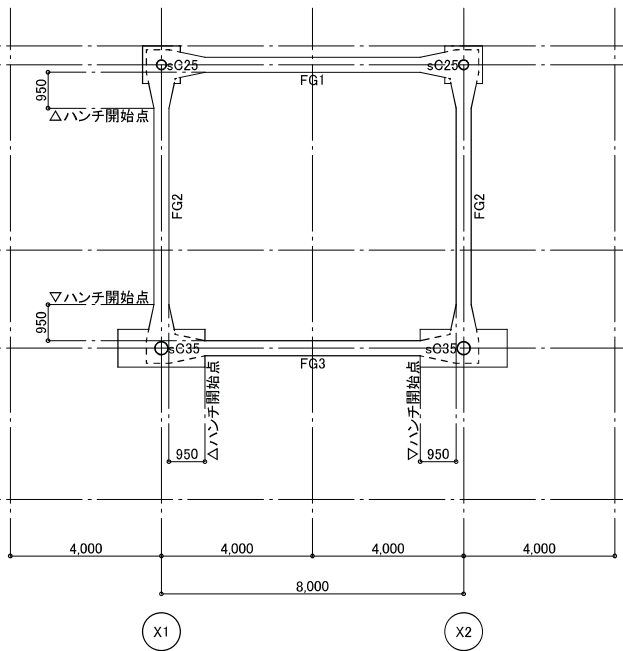
杭工事特記仕様書

符号	P	杭工事特記仕様書
姿図		1.工法 ・回転貫入鋼管杭による「G-ECS PILE 工法」とする。 認定年月日 令和元年7月23日 認定番号 TAOP-0585 認定書 国住指第755号 指定書 国住指第755-2号 性能評価書 BCG基研-FD0124-04
		2.支持層 ・T.P.+8.5m程度のシルト質細砂層とする。
		3.試験杭 ・試験杭位置は最初に施工する1本とする。
		4.根入れ深さ ・杭先端の支持層への根入れ深さは1Dp以上とする。 ・上記を満たさない場合や、想定より浅い位置に強固な支持地盤が存在して掘削が困難となり高止まりする場合は直ちに監理者に報告し、協議する。
		5.施工精度 ・杭芯ずれの許容値は±100mmとする。 ・根切り後、杭芯ずれを測定し監理者へ報告する。
杭種	STK400	6.杭頭処理方法 ・杭頭補強筋のフーチング内への定着長さは40dとする。 ・杭頭補強筋は鋼管杭に対して等間隔に配置し、両側フレア溶接とする。 ・杭頭補強筋の溶接長は100mmとする。 ・杭頭はフーチング内に150mmのみこませる。 ・中詰めコンクリートの深さは杭径以上とする。 ・中詰めコンクリートは躯体と同等強度とする。
杭径	φ 355.6	
板厚	10.3	
杭長	6.0m	
本数	6本	
杭頭補強筋	8-D16	
長期許容支持力	311kN	



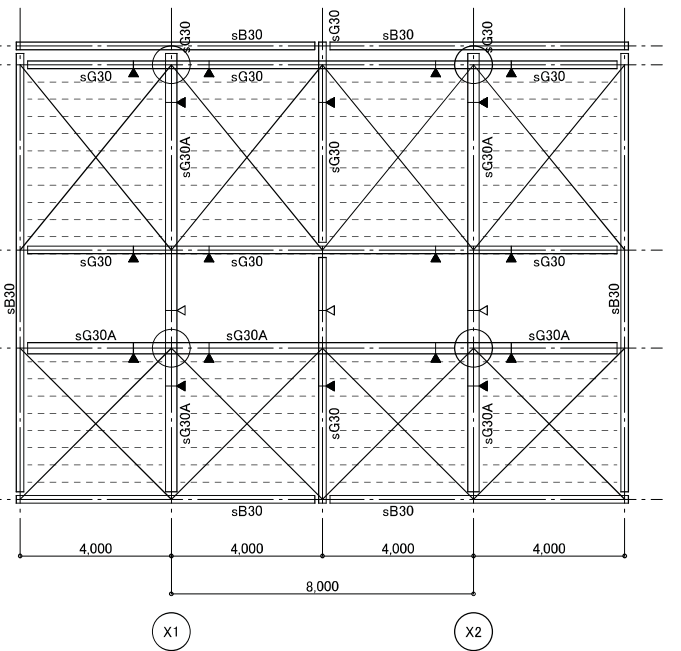
杭伏図

- ・SGL=T.P.+16.12
- ・杭先端はSGL-7,750とする。
- ・基礎下端はSGL-1,900とする。
- ・杭天端はSGL-1,750とする。
- ・杭芯間隔は1,300mmとする。
- ・杭のへりあきは500mmとする。
- ・杭符号はPとする。



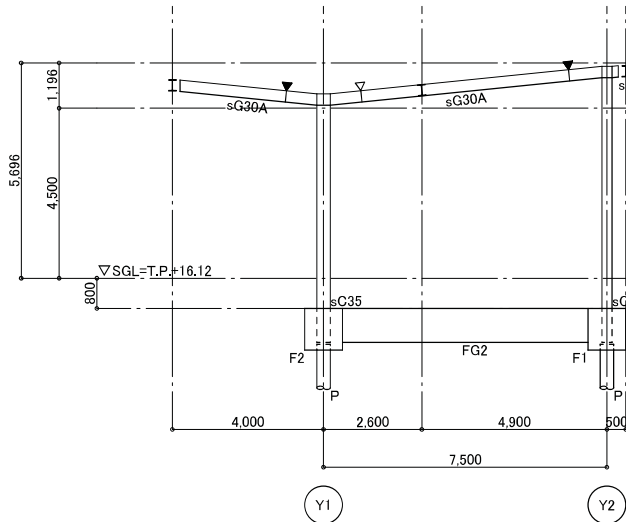
基礎伏図

- ・基礎梁天端はSGL-1,700とする。



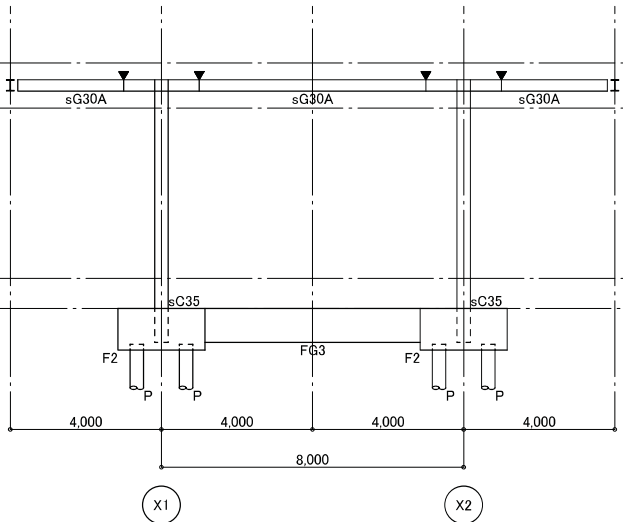
屋根伏図

- ・○は柱位置を示す。
- ・▶は鉄骨梁の現場継手位置を示す。
- ・▷は鉄骨梁の現場溶接継手位置を示す。
- ・鉄骨梁の継手位置は柱心から1,000とする。
- ・—は水平ブレースを示す。
- ・---は母屋を示す。
- 水平ブレース：ターンバックル付きブレース M-20 (SN400B)
- 母屋：C-150×50×20×3.2 @455 (SSC400)



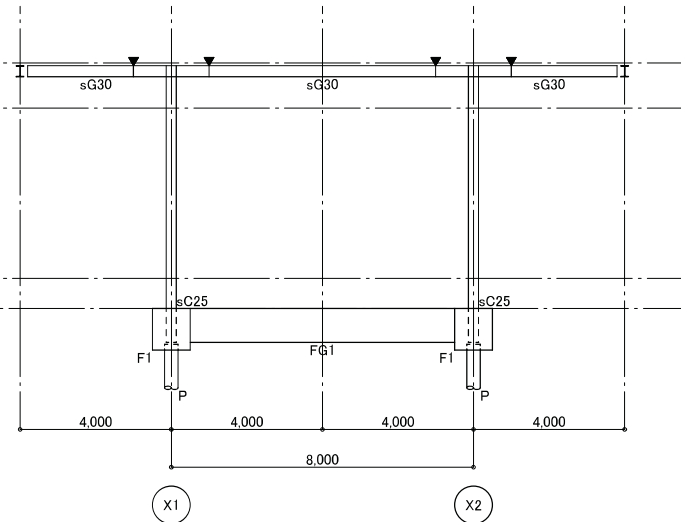
X1,2通り軸組図

- ・▶は鉄骨梁の現場継手位置を示す。
- ・▷は鉄骨梁の現場溶接継手位置を示す。
- ・鉄骨梁の継手位置は柱心から1,000とする。



Y1通り軸組図

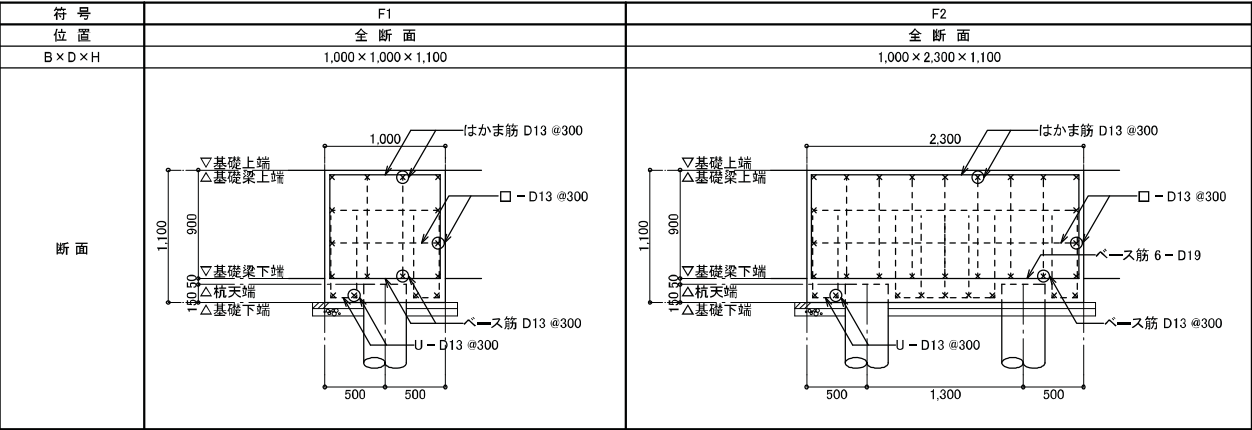
- ・▶は鉄骨梁の現場継手位置を示す。
- ・▷は鉄骨梁の現場溶接継手位置を示す。
- ・鉄骨梁の継手位置は柱心から1,000とする。



Y2通り軸組図

- ・▶は鉄骨梁の現場継手位置を示す。
- ・▷は鉄骨梁の現場溶接継手位置を示す。
- ・鉄骨梁の継手位置は柱心から1,000とする。

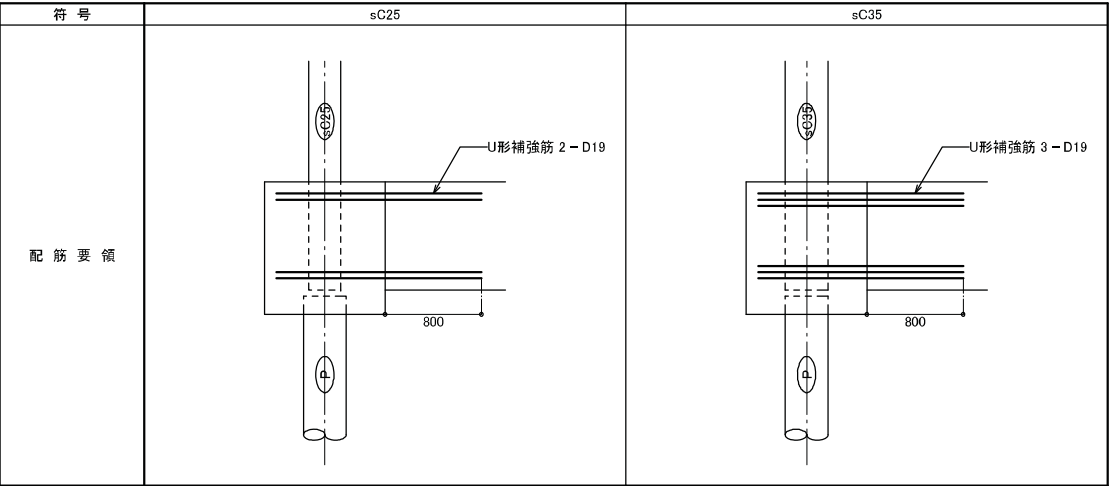
- 基礎リスト
- 地業は捨てコン(t=50)、敷砂利(t=60)とする。
 - 基礎は鉄骨柱脚の柱形を兼用する。



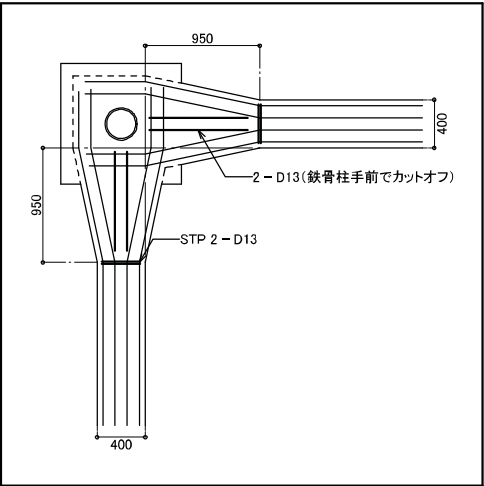
- 基礎梁リスト
- 地業は捨てコン(t=50)、敷砂利(t=60)とする。
 - 幅止筋はD10 @1,000とする。

符 号		FG1		FG2		FG3	
位 置		両 端	中 央	Y1 端	中 央	Y2 端	両 端
b × D		400～800 × 900	400 × 900	400～800 × 900	400 × 900	400～800 × 900	400 × 900
断 面							
主 筋	上 端	4/2 - D19	4 - D19	4/4 - D19	4 - D19	4/2 - D19	4/4 - D19
	下 端	4/2 - D19	4 - D19	4/4 - D19	4 - D19	4/2 - D19	4 - D19
S T P		4 - D13 @200	2 - D13 @200	4 - D13 @200	2 - D13 @200	4 - D13 @200	2 - D13 @200
腹 筋		4 - D10	4 - D10	4 - D10	4 - D10	4 - D10	4 - D10
備 考		○は鉄骨柱手前でカット	-	○は鉄骨柱手前でカット	-	○は鉄骨柱手前でカット	-

側柱補強筋要領



基礎梁端部配筋詳細図



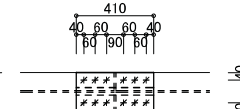
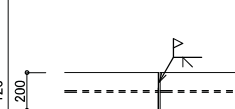

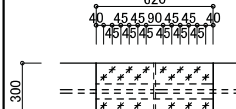
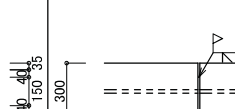
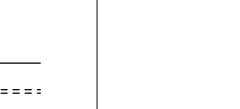
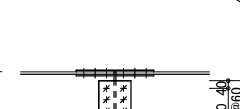
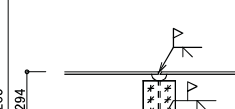
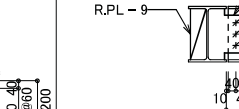
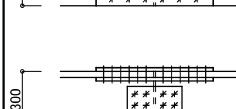
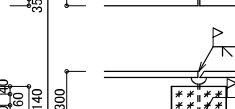

鉄骨柱リスト

・通しダイヤラムの材質はSN490Cとする。
・アンカーボルトの材質はSS400とする。

鉄骨大梁リスト

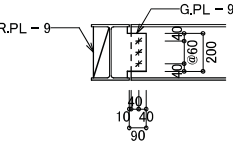
・SPLの材質は母材と同等以上とする。

符 号	sC25	sC35
鋼 種	STKN490B	STKN490B
断 面	φ - 267.4 × 12.7	φ - 355.6 × 12.7
柱 脚 詳 細		
製品名、型式	-	-
ベースプレート	PL - 450 × 450 × 28 (SN490B)	PL - 450 × 450 × 32 (SN490B)
アンカーボルト	4 - M16 (建て方用)	4 - M16 (建て方用)
ベースモルタル	無収縮モルタル t30	無収縮モルタル t30
備 考	-	-

符 号		sG30	sG30A				
鋼 種		SN490B	SN490B				
断 面		H - 294 × 200 × 8 × 12	BH - 300 × 300 × 19 × 32				
接 合 部 詳 細		剛接合	剛接合	ピン接合	剛接合	剛接合	ピン接合
							
							
Flange	PL	2S,PL - 9 × 200 × 410 , 4S,PL - 9 × 80 × 410	現場溶接	-	2S,PL - 19 × 300 × 620 , 4S,PL - 19 × 110 × 440	現場溶接	-
	HTB	24 - M20		48 - M20			
Web	PL	2S,PL - 9 × 200 × 170	2S,PL - 9 × 200 × 170	R,PL - 9 , G,PL - 9	2S,PL - 16 × 140 × 290	2S,PL - 16 × 140 × 290	R,PL - 9 , G,PL - 9
	HTB	6 - M20	6 - M20	3 - M20	8 - M20	8 - M20	3 - M20
備 考		現場継手位置に適用	現場溶接継手位置に適用	-	現場継手位置に適用	現場溶接継手位置に適用	-

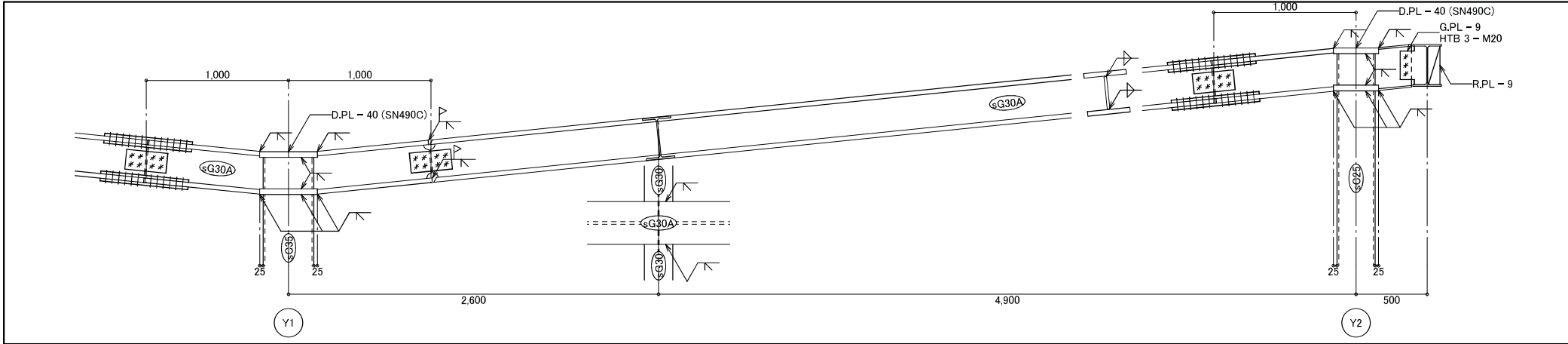
鉄骨小梁リスト

その他リスト

符 号		sB30
鋼 種		SS400
断 面		H - 294 × 200 × 8 × 12
接 合 部 詳 細		
Flange	PL	-
	HTB	
Web	PL	R,PL - 9 , G,PL - 9
	HTB	3 - M20
備 考		-

位 置	水平ブレース	母屋
鋼 種	SN400B	SSC400
断 面	M - 20 (ターンバックル付き)	C - 150 × 50 × 20 × 3.2 @455
断 面 詳 細		
備 考	-	母屋天端が梁天端より高い時に適用 母屋天端が梁天端より低い時に適用







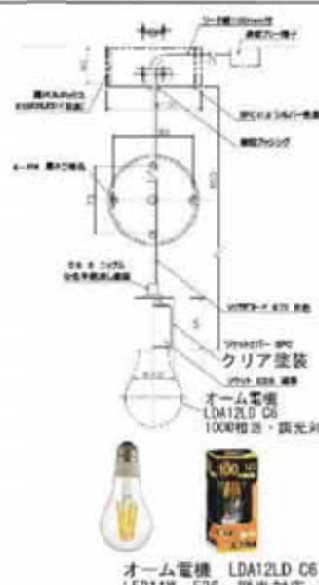





X1,2通り詳細図



共通事項

- ・特記無き鉄骨部材の材質はすべてSS400とする。
- ・特記無き鉄骨部材はすべて溶融亜鉛メッキ処理とする。
- ・高力ボルトは溶融亜鉛メッキボルト(F8T)とし、摩擦面接合面はリン酸亜鉛処理とする。
- ・現場溶接部の表当て金およびエンドタブは除去する。
- ・現場溶接後の溶接部は常温メッキ処理とする。
- ・隅肉溶接部は全周溶接とする。

照明器具姿図

器具番号	Z w 1	I L 1	F 1	U w 1	U w 2	S U 1
小組・図	 <p>特注仕様① ガラス部分 フロストからクリアへ変更</p> <p>半円形の遮光板を器具内に設置</p> <p>空間の奥側へ 光をひろげる</p> <p>歩行者の動線上 目に入る面はグレアを軽減</p> <p>照明器具高さは G L + 600にて検討</p> <p>特注仕様② グレア内に半円形遮光板設置 (光源のグレア軽減)</p> <p>特注仕様③ 光源調整</p> <p>アイリスオーヤマ LED4W LDA4L-G-E17-FC</p>					
名称	直間灯	間接照明 LEDカーブライン	フットライト	アッパライト	床埋込アジャスタブルアッパライト	シェルターC 構造照射アッパライト
メーカー/品番	山田照明 AD-2659-L 特注	エイテックス IL10-090028K	パナソニック YYY66226K	山田照明 AD-2928-L+TG-410	大光電機 LLC-7067XU + LZA-92763	トキスター OLS-30K-80-1
詳細	特注器具問い合わせ先 山田照明(株) 担当上林様 080-4078-2903 y.kamibayashi@yamada-shomei.co.jp	色温度は電球色2800K 電源別置必要	本体色は指定色塗装		調光対応 光源配光について は現地に調整検討	配線経路等調整要 電源別途必要
器具番号	P w 1	D w 1	S w 1	S r 1	U S 1	D w 2
小組・図	 <p>特注仕様① ガラス部分 フロストからクリアへ変更</p> <p>半円形の遮光板を器具内に設置</p> <p>空間の奥側へ 光をひろげる</p> <p>歩行者の動線上 目に入る面はグレアを軽減</p> <p>照明器具高さは G L + 600にて検討</p> <p>特注仕様② グレア内に半円形遮光板設置 (光源のグレア軽減)</p> <p>特注仕様③ 光源調整</p> <p>アイリスオーヤマ LED4W LDA4L-G-E17-FC</p>					
名称	シェルターC ペンダント照明	グレアレスアジャスタブルダウンライト	屋外スポット器具	連続通路スポットライト	道路縁石照水用 再帰反射板 CR30S-8-有	軒下グレアレスダウンライト
メーカー/品番	ライティングクルー ソケットカバー、コードなど色指定	山田照明 DD-3449-LL+ TG-396	山田照明 AD-3228-L	連続照明 ERS6367H + RAD843W+R6682H		山田照明 DD-3449-LL+ TG-396
詳細	照明器具問合せ先 ライティングクルー 担当 佐藤 042 506 7888 crew_s@crest.ocn.ne.jp	色温度2700K 器具を接続する際の器具間隔は≧75mm 器具芯から器具芯まで	特注品 メーカー問い合わせ先 山田照明(株) 担当上林様 080-4078-2903 y.kamibayashi@yamada-shomei.co.jp			

凡 例 表

記 号	名 称	備 考	記 号	名 称	備 考
	電灯分電盤			照明器具（庭園灯）	（照明器具姿図参照）
	ハンドホール	寸法は傍記による。		照明器具（庭園灯+ホース付ライト）	（照明器具姿図参照）
	ブルボックス	寸法は傍記による。 WP:防水・銅板製 指定色塗装（溶融亜鉛メッキ）		照明器具（ホース付ライト+ホース付ライト2灯）	（照明器具姿図参照）
	1個用露出スイッチボックス（器具取付用）	指定色塗装（溶融亜鉛メッキ）		照明器具（ホース付ライト+ホース付ライト4灯）	（照明器具姿図参照）
	露出丸ボックス	指定色塗装（溶融亜鉛メッキ）		照明器具（クランプ式ホース付ライト）	（照明器具姿図参照）
	照明器具（ダウンライト）	（照明器具姿図参照）		照明器具（ペンダントライト）	（照明器具姿図参照）
	照明器具（アップライト）	（照明器具姿図参照）		照明器具（スタンドライト）	（照明器具姿図参照）
	照明器具（ラインライト）	（照明器具姿図参照）		照明器具（プラケットライト）	（照明器具姿図参照）
	照明器具（フットライト）	（照明器具姿図参照）			
	照明器具（スポットライト）	（照明器具姿図参照）			
	照明器具（スポットライト）	（照明器具姿図参照）			
	照明器具（船舶照明）	（照明器具姿図参照）			

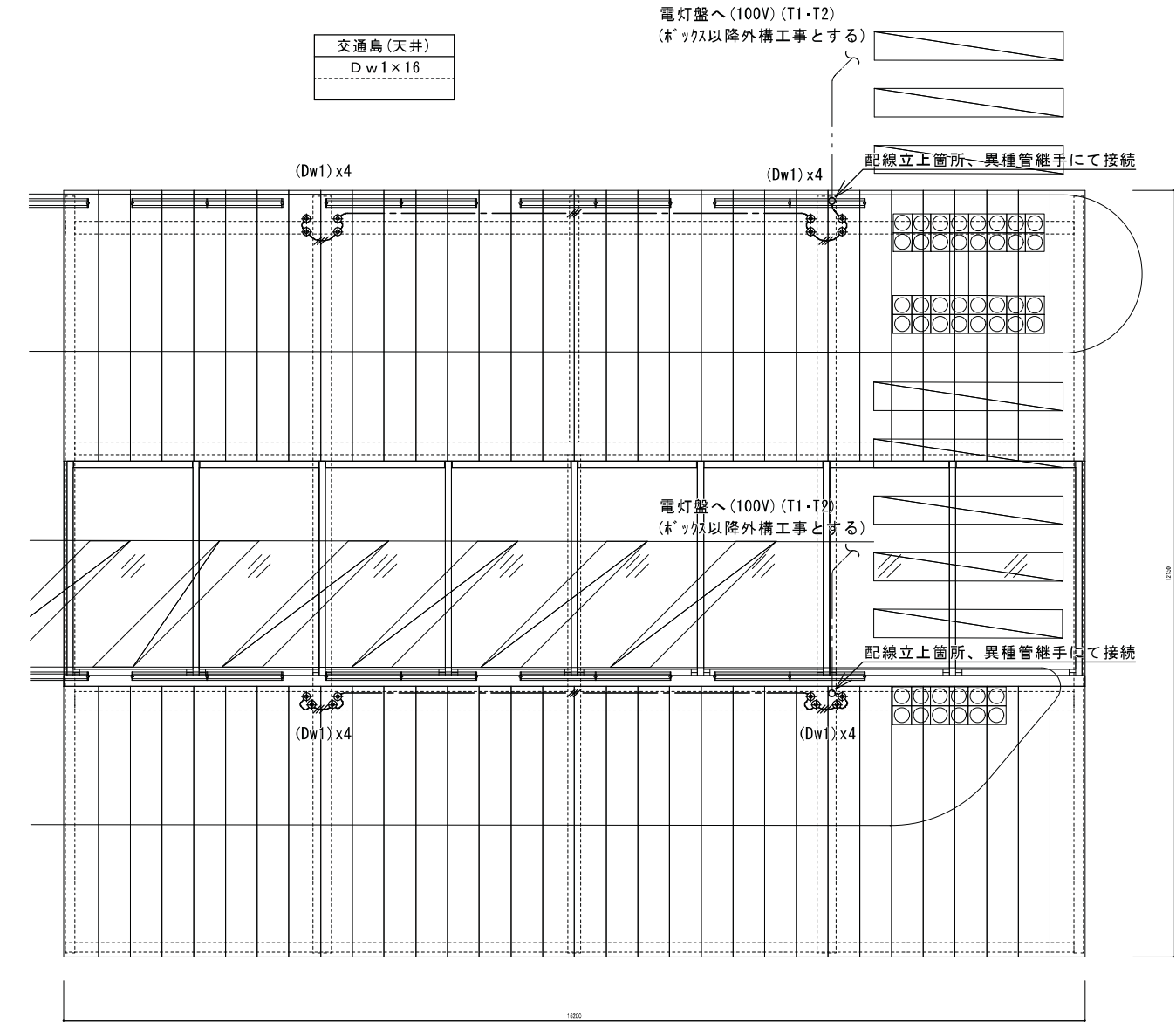
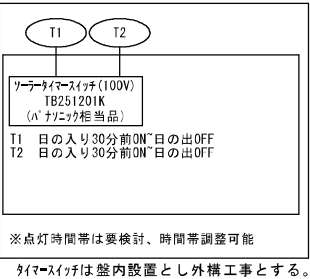
注 記

1. 特記なき配管配線は下記とする。

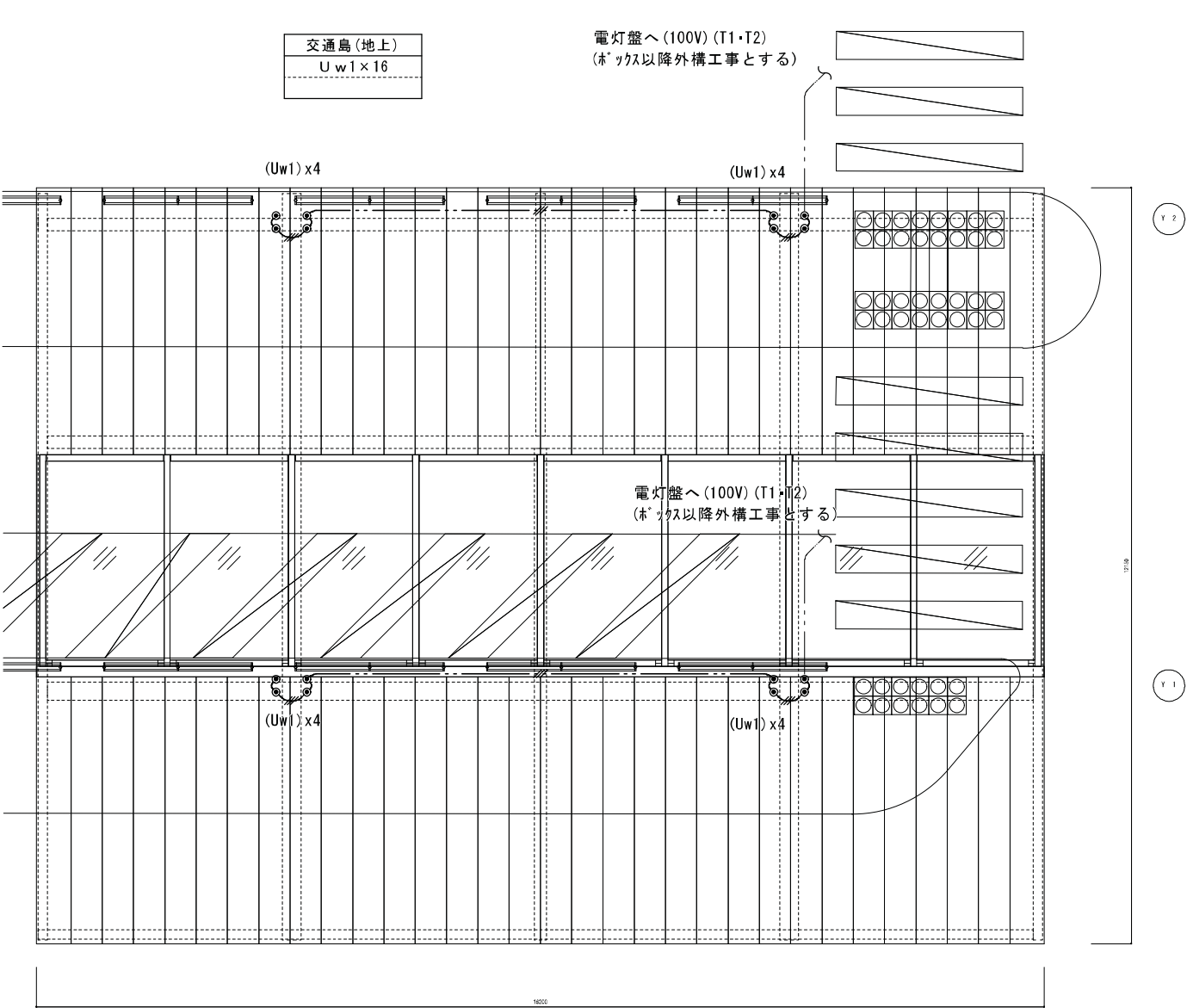
	EM-CES, 5-3C	（内1C7-ス）	（PF28）
	EM-CES, 5-2C×2	（内1C7-ス）	（PF36）
	EM-CES, 5-2C-3C	（内1C7-ス）	（PF36）
	EM-CES, 5-3C	（内1C7-ス）	（G22）露出部
	EM-CES, 5-2C×2	（内1C7-ス）	（G36）露出部
	EM-CES, 5-2C-3C	（内1C7-ス）	（G36）露出部
	EM-CES, 5-3C	（内1C7-ス）	（FEP30）地中埋設配線
	EM-CES, 5-2C×2	（内1C7-ス）	（FEP40）地中埋設配線
	EM-CES, 5-2C-3C	（内1C7-ス）	（FEP40）地中埋設配線
	EM-CES, 5-3C×2	（内1C7-ス）	（FEP40）地中埋設配線
	EM-00GT0, 75-2C	（G16）	
	器具SU1用中間「ド」(5m)＊本工事		

※二重天井内はケーブルころがしとする。
※ケーブル配線で壁立下げ及び貫通部は、適合する保護管にて保護をする事。

■ 壁内タイマースイッチ制御系統



交通島シェルター 天井レベル



交通島シェルター 地上レベル



令和 5 年度 建工第 4 号
見附駅周辺整備（東口駅前広場造成）工事

**【造成関連】
設計図面**

見附市都市環境課

S=1 : 300



駅前広場割付平面図

S=1:300

JR見附駅

駅前広場設計範囲

連絡通路設計範囲

掘り付け区間
4.62
掘り付け区間
1.50

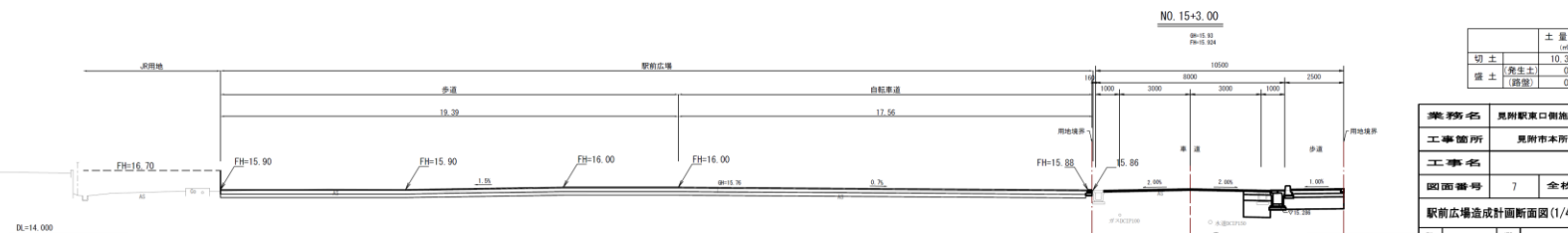
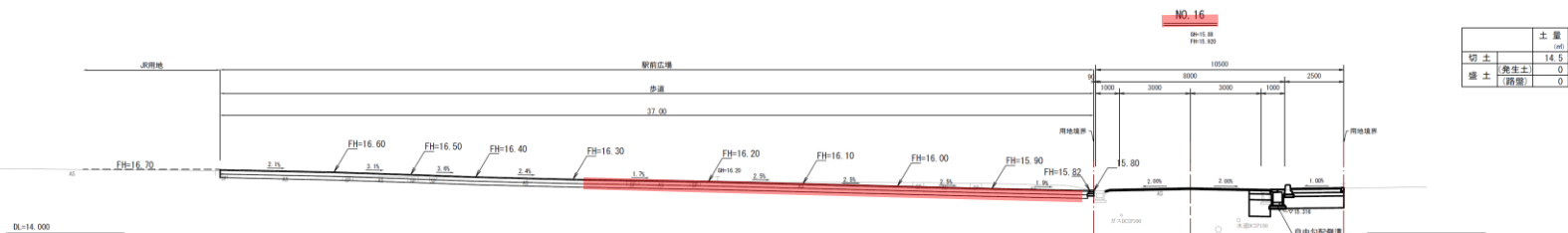
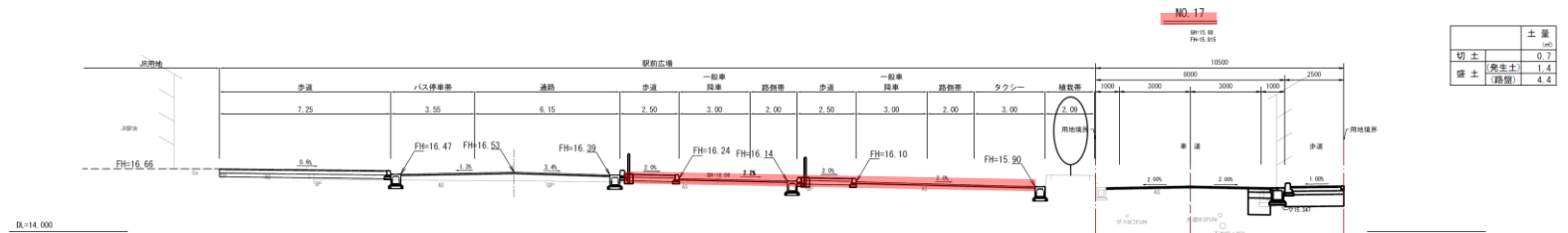
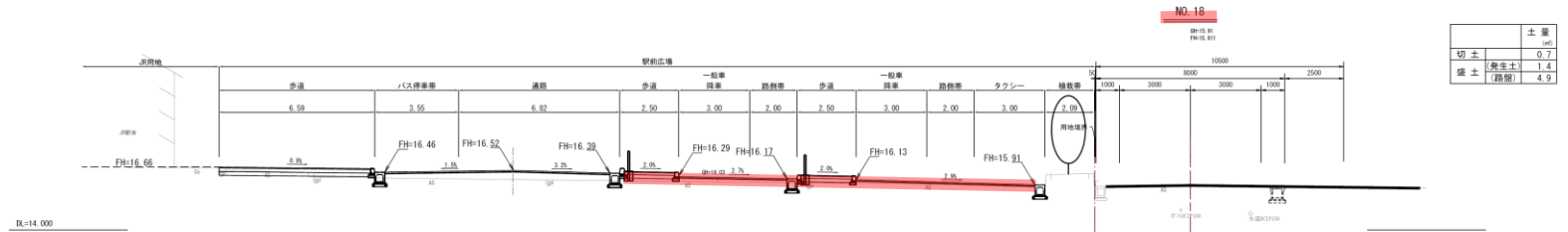
測点	X	Y	1A	PI	TL	CL	SL
IP-1	170,833.330	35,762.123	467°00'00"	—	—	—	—
IP-2	170,837.776	35,765.476	467°00'00"	—	—	—	—
IP-3	170,842.222	35,768.762	467°00'00"	—	—	—	—
IP-4	170,846.214	35,769.904	467°00'00"	—	—	—	—
IP-5	170,850.938	35,769.980	467°00'00"	—	—	—	—
IP-6	170,856.441	35,763.523	467°00'00"	—	—	—	—
IP-7	170,871.452	35,751.683	467°00'00"	—	—	—	—
IP-8	170,882.238	35,744.242	467°00'00"	—	—	—	—
IP-9	170,884.775	35,813.304	467°00'00"	—	—	—	—
IP-10	170,879.676	35,820.527	467°00'00"	—	—	—	—
IP-11	170,875.075	35,828.202	467°00'00"	—	—	—	—
IP-12	170,861.647	35,828.034	467°00'00"	—	—	—	—
IP-13	170,865.637	35,825.288	467°00'00"	—	—	—	—
IP-14	170,867.871	35,833.338	467°00'00"	—	—	—	—
IP-15	35,878.839	35,829.084	467°00'00"	—	—	—	—
IP-16	35,836.926	35,811.033	467°00'00"	—	—	—	—
IP-17	35,840.202	35,811.282	467°00'00"	—	—	—	—
IP-18	35,872.884	35,818.266	467°00'00"	—	—	—	—
IP-19	35,871.038	35,818.483	467°00'00"	—	—	—	—
IP-20	35,834.866	35,784.525	467°00'00"	—	—	—	—
IP-21	35,800.206	35,782.542	467°00'00"	—	—	—	—
IP-22	170,868.206	35,784.998	467°00'00"	—	—	—	—
IP-23	170,865.747	35,818.995	467°00'00"	—	—	—	—
IP-24	426,259.421	35,800.000	467°00'00"	—	—	—	—
IP-25	170,868.462	35,807.827	467°00'00"	—	—	—	—
IP-26	170,864.526	35,821.821	467°00'00"	—	—	—	—
IP-27	170,853.820	35,822.000	467°00'00"	—	—	—	—
IP-28	170,859.888	35,822.000	467°00'00"	—	—	—	—
IP-29	170,838.237	35,822.000	467°00'00"	—	—	—	—

測点	X	Y
Y1	170,810.304	35,800.919
Y2	170,807.400	35,792.384
Y3	170,815.716	35,775.814
Y4	170,805.902	35,763.843
Y5	170,825.126	35,751.526
Y6	170,825.852	35,760.148
Y7	170,825.366	35,773.741
Y8	170,825.444	35,782.261
Y9	170,806.433	35,771.781
Y10	170,828.512	35,768.074
Y11	170,825.717	35,763.689
Y12	170,817.369	35,769.561
Y13	170,828.488	35,776.564
Y14	170,825.159	35,772.922
Y15	170,825.176	35,804.947
Y16	170,825.176	35,804.947
Y17	170,825.176	35,804.947
Y18	170,825.176	35,804.947
Y19	170,825.176	35,804.947
Y20	170,825.176	35,804.947
Y21	170,825.176	35,804.947
Y22	170,825.176	35,804.947
Y23	170,825.176	35,804.947
Y24	170,825.176	35,804.947
Y25	170,825.176	35,804.947
Y26	170,825.176	35,804.947
Y27	170,825.176	35,804.947
Y28	170,825.176	35,804.947
Y29	170,825.176	35,804.947
Y30	170,825.176	35,804.947
Y31	170,825.176	35,804.947
Y32	170,825.176	35,804.947
Y33	170,825.176	35,804.947
Y34	170,825.176	35,804.947
Y35	170,825.176	35,804.947
Y36	170,825.176	35,804.947
Y37	170,825.176	35,804.947
Y38	170,825.176	35,804.947
Y39	170,825.176	35,804.947
Y40	170,825.176	35,804.947
Y41	170,825.176	35,804.947
Y42	170,825.176	35,804.947
Y43	170,825.176	35,804.947
Y44	170,825.176	35,804.947
Y45	170,825.176	35,804.947
Y46	170,825.176	35,804.947
Y47	170,825.176	35,804.947
Y48	170,825.176	35,804.947
Y49	170,825.176	35,804.947
Y50	170,825.176	35,804.947
Y51	170,825.176	35,804.947
Y52	170,825.176	35,804.947
Y53	170,825.176	35,804.947
Y54	170,825.176	35,804.947
Y55	170,825.176	35,804.947
Y56	170,825.176	35,804.947
Y57	170,825.176	35,804.947
Y58	170,825.176	35,804.947
Y59	170,825.176	35,804.947
Y60	170,825.176	35,804.947
Y61	170,825.176	35,804.947
Y62	170,825.176	35,804.947
Y63	170,825.176	35,804.947
Y64	170,825.176	35,804.947
Y65	170,825.176	35,804.947
Y66	170,825.176	35,804.947
Y67	170,825.176	35,804.947
Y68	170,825.176	35,804.947
Y69	170,825.176	35,804.947
Y70	170,825.176	35,804.947
Y71	170,825.176	35,804.947
Y72	170,825.176	35,804.947
Y73	170,825.176	35,804.947
Y74	170,825.176	35,804.947
Y75	170,825.176	35,804.947
Y76	170,825.176	35,804.947
Y77	170,825.176	35,804.947
Y78	170,825.176	35,804.947
Y79	170,825.176	35,804.947
Y80	170,825.176	35,804.947
Y81	170,825.176	35,804.947
Y82	170,825.176	35,804.947
Y83	170,825.176	35,804.947
Y84	170,825.176	35,804.947
Y85	170,825.176	35,804.947
Y86	170,825.176	35,804.947
Y87	170,825.176	35,804.947
Y88	170,825.176	35,804.947
Y89	170,825.176	35,804.947
Y90	170,825.176	35,804.947
Y91	170,825.176	35,804.947
Y92	170,825.176	35,804.947
Y93	170,825.176	35,804.947
Y94	170,825.176	35,804.947
Y95	170,825.176	35,804.947
Y96	170,825.176	35,804.947
Y97	170,825.176	35,804.947
Y98	170,825.176	35,804.947
Y99	170,825.176	35,804.947
Y100	170,825.176	35,804.947

測点名	見附駅駅前広場設計範囲測量点
工事箇所	見附市南2丁目 地内
工事名	駅前広場設計範囲
図面番号	7 全枚数
縮尺	1:300
設計	測量 山田洋行 設計 山田洋行
新島県 見附市	

駅前広場造成計画断面図(1/4)

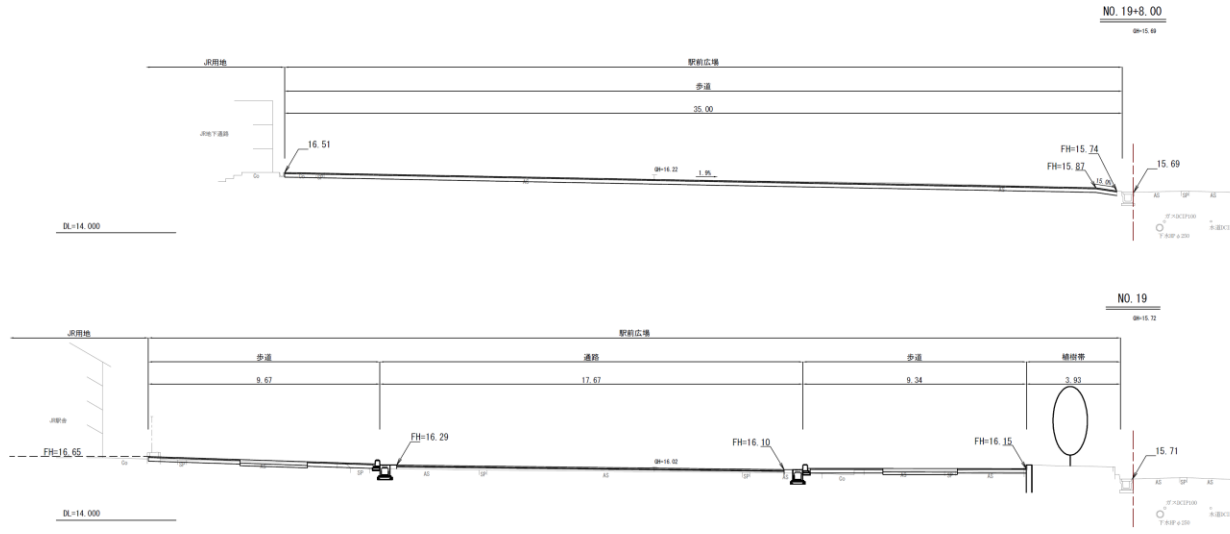
S=1:200



業務名	見附駅東口駅前用地測量等業務		
工事箇所	見附市本所2丁目 地内		
工事名	工事		
図面番号	7	全枚数	
駅前広場造成計画断面図(1/4)			縮尺 1:200
設計	測量	山田測量株式会社	厚等
新潟県 見附市			

駅前広場造成計画断面図(2/4)

S=1:200



	土量
切土	10.2
埋土	0
(発生土)	0
(路盤)	0

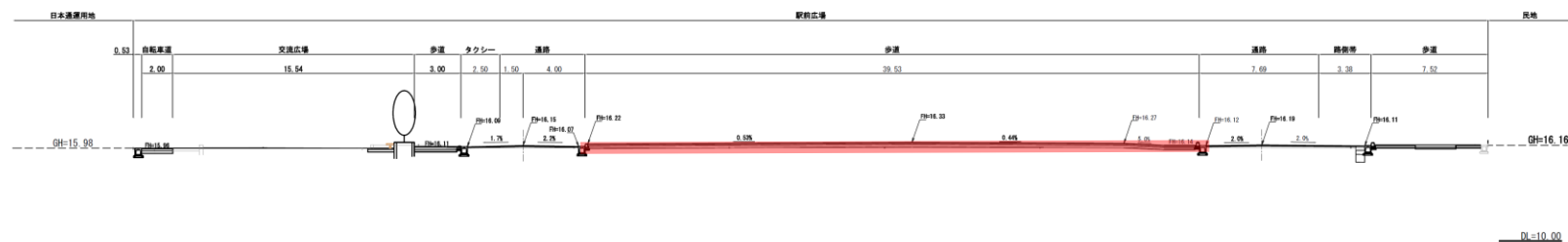
	土量
切土	2.4
埋土	0.2
(発生土)	1.3
(路盤)	1.3

【参考図】

業務名	見附駅東口駅前施設用地測量等業務		
工事箇所	見附市本所2丁目 地内		
工事名	工事		
図面番号	8	全枚数	
駅前広場造成計画断面図(2/4)			縮尺 1:200
設計	測量	山形測量株式会社	原簿
新潟県 見附市			

S=1 : 300

C-C



業務名	見附駅東口側施設用地測量等業務				
工事箇所	見附市本所2丁目 地内				
工事名	工事				
図面番号	9	全枚数		縮尺	1:300
駅前広場造成計画断面図(3/4)					
設計		測量	山田測量 株式会社	標写	
新潟県 見附市					

S=1 : 300

S=1 : 300

Figure 1: Road cross-section diagram. The diagram shows a road profile with various elevations and distances. Key points include: Elevation 15.84 at the start, followed by a 0.65 distance to a '路缘③交点' (Curb Intersection 3) at elevation 16.08. Then a 7.46 distance to another '路缘③交点' at elevation 16.28. A 1.49 distance leads to elevation 16.32. A 6.10 distance leads to elevation 16.49. A 8.85 distance leads to elevation 16.53. A 7.54 distance leads to another elevation 16.53. A 13.52 distance leads to elevation 16.55. A 22.33 distance leads to elevation 16.48. A 8.12 distance leads to a '路缘③交点' at elevation 16.31. A 10.20 distance leads to another '路缘③交点' at elevation 16.09. A 11.88 distance leads to elevation 15.83. The diagram also shows a 0.15% slope and a 0.31% slope. The total length is 15.00.

Technical drawing of a roof plan showing a rectangular layout with dimensions and slopes. The drawing is divided into four quadrants by a central vertical line. The top-left quadrant has a width of 4.32 and a depth of 20.72. The top-right quadrant has a width of 19.23 and a depth of 5.30. The bottom-left quadrant has a width of 2.31 and a depth of 16.28. The bottom-right quadrant has a width of 1.13 and a depth of 16.25. The total width is 26.55 and the total depth is 26.00. The drawing includes a scale bar at the bottom left indicating 0 to 15.00 units.

[illegible]

業務名	見附駅東口側施設用地測量等業務		
工事箇所	見附市本所2丁目 地内		
工事名	工事		
図面番号	9	金枚数	
駅前広場造成計画断面図(4/4)			縮尺 1:300
設計	測量	山田測量株式会社	摩弓

新潟県 見附市

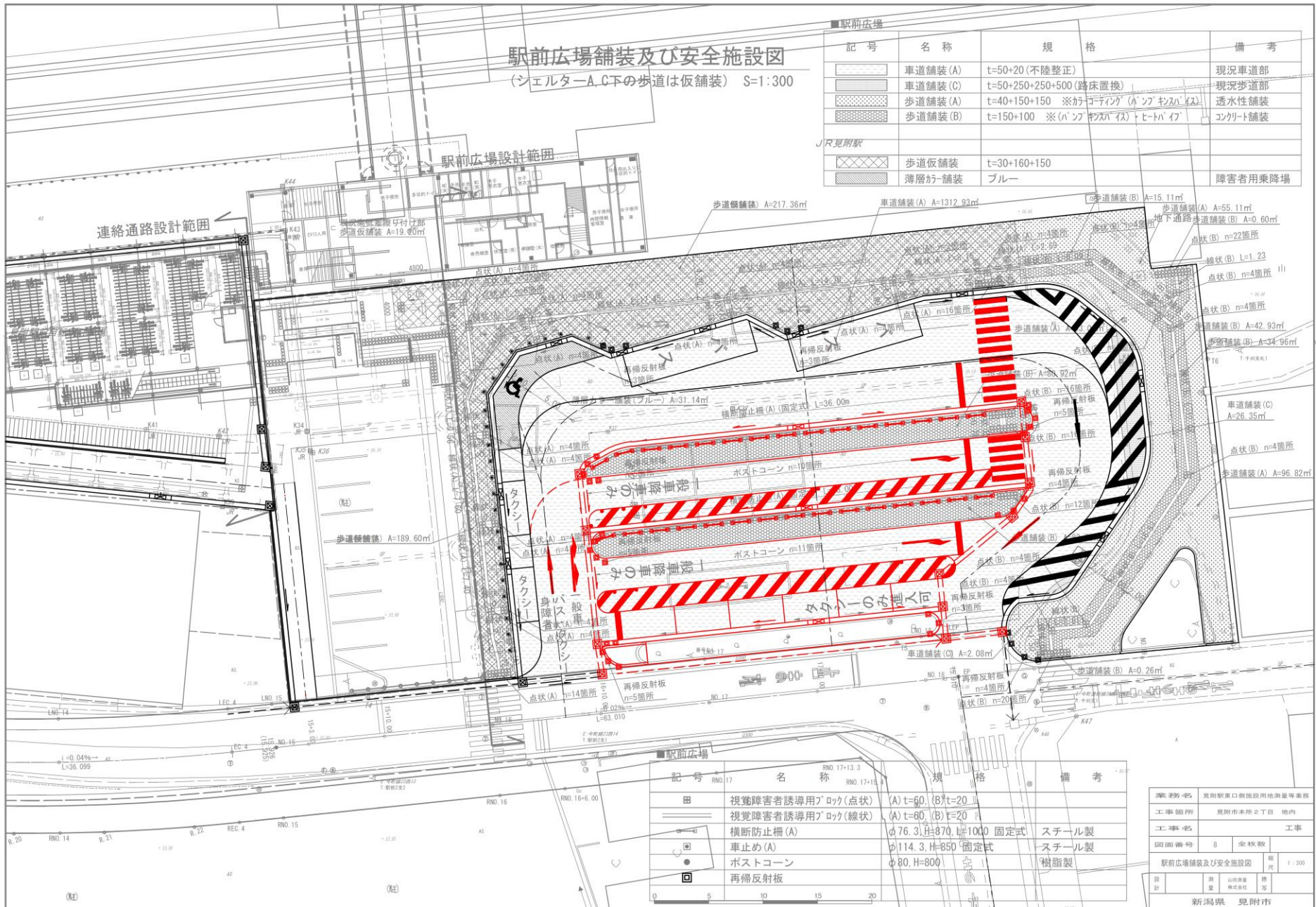
■駅前広場

記号	名称	規格	備考
	車道舗装(A)	t=50+20(不陸正)	現況車道部
	車道舗装(C)	t=50+250+250+500(路床置換)	現況歩道部
	歩道舗装(A)	t=40+150+150 ※カゴティング(ハフ・キス・イ)	透水性舗装
	歩道舗装(B)	t=150+100 ※(ハフ・キス・イ) + ヒートアイ	コンクリート舗装
JR見附駅			
	歩道仮舗装	t=30+160+150	
	薄層仮舗装	ブルー	障害者用乗降場

JR見附駅

駅前広場設計範囲

連絡通路設計範圍



駅前広場歩道舗装本復旧平面図

(シェルター-A,0施工後)

S=1:300

駅前広場

記号	名称	規格	備考
	車道舗装(A)	t=50+20(不陸整正)	現況車道部
	車道舗装(C)	t=50+250+250+500(路床置換)	現況歩道部
	歩道舗装(A)	t=40+150+150 ※(n' シン' イス)	透水性舗装
	歩道舗装(B)	t=150+100 ※(n' シン' イス)・t=10' イ'	コンクリート舗装
	歩道仮舗装	t=30+160+150	
	薄層カー舗装	ブルー	障害者用乗降場

JR見附駅

連絡通路設計範囲

駅前広場設計範囲

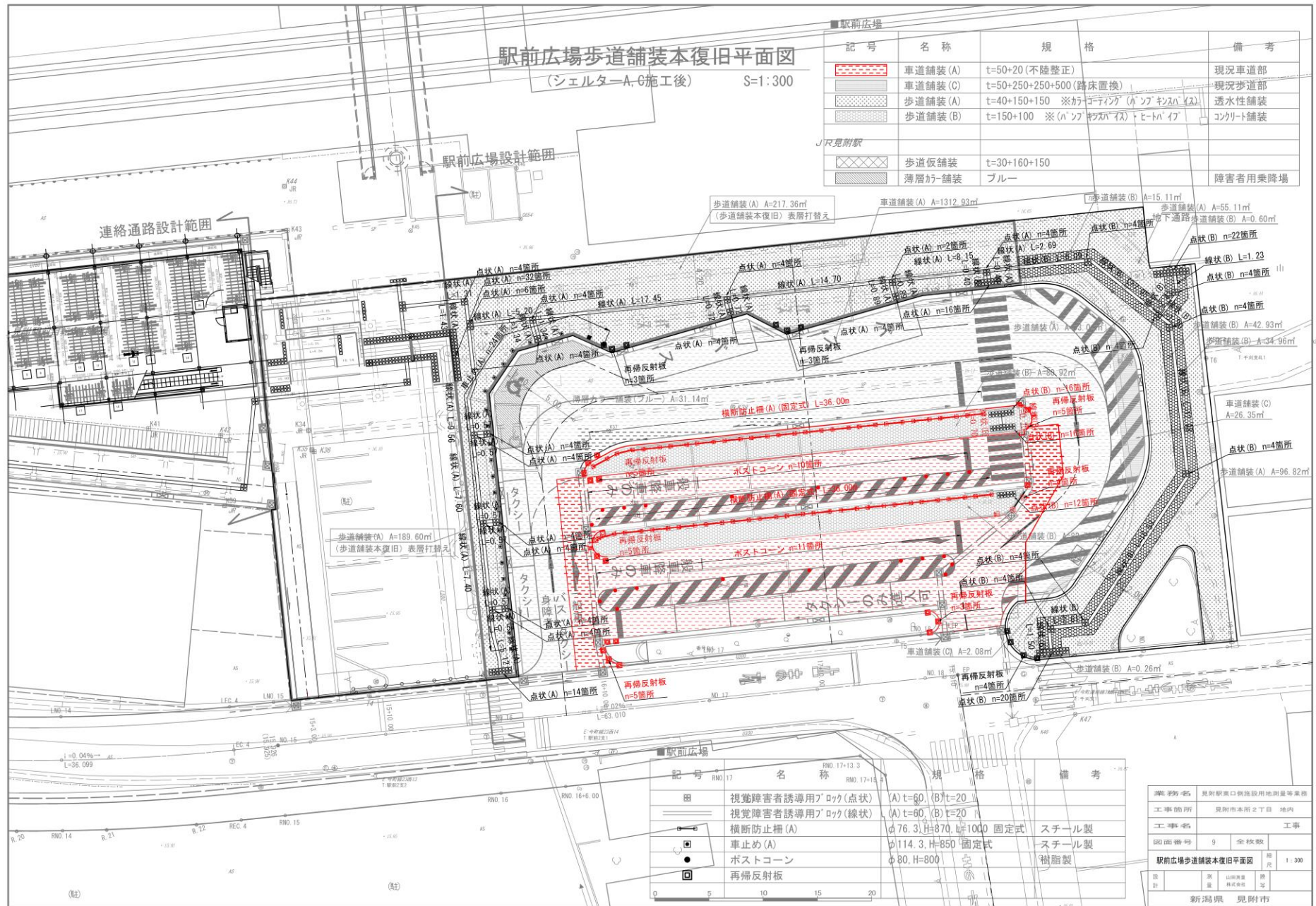
歩道舗装(A) A=217.36㎡
(歩道舗装本復旧) 表層打替え

車道舗装(A) A=1312.93㎡

歩道舗装(B) A=15.11㎡

歩道舗装(A) A=55.11㎡

地下通路歩道舗装(B) A=0.60㎡



記号	名称	規格	備考
	視覚障害者誘導用ブロック(点状)	(A) t=60 (B) t=20	
	視覚障害者誘導用ブロック(線状)	(A) t=60 (B) t=20	
	横断防止柵(A)	φ76.3, H=870, L=1000 固定式	スチール製
	車止め(A)	φ114.3, H=850 固定式	スチール製
	ポストコーン	φ80, H=800	樹脂製
	再帰反射板		

業務名称	見附駅駅口施設用地測量等業務
工事場所	見附市本所2丁目 地内
工事内容	工事
図面番号	9 全枚数
図面名称	駅前広場歩道舗装本復旧平面図
縮尺	1:300
設計	山田測量株式会社
監理	山田測量株式会社
施工	山田測量株式会社

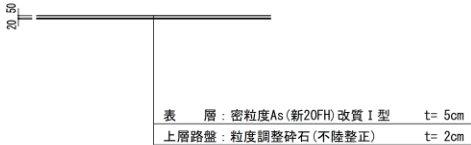
新潟県 見附市

駅前広場舗装構成図

S=1:100

車道舗装 (A)

(現況車道部)



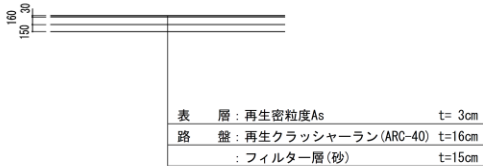
車道舗装 (C)

(現況歩道部)

設計CBR3.0%

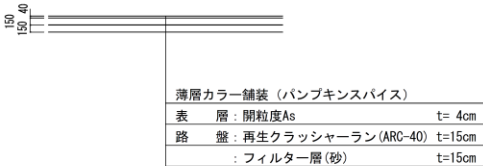


仮舗装 (再生密粒度舗装)

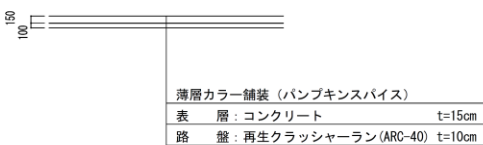


歩道舗装 (A)

(透水性舗装)



歩道舗装 (B)



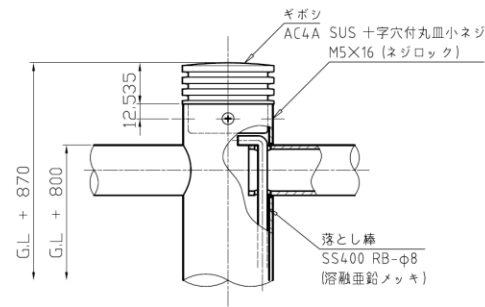
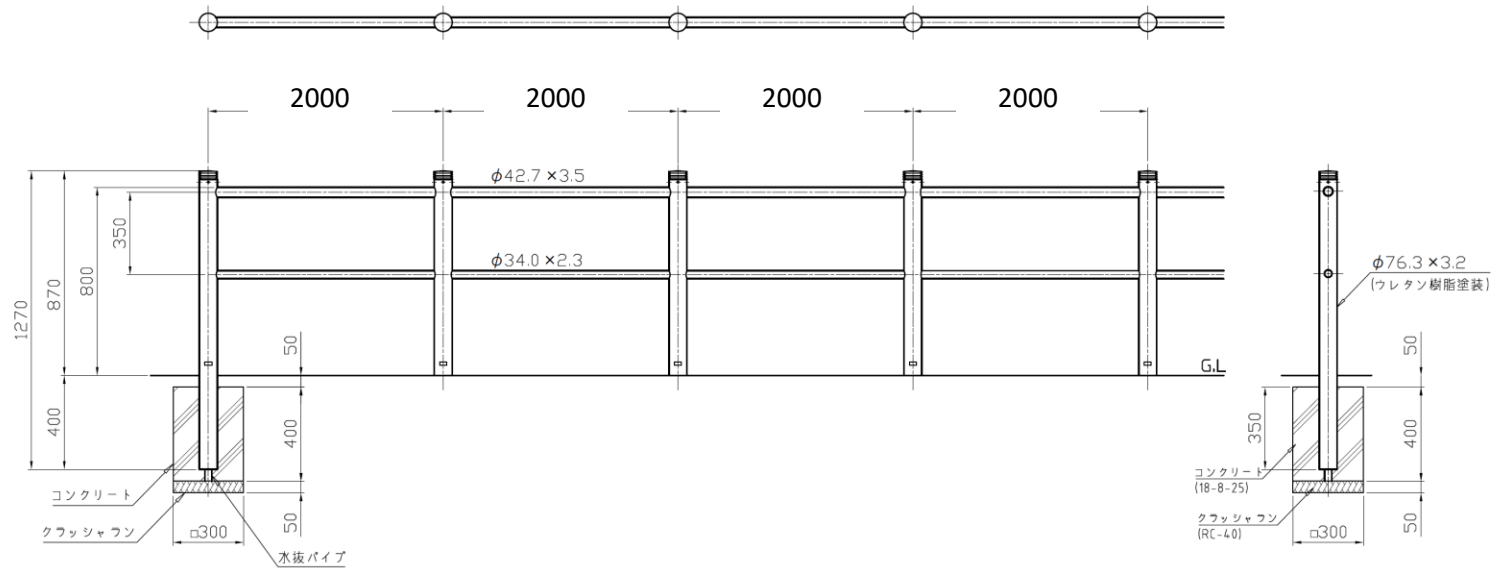
図面番号	16	全校数		縮尺	1:100
設計	測量	山田測量株式会社	監	等	

新井県 見附市

安全施設構造図 (1)

横断防止柵 (A) S=1:20

(H=870, 固定式) 交通島に設置

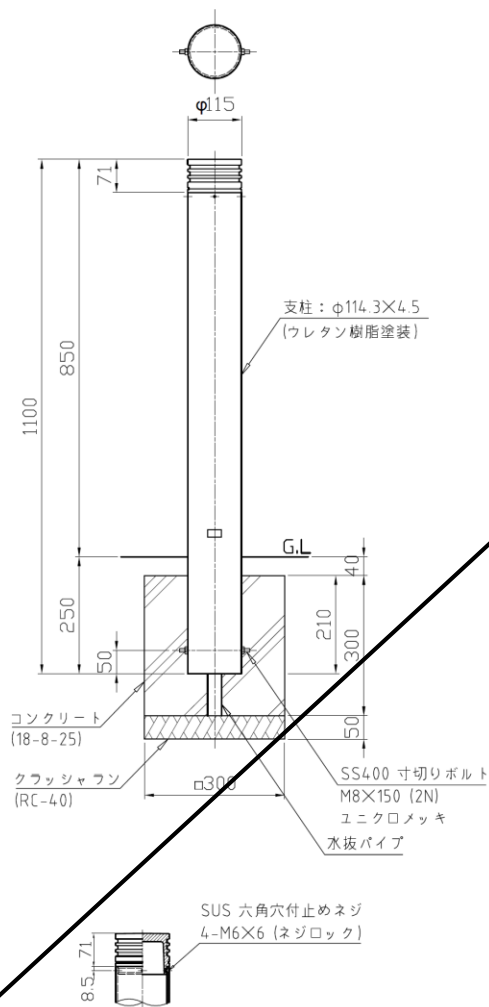


支柱頂部詳細図 S=1:4

業務名	見附駅東口側施設用地測量等業務		
工事箇所	見附市本所2丁目 地内		
工事名	工事		
図面番号	全枚数	冊数	図示
安全施設構造図 (1)			
設計	監理	山形県建設局	図示
新潟県 見附市			

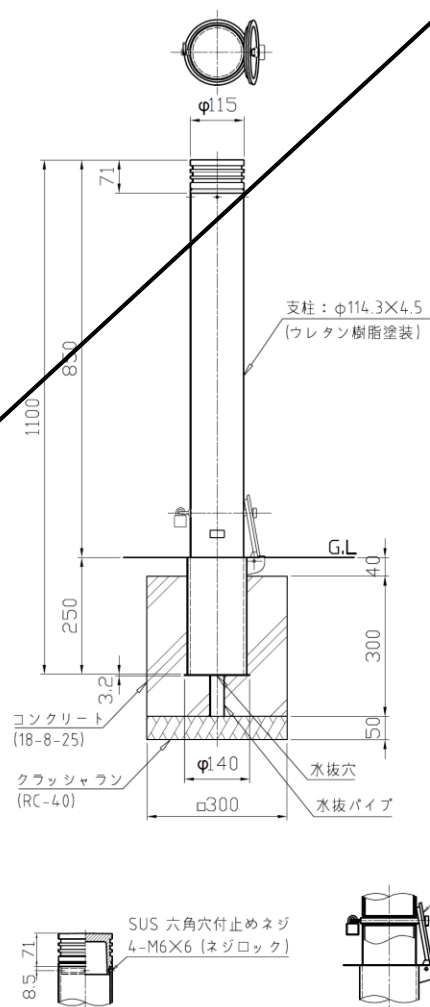
安全施設構造図(2)

車止め (A) S=1:10
(H=850, 固定式)

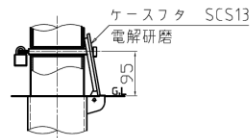


支柱頂部詳細図 S=1:10

車止め (B) S=1:10
(H=850, 脱着式)

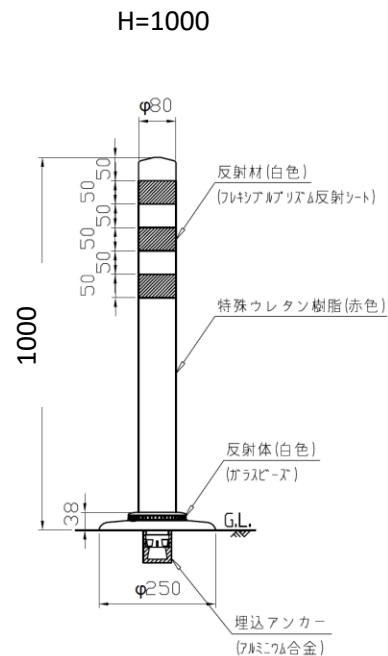


支柱頂部詳細図 S=1:10



施錠部詳細図 S=1:10

ポストコーン S=1:10



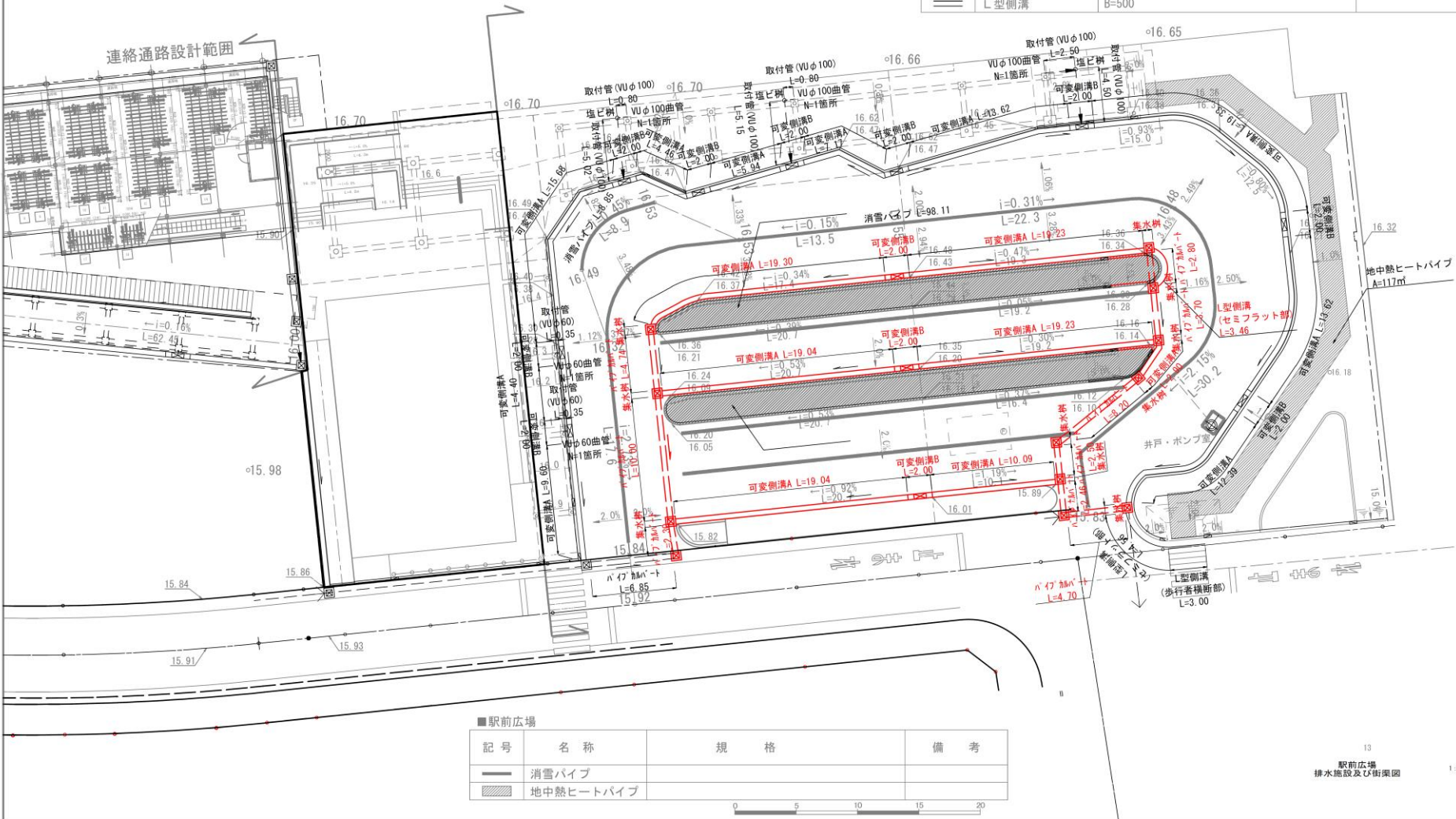
製図者名	見附駅東口改良用地測量等業務		
工事箇所	見附市本所2丁目 地内		
工事名	工事		
図面番号	全枚数	冊数	図示
安全施設構造図(2)			
設計	測量	山田建設株式会社	監理
新潟県 見附市			

S=1 : 300

駅前広場設計範囲

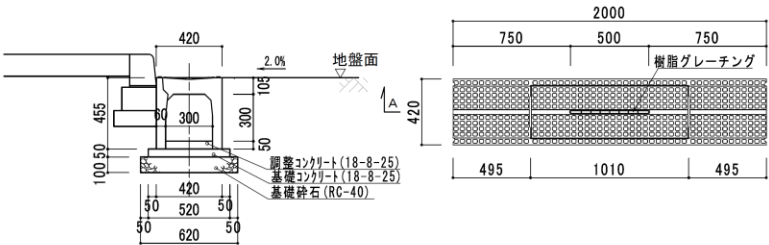
連絡通路設計範圍

記 号	名 称	規 格	備 考
	可変倒溝A	300×300×2000	コンクリート蓋
	可変倒溝B	300×300×2000	ゲレチン [※] 蓋(細目)
	パイプカルバート	φ300	
	取付管	VUφ100・φ60、90°曲管(シエルト・堅樋)	
	集水樹	500×500×600、塩ビ樹(φ300)	
	L型倒溝	B=500	

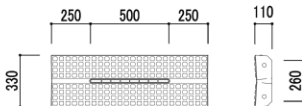


排水施設構造図(1)

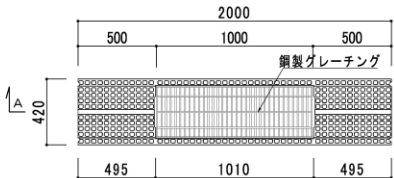
可変側溝A (300×300)
S=1:30



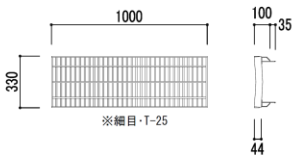
コンクリート蓋版



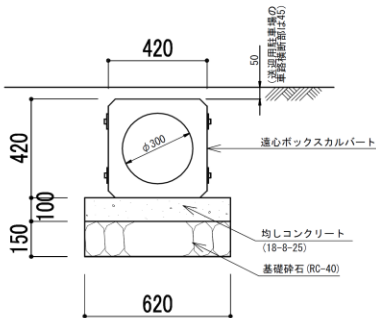
可変側溝B (300×300)
S=1:30



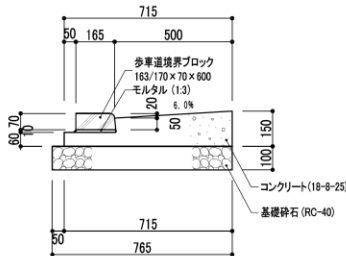
グレーチング蓋版



パイプカルバート (φ300)
S=1:20



L型側溝 (歩行者横断面)
S=1:20

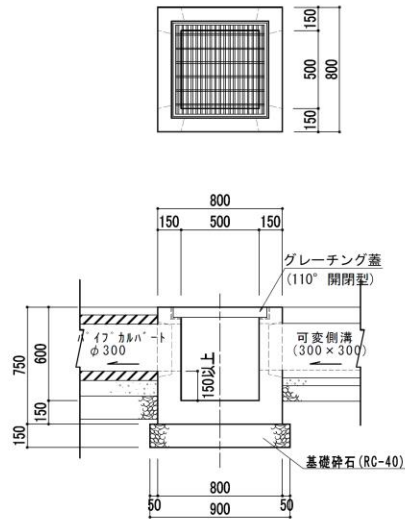


実施計画書名	見附駅東口側施設用地測量等業務		
工事箇所	見附市本所2丁目 地内		
工事名	工事		
図面番号	全枚数	図示	図示
排水施設構造図(1)			
設計	測量	山田測量株式会社	監査
新潟県 見附市			

排水施設構造図(2)

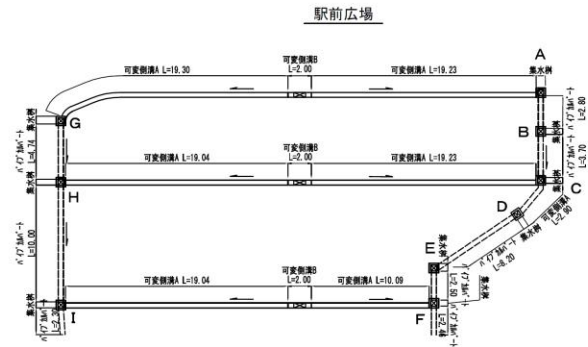
可変側溝用集水樹 (500×500×600)

S=1:30



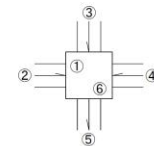
集水樹配置平面図

S=1:400



集水樹一覧表(駅前広場)

樹No.	①	②	③	④	⑤
A	16.340	15.740 可変300×300 15.935	—	—	P-38mm-1φ300 15.930
B	16.280	15.680 —	P-38mm-1φ300 15.870	—	P-38mm-1φ300 15.870
C	16.140	15.540 可変300×300 15.735	P-38mm-1φ300 15.730	—	可変300×300 15.730
D	16.100	15.500 —	可変300×300 15.695	—	P-38mm-1φ300 15.695
E	15.940	15.340 —	—	P-38mm-1φ300 15.530	P-38mm-1φ300 15.530
F	15.880	15.290 可変300×300 15.485	P-38mm-1φ300 15.480	—	P-38mm-1φ300 15.480
G	16.210	15.610 可変300×300 15.805	—	—	P-38mm-1φ300 15.800
H	16.090	15.490 —	P-38mm-1φ300 15.680	可変300×300 15.685	P-38mm-1φ300 15.680
I	15.820	15.220 —	P-38mm-1φ300 15.410	可変300×300 15.415	P-38mm-1φ300 15.410



- ①: 樹天端高
- ②③④: 流入底高
- ⑤: 流出底高
- ⑥: 樹底高

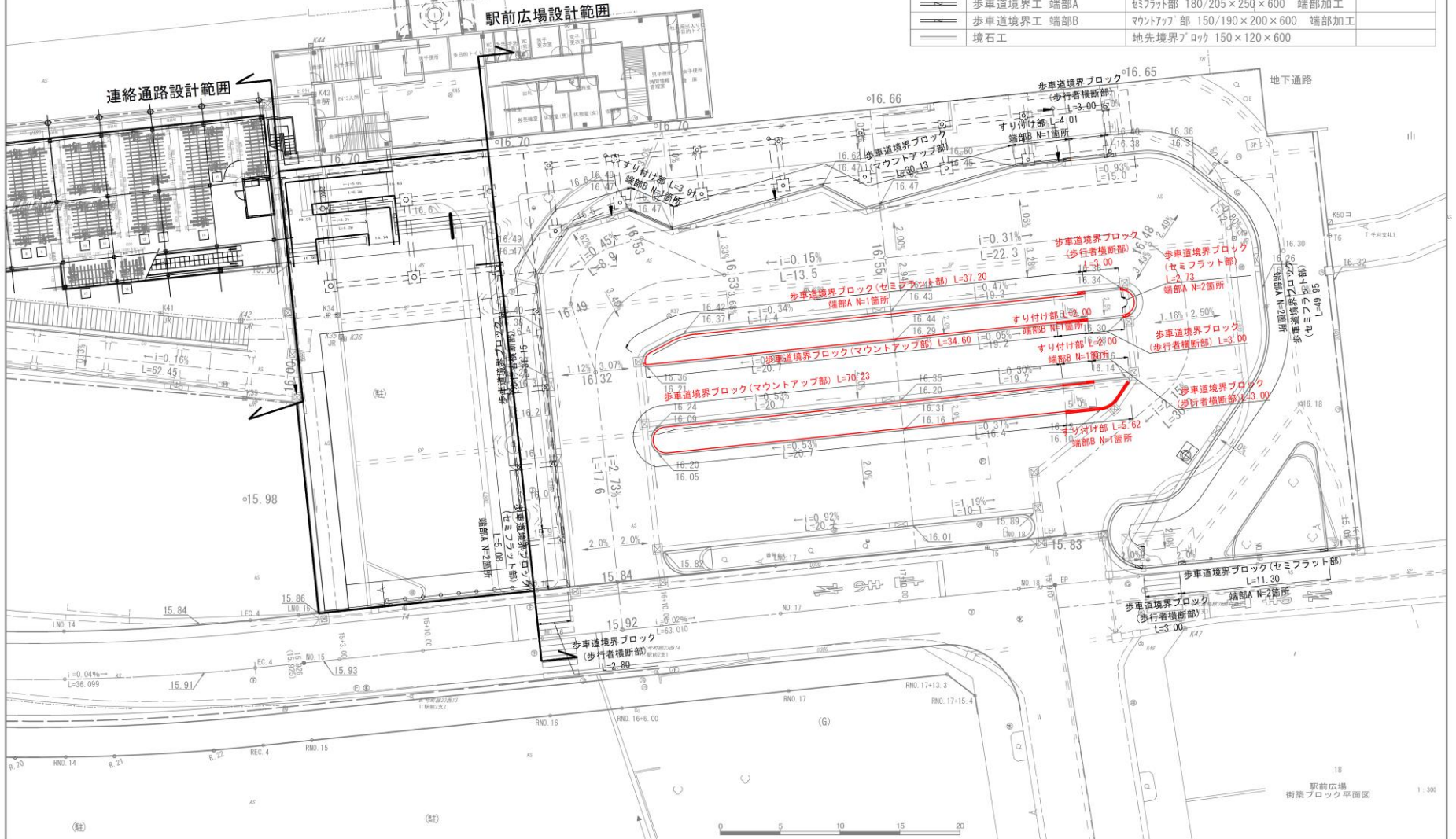
調査場所名	見附駅東口側施設用地調査等業務		
工事箇所	見附市本所2丁目 地内		
工事名	工事		
図面番号	30	全枚数	
排水施設構造図(2)			
設計	測量	山田建設株式会社	監 示
新潟県 見附市			

駅前広場街築ブロック平面図

S=1:300

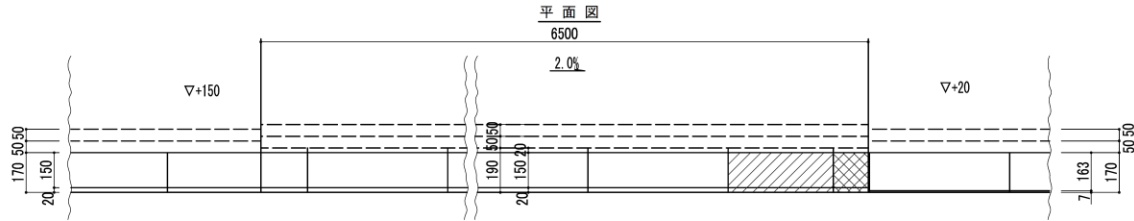
■駅前広場

記号	名称	規格	備考
——	歩車道境界工(セミフラット部)	180/205×250×600(両面R)	段差5cm
——	歩車道境界工(マウントアップ部)	150/170×200×600(片面R)	段差15cm
——	歩車道境界工(歩行者横断部)	163/170×70×600(片面R)	段差2cm
——	歩車道境界工(すり付け部)	マウントアップ部 150/190×200×600(両面R)	段差2~15cm
——	歩車道境界工 端部A	セミフラット部 180/205×250×600 端部加工	
——	歩車道境界工 端部B	マウントアップ部 150/190×200×600 端部加工	
——	境石工	地先境界ブロック 150×120×600	

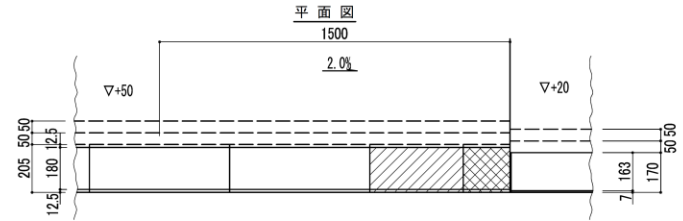


歩車道境界ブロックすり付け構造図 S=1:20

マウントアップ～歩行者横断部



セミフラット～歩行者横断部



正面図

正面図

すり付け部

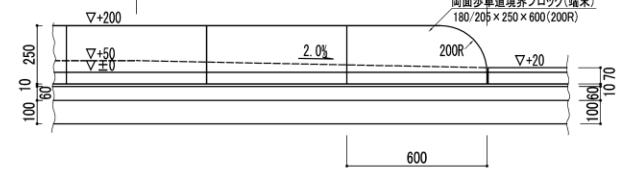
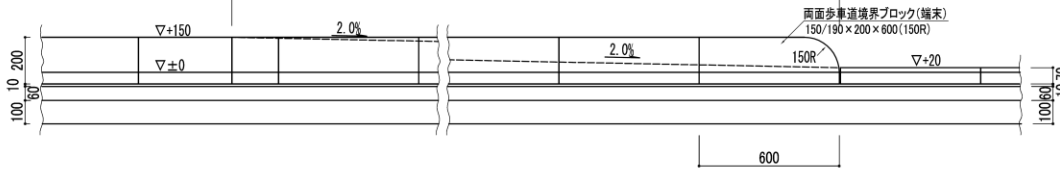
すり付け部

マウントアップ部

歩行者横断部

セミフラット部

歩行者横断部



断面図

断面図

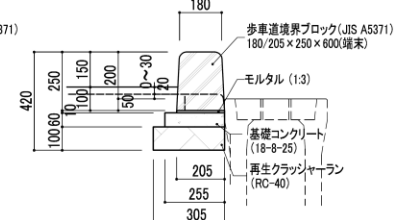
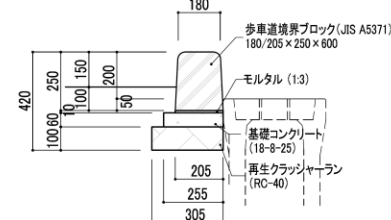
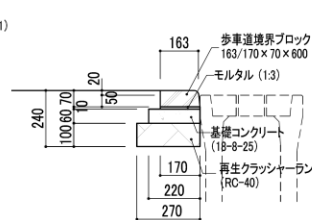
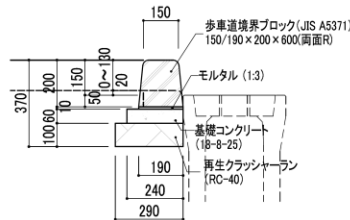
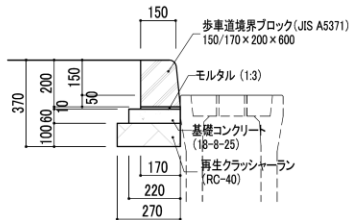
マウントアップ部

すり付け部

歩行者横断部

セミフラット部

すり付け部



業務名	見附駅東口側施設用地測量等業務		
工事箇所	見附市本所2丁目 地内		
工事名	街築構造図		
図面番号	30	全枚数	
設計	測量	山田謙 株式会社	図示
新潟県 見附市			

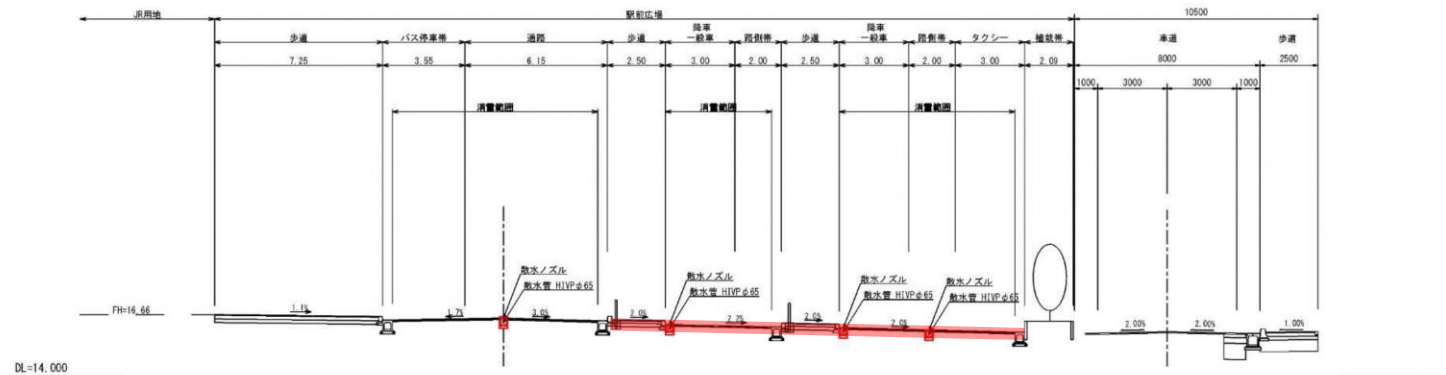
S=1 : 200



駅前広場 標準横断面図

S=1:100

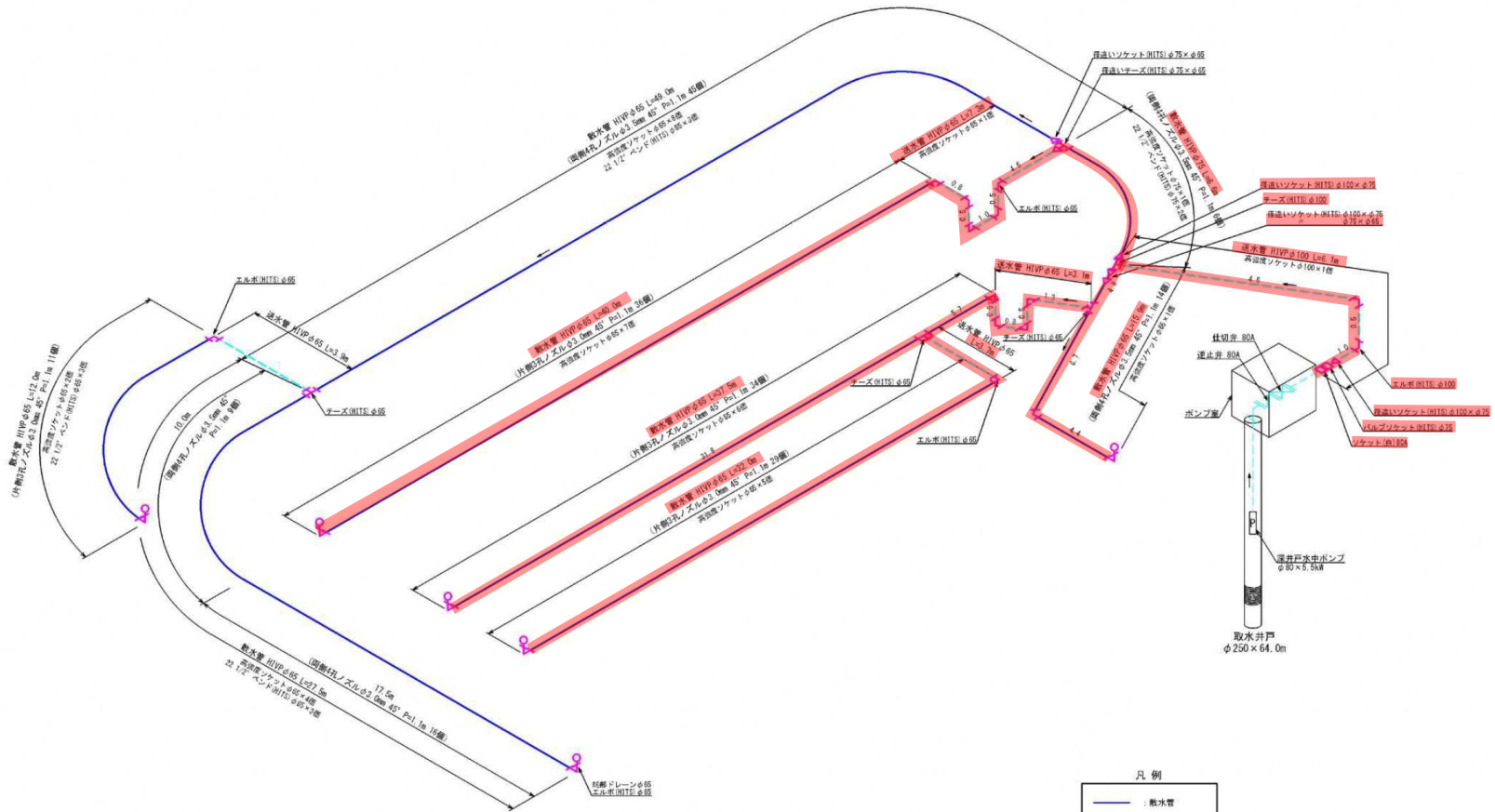
NO. 17付近



案 内 名	
工事箇所	地内
工 事 名	工事
図面番号	※ 全枚数 ※
駅前広場 標準横断面図	
縮尺	1:100
作成	測量
新 潟 県 見 附 市	

駅前広場 配管系統図

S=not



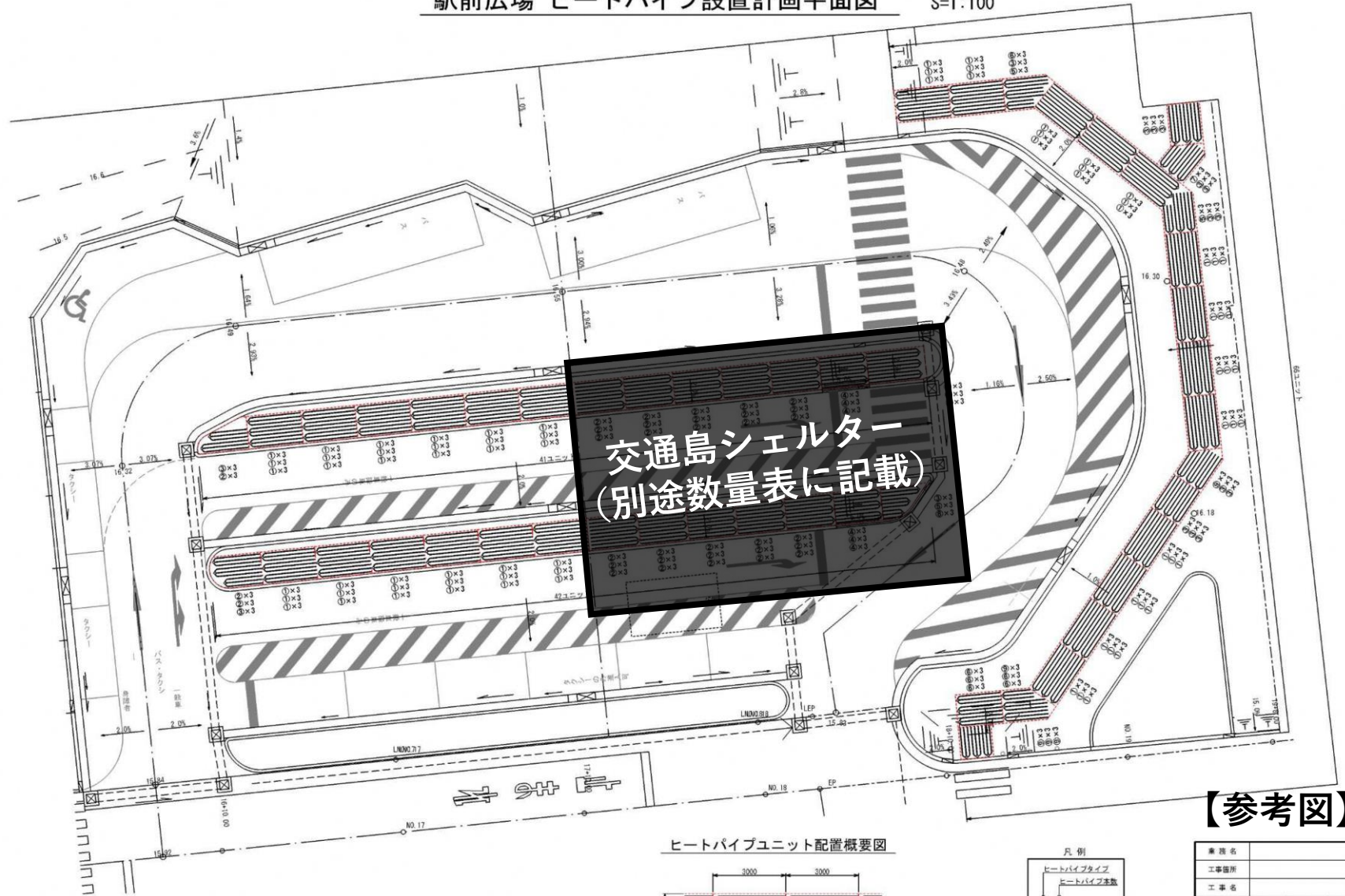
- 凡例
- 赤水管
 - 青水管
 - エルボ
 - チーズ
 - 径違いチーズ
 - 径違いソケット
 - 端部ドレーン

※高強度ソケットは、ダクタイル鉄製高強度ソケットとする

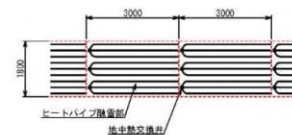
業 務 名	
工 事 場 所	地内
工 事 名	
図 面 番 号	* 全 数 数 *
駅 前 広 場 配 管 系 統 図	層 尺 not
設 計	測 量
新 潟 県 見 附 市	

駅前広場 ヒートパイプ設置計画平面図

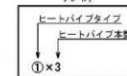
S=1:100



ヒートパイプユニット配置概要図



凡例



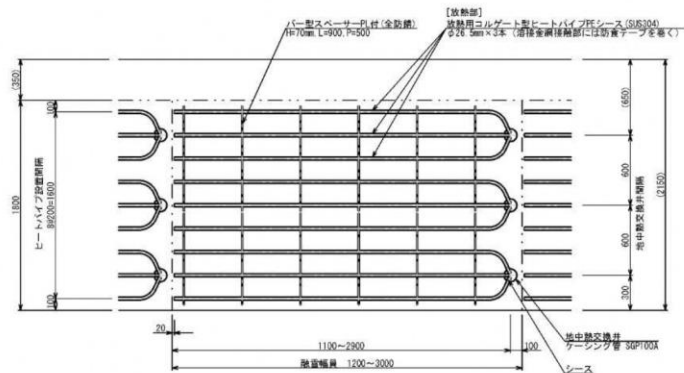
注記
1. 必要に応じて、コンクリート目地を設置する。(別途工事)

【参考図】

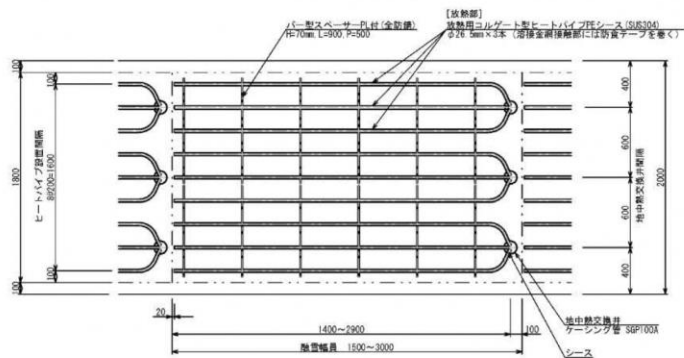
業 務 名	
工事箇所	地内
工 事 名	工事
図面番号	※ 全枚数 ※
駅前広場 ヒートパイプ設置計画平面図	冊数 1:100
設計	測量
監理	監理
新潟県 見 附 市	

S=1:20

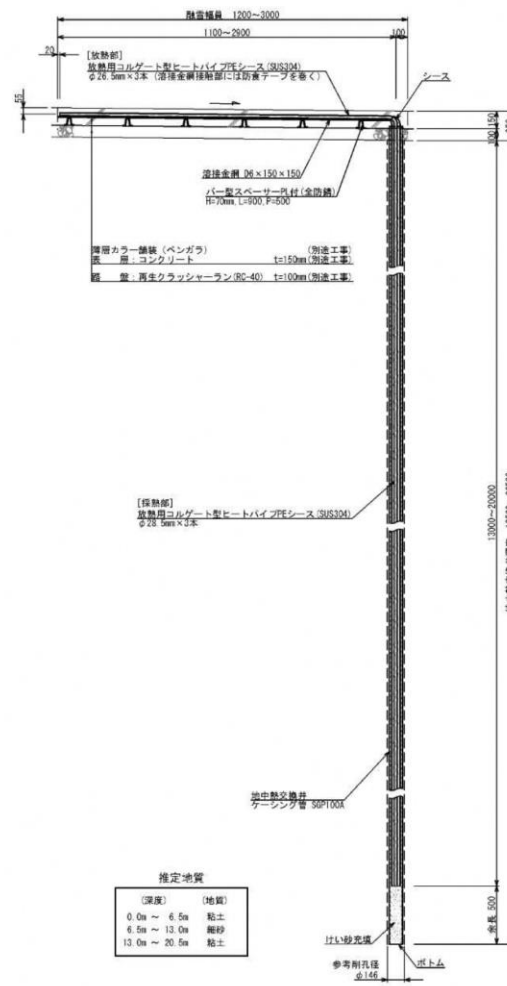
平面図
(ロータリー内歩道部)



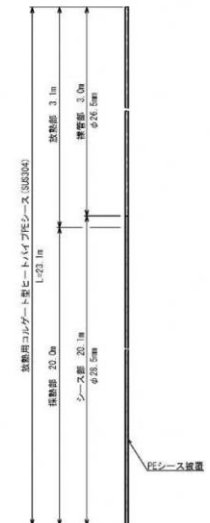
平面図
(ロータリー外周歩道部)



断面図

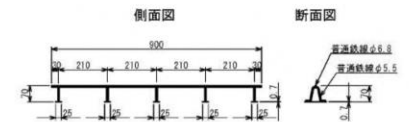


コルゲート型ヒートパイプ姿図
(タイプ①)



※放熱用コルゲート型ヒートパイプの放熱部は施工時、簡易ベンダー等を使用し配管する。

パー型スぺーサーPL付参考図 S=1:10
(全防錆)



【参考図】

数 量 表										
数量単位	地中熱交換機 (3SP100A)			コルゲート型ヒートパイプ (井戸1本当たり)				ヒートパイプ全数 (本)	備 考	
	深さ (m)	本数 (本)	タイプ	本数 (本)	交換熱管長 (m)	交換熱管長 (m)	全長 (m)			
3.0	20.5	76	①	3	3.1	20.0	23.1 (20.1)	234	標準タイプ	
2.7	19.5	33	②	3	2.8	19.0	21.8 (19.1)	99		
2.2	17.5	17	③	3	2.3	17.0	19.3 (17.1)	51		
2.6	19.5	6	④	3	2.7	19.0	21.7 (19.1)	18		
1.6	15.5	3	⑤	3	1.7	15.0	16.7 (15.1)	9		
2.5	18.5	6	⑥	3	2.6	18.0	20.6 (18.1)	18		
1.5	14.5	1	⑦	3	1.6	14.0	15.6 (14.1)	3		
1.2	12.6	1	⑧	3	1.3	12.0	14.3 (12.1)	3		
1.8	15.5	4	⑨	3	1.9	15.0	16.9 (15.1)	12		
合 計		149						447		

※ヒートパイプ全長の〔 〕内は、シース部延長

推定地質

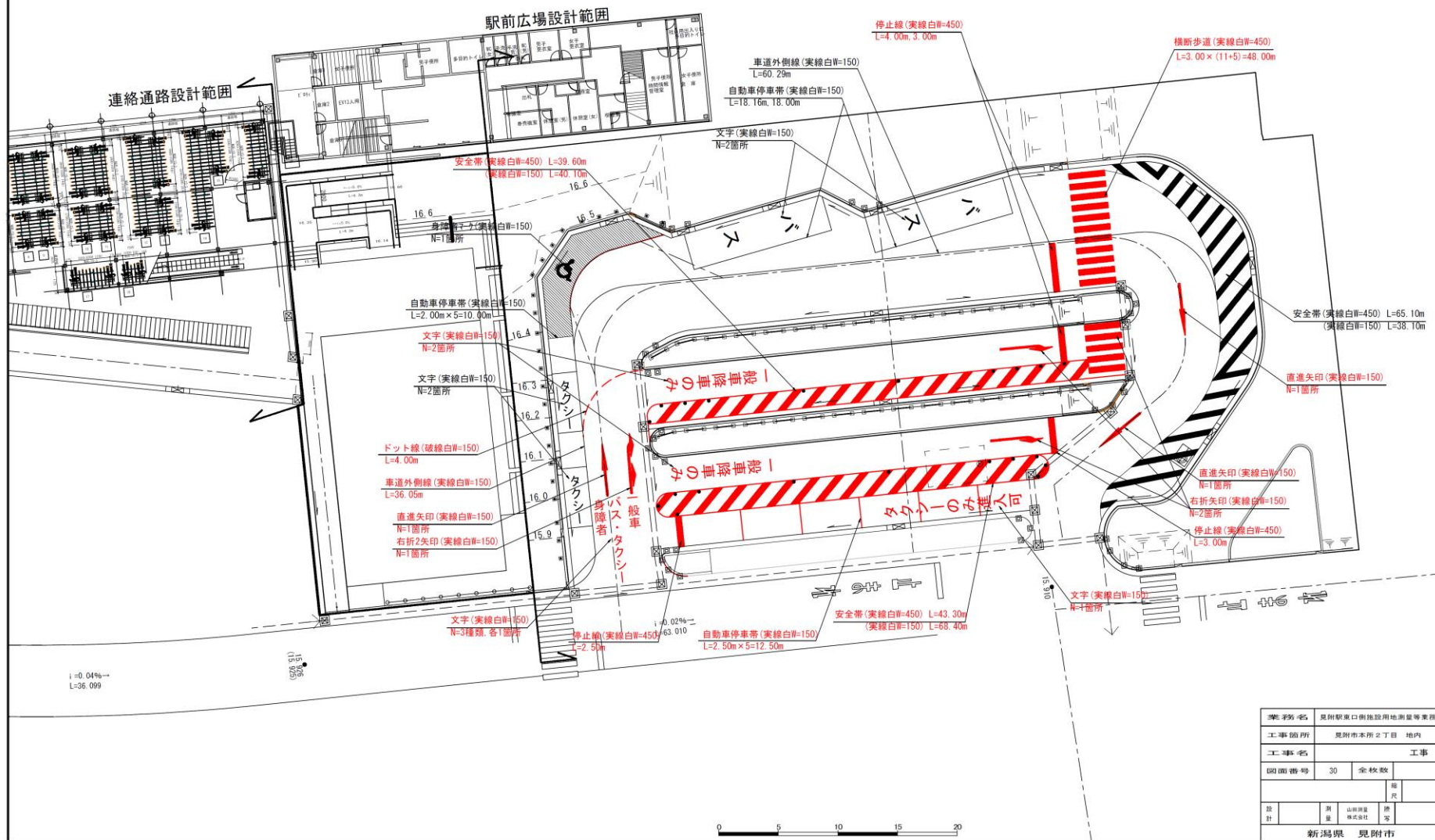
(深度)	(地質)
0.0m ~ 6.5m	粘土
6.5m ~ 13.0m	細砂
13.0m ~ 20.5m	粘土

施肥

1. ヒートパイプ挿入後、地中熱交換井にけい砂を充填する。
2. コルゲート型ヒートパイプの据付勾配は、随装勾配 (1.0%以上) とする。
3. 地質は、実際の地質により変更するものとする。

集 積 名			
工事箇所		地内	
工 事 名		工事	
図面番号	*	全枚数	*
駅前広場 ヒートパイプ掘付標準図		縮尺	1:20
設計	測量	監写	
新潟県 見 附 市			

S=1 : 300

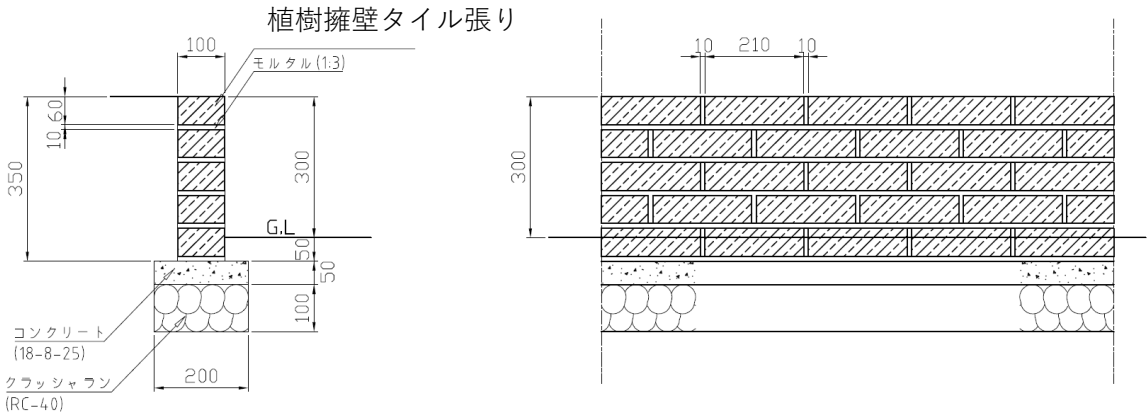


S=1 : 300

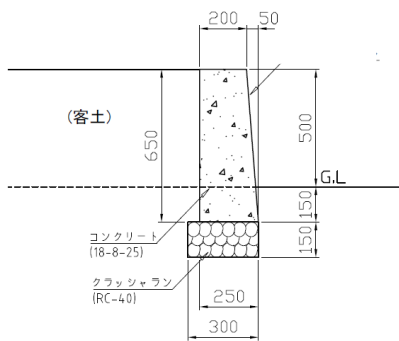


緑地帯構造図

植樹ブロック S=1:10



植樹擁壁 S=1:20





業務名		見附駅東口周辺施設用地測量等業務		
工事箇所		見附市本所2丁目 地内		
工事名		工事		
図面番号		金枚数		
緑地帯構造図			縮尺	図示
設計		測量	山田測量 株式会社	署名
新潟県 見附市				

S=1 : 300

13-14は屋内設置とし外構工事とする。

32 12

	EH-CE5.5-3C	(P11C7-D) 3W
	EH-CE5.5-2C x 2	(P11C7-D) 3W
	EH-CE5.5-2C+3C	(P11C7-D) 3W

— EH-CE5.5-3C (内1C・1) (G22)露出部
— EH-CE5.5-2C×2 (内1C・1) (G36)露出部
— EH-CE5.5-2C+3C (内1C・1) (G36)露出部

	EN-CES5-3C	(P1C7-D) (FEP30)	地中埋設配線
	EN-CES5-2C x 2	(P1C7-D) (FEP40)	地中埋設配線
	EN-CES5-2C+3C	(P1C7-D) (FEP40)	地中埋設配線
	EN-CES5-3C v2	(P1C7-D) (FEP40)	地中埋設配線

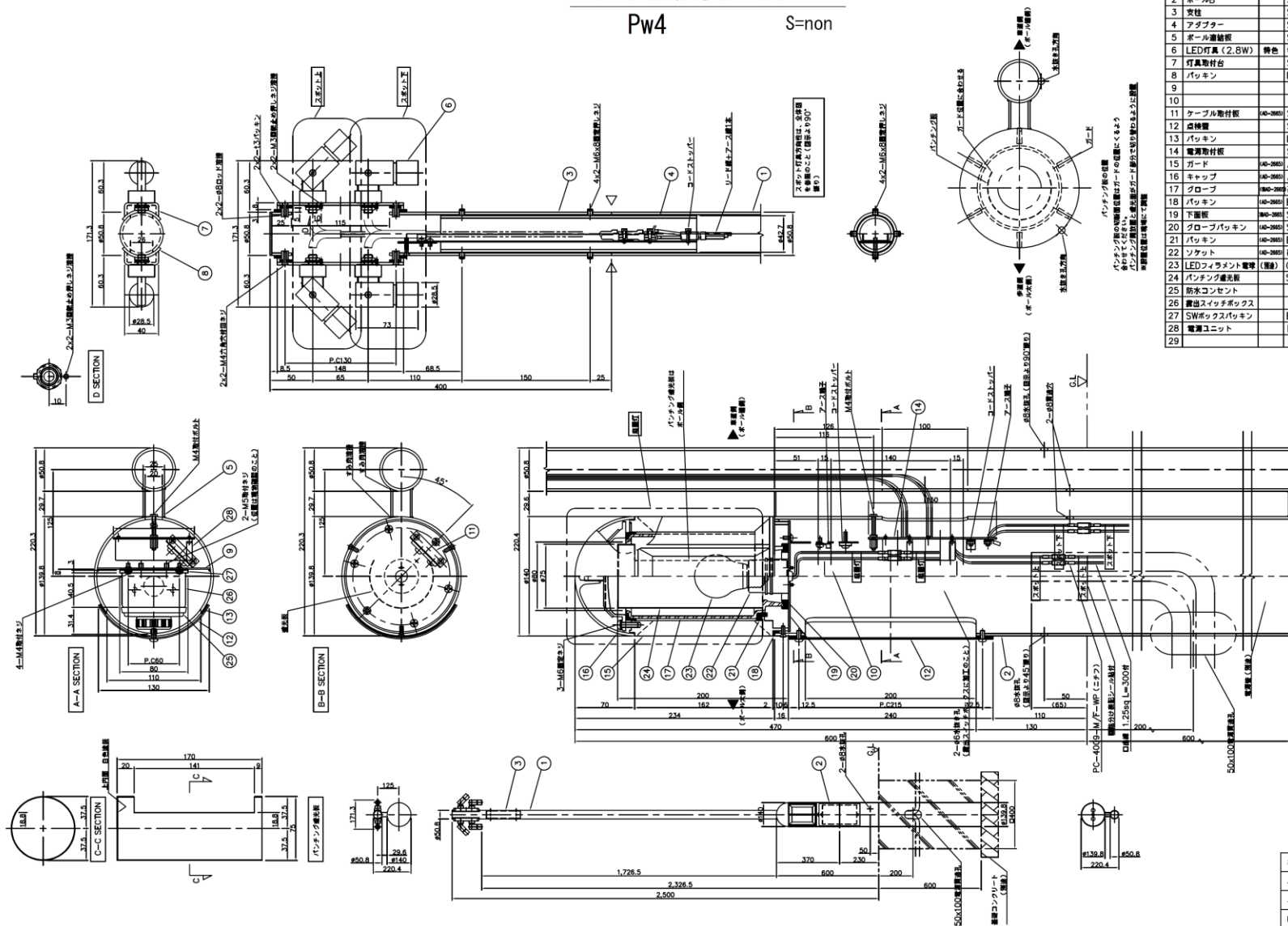
■ケーブル配線で壁立下げ及び貫通部は、適合する保護管にて保護をする

聚前広場
Zw1×9
Pw4×5
Pw6×1

業務名		見附駅東口側施設用地測量等業務		
工事箇所		見附市本所2丁目 地内		
工事名		工事		
図面番号		全枚数		
照明施設平面図			縮尺	1:300
設計		測量	山形測量株式会社	捺印
新潟県 見附市				

Pw4

S=non



品名	品名	分類	材 質	数量	仕 上
1	ボールA		SUS505.81.30	1	指定色塗装
2	ボールB		SUS5139.813	1	指定色塗装
3	ボールC		SUS591.81.30	1	指定色塗装
4	フタカバー		SUS442.71.30	1	指定色塗装
5	ボール・蓋組付板		SUS 22.5	1個	指定色塗装
6	LED付真 (2.8W)	特色	HA40-3230L	4	指定色塗装
7	灯具組付台付		SUS 13.0	2	指定色塗装
8	バック金		EP 13.0	2	黒色
9					
10					
11	ケーブル取付板	40-300	SUS 11.0	1	生色
12	凸輪棒		SUS 11.5	1	指定色塗装
13	バック金		EP 12.0	1	黒色
14	電源ケーブル板		SUS 11.5	1	生色
15	ガード	40-300	ADC	3	指定色塗装
16	キャップ		ADC	1	指定色塗装
17	グローブ	300-200	透明ガラス	1	クリア(上面開口加工)
18	バック金	40-300	EPR	1	黒色
19	下板板	300-200	SUS 12.0	1	白色塗装
20	グローブバックシン	40-300	SI	1	黒色
21	バック金	40-300	EPR	2	黒色
22	LED	40-300	シリコン	1	E26 (防水バックシン様)
23	LEDフロアメント電管 (直管)	(直管)	(フタジョイント)	1	LDGL2-G-FC 2.2W
24	バックシン保護板		SUS 10.5	1	P.C2.04.01 指定色塗装
25	防水コンネット		(オゾンシールド)	1	WF-4100F
26	露出スイッチボックス		(オゾンシールド)	1	DS70191K
27	SW付グローブバックシン		EPS 13.0	1	黒色 (黒色処理)
28	電源ユニット		LE15PPO8	2	LED0-3230
29					

※回路分け、点灯時間につきましては要確認
お願い致します。

業務名	見附駅東口側施設用地測量等業務				
工事箇所	見附市本所2丁目 地内				
工事名	工事				
図面番号		全校数			
照明施設姿図(2)				縮尺	図示
設計		測量	山田測量株式会社	捺印	
新潟県 見附市					

S=non



※回路分け、点灯時間につきましては要確認
 お願い致します。

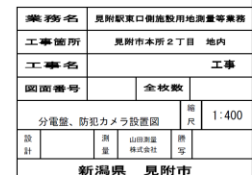
業務名	見附駅東口側施設用地測量等業務		
工事箇所	見附市本所 2丁目 地内		
工事名	工事		
図面番号		全枚数	
照明施設姿図(3)		咫尺	図示
設計	測量	山田測量株式会社	繪写
新潟県 見附市			

S=non



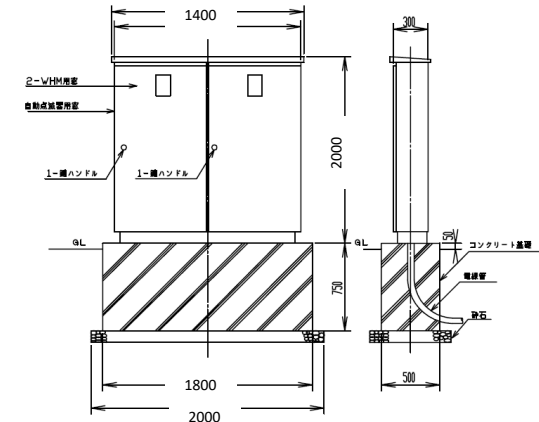
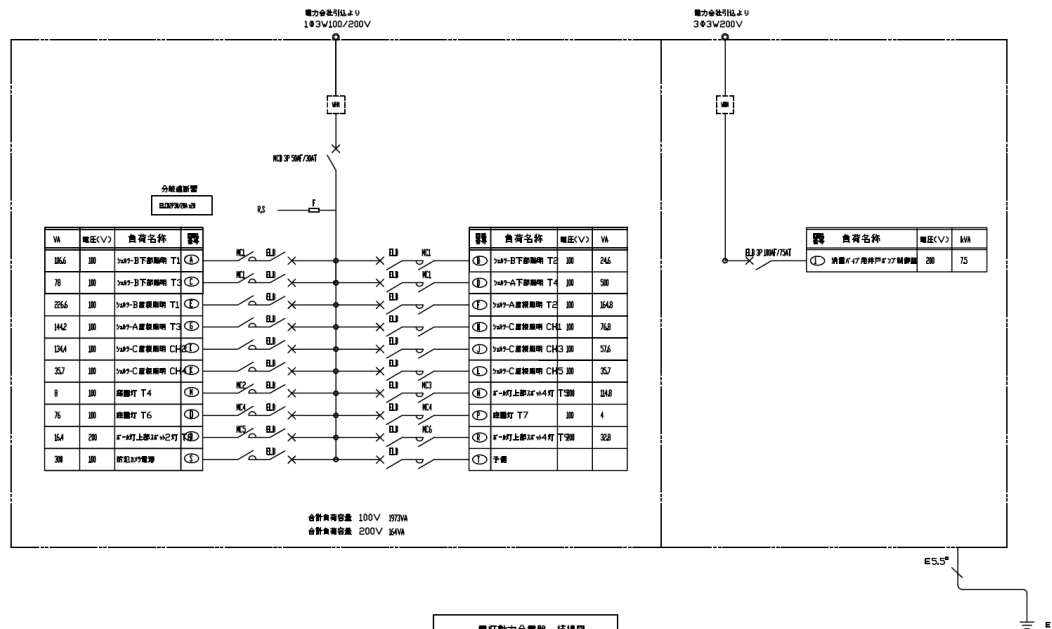
業務名	見附駅東口側施設用地調査等業務		
工事箇所	見附市本庁2丁目 地内		
工事名	工事		
図面番号	金枚数	冊	図示
照明施設要図(4)			
設計	測量	山田測量株式会社	障子
新潟県 見附市			

S=1 : 400

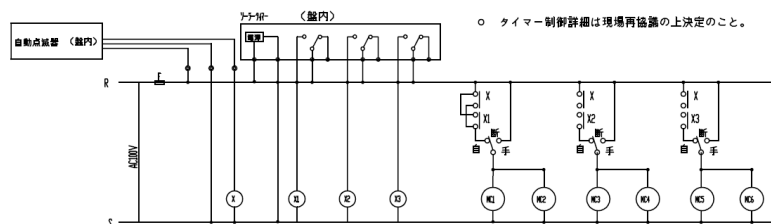


電灯分電盤結線図

S-not



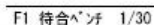
電灯引込分電盤 参考図



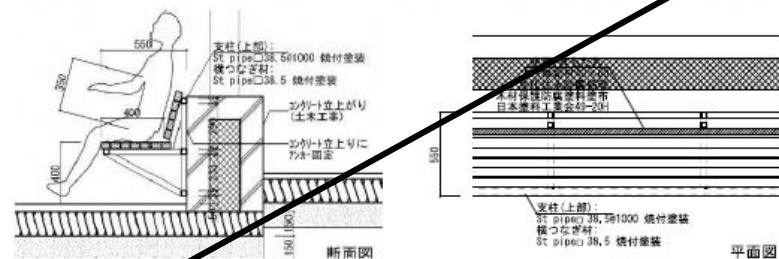
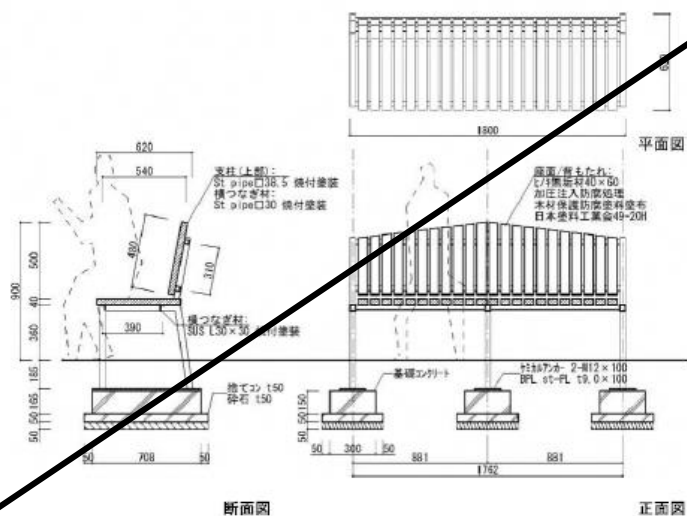
- 分電盤は分電盤専門メーカーの製作したもので製作所の銘板を扉の内側にはりつけること。
- 分電盤は屋外用ステンレス製とし、扉の板厚は2.0mm以上もしくは、鋼板SPC溶融亜鉛メッキ、板厚3.2mm以上とする。
- 扉はアンカーボルトにより固定する。
- 扉は1枚扉とし、窓は透明アクリル樹脂板(5mm以上)又は透明ガラス(ワイヤープレート6mm以上)とし、鍵ハンドル取外式を使用すること。
- メーカーベース部には内扉に封印用のステンレスビスをつけること。
- 塗装はエッチングプライマー下地処理を施し、指定色に焼付2回塗装仕上げる。
- 扉の番号は扉の内側にかくれるようにする。
- 扉内は換気に十分な配慮を行い結露無き様にする。
- 寸法は参考値とする。

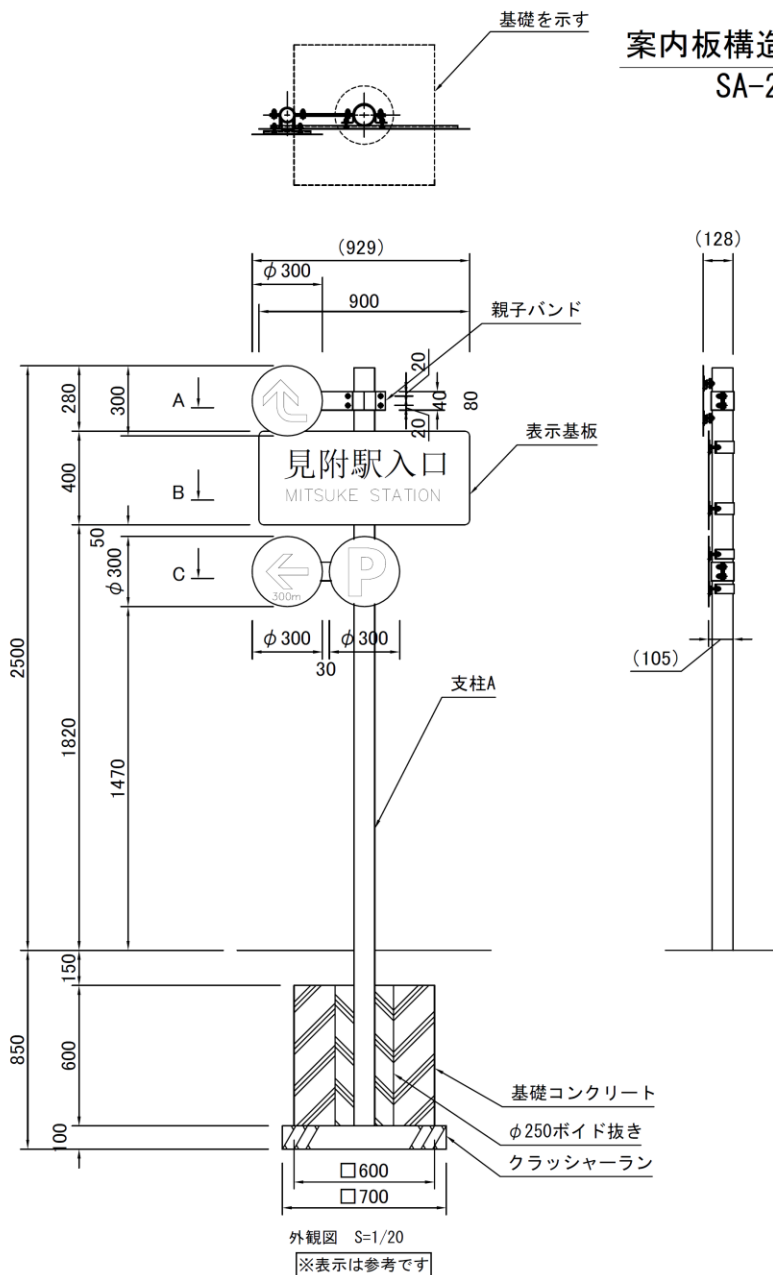
発注者名	見附駅東口駅施設用地調査等業務		
工事箇所	見附市本所 2丁目 地内		
工事名	工事		
図面番号	金枚数	縮尺	図示
電灯分電盤結線図			
設計	測量	山田洋行 株式会社	監 示
新潟県 見附市			

案内板位置図

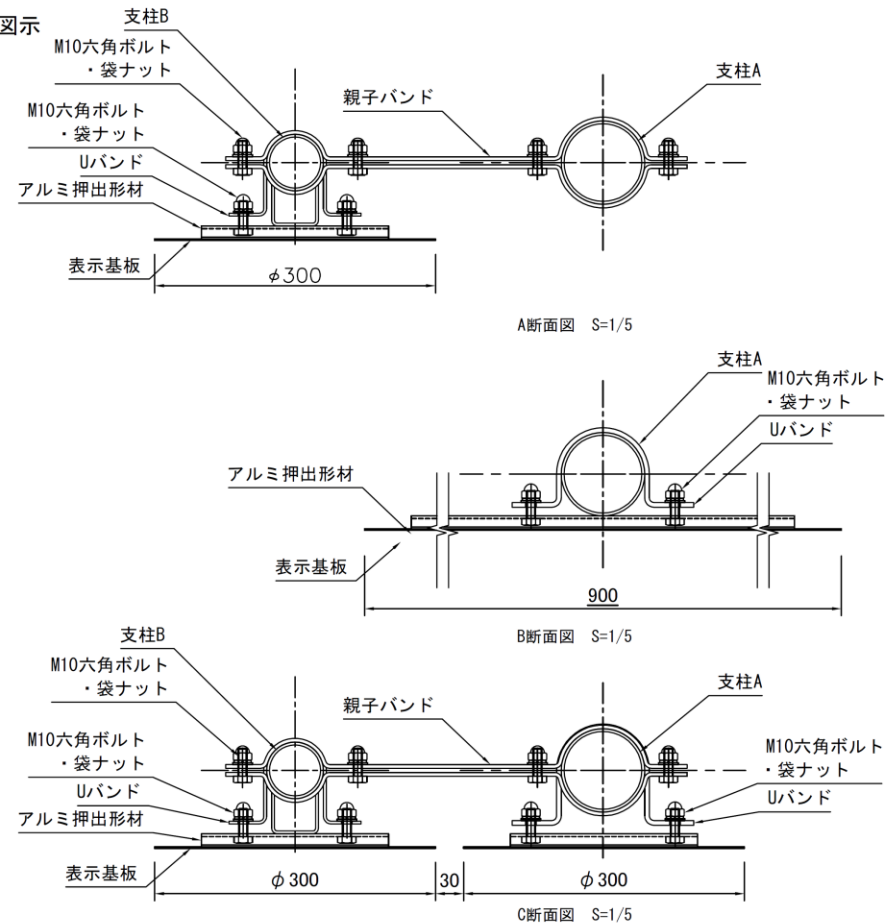


F3 広場ペンチ 1/30





S=図示



支柱A: φ89.1×t3.0 ステンレス鋼管 合成樹脂焼付塗装(指定色)
支柱B: φ60.5×t3.0 ステンレス鋼管 合成樹脂焼付塗装(指定色)
親子バンド: ステンレス鋼板加工品 合成樹脂焼付塗装(指定色)
Uバンド: アルミ加工品
表示基板: t1.5ステンレス鋼板加工 合成樹脂焼付塗装(指定色)
表示方法: エッチング 色差し1色

※表示内容は打合せにより決定とする。

※塗装色は日塗工等で指示とする。

※ISO9001認証取得企業で品質管理された製品です。

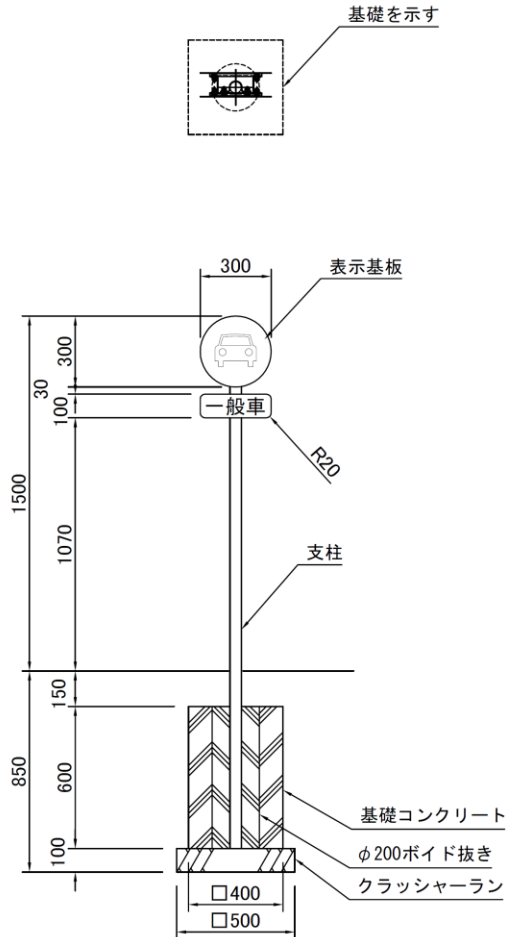
※(一社)日本公園施設業協会の生産物賠償責任保険に加入した製品です。

業 務 名	見附駅東口側施設用地測量等業務		
工事箇所	見附市本所2丁目 地内		
工事名	工事		
図面番号	全枚数	張数	図示
案内板構造図(0)			
設計	測量	山田建設株式会社	図示
新潟県 見附市			

案内板構造図(0)

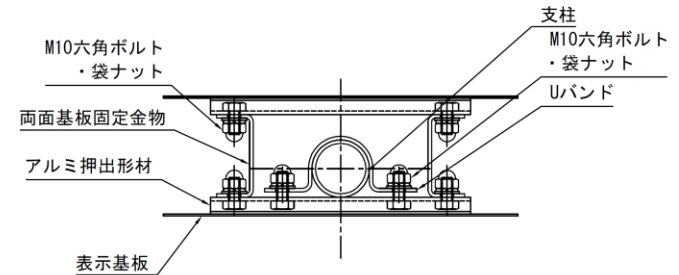
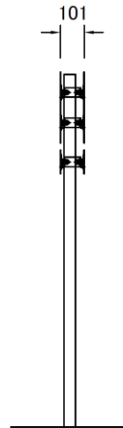
SA-4

S=図示



外観図 S=1/20

※表示は参考です



平断面図 S=1/4

支柱：φ48.6×t3.0ステンレス鋼管 合成樹脂焼付塗装（指定色）
Uバンド：アルミ加工品
表示基板：t1.5ステンレス鋼板 合成樹脂焼付塗装（指定色）
両面基板固定金物：アルミ加工品
表示方法：エッチング 色差し1色

※表示内容は打合せにより決定とする。
※塗装色は日塗工等で指示とする。

※ISO9001認証取得企業で品質管理された製品です。
※（一社）日本公園施設業協会の生産物賠償責任保険に加入した製品です。

業務名	見附駅東口側施設用地調査等業務			
工事箇所	見附市本所2丁目 地内			
工事名	工事			
図面番号	全枚数	図	示	
案内板構造図(0)				
設計	測量	山田英雄 株式会社	監 理	
新潟県 見附市				

